



Xanadu 環境、社会、ガバナンス管理

最終更新日: 2024年11月7日

自動翻訳

これらの資料は、翻訳ソフトウェアを使用してお客様の便宜のために翻訳されています。正確な翻訳をご提供できるよう相当な努力を払っておりますが、いかなる自動翻訳も人間の翻訳者に代わることはなく、そのようなことは意図されておられません。翻訳は「現状のまま」提供されています。他言語への翻訳の的確性、信頼性または正確性については、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。翻訳ソフトには限界があるため、一部のコンテンツが正確に翻訳されていない場合があります。これらの資料の公用言語は英語です。翻訳の際に生じる相違または不一致は、コンプライアンスまたは履行の目的に関しては拘束力を有さず、法的効力はないものとします。

ここで示したいいくつかの例と図は、説明の目的でのみ提供されています。ServiceNow 製品またはサービスへの実際の関連付けやつながりは意図されておらず、推測されるものではありません。

ServiceNow, ServiceNow のロゴ、Now、その他の ServiceNow マークは米国および/またはその他の国における ServiceNow, Inc. の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標です。

下記の ServiceNow ウェブサイト利用規約をお読みください。 www.servicenow.com/terms-of-use.html

自動翻訳

本社
2225 Lawson Lane
Santa Clara, CA 95054
United States
(408) 501-8550

目次

環境、社会、ガバナンス管理.....	5
ESG Management の探索.....	7
の要素 ESG Management.....	9
重要なトピックのワークフローとステータス.....	10
ESG Management のユースケース.....	12
ESG ワークスペース.....	13
[自分のタスク] ページビュー.....	17
ESG ワークスペース ユーザー.....	18
持続可能な IT の管理.....	19
スコープ 3 ダッシュボード.....	23
ESG Content Accelerator.....	27
排出係数ライブラリ.....	28
ESG Management の構成.....	29
ESG Management の実装.....	29
重要なトピックの作成.....	37
ESG 目標の作成.....	39
ESG ターゲットの作成.....	45
排出係数ライブラリの設定.....	48
新規スケジュールを作成します.....	51
関連リストのグループ化の作成.....	51
持続可能な IT の構成.....	53
を使用してフレームワークをアクティブ化または更新し、引用をインストールする ESG Content Accelerator.....	57
ESG の引用ドキュメントをフィルター.....	58
スコープ 3 ダッシュボードの構成.....	58
ESG Management でのエンティティの管理.....	61
GRC：メトリクス.....	69
GRC：メトリクス の探索.....	70
GRC：メトリクスの構成.....	80
GRC：メトリクス を使用したデータ提供.....	114
GRC：メトリクス の参照.....	124
ESG Management の使用.....	129
ESG Management における開示.....	129
レポートフレームワーク.....	136
他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携.....	137
Microsoft 365 と ServiceNow レポートの統合.....	139
ESG Management と高度なリスクアセスメントの統合.....	148
ESG Management と Watershed の統合.....	151
ESG Management と Urjanet の統合.....	157
ESG Management と Workday の統合.....	164

ESG Management との統合SAP Concur.....	170
ESG ワークスペース の概要ページ.....	176
ESG ワークスペース の目標の概要.....	176
ESG ワークスペース での開示の概要.....	178
ESG Management の参照.....	179
ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント.....	179
とともにインストールされるロール ゴールフレームワーク.....	188
ドメインセパレーションと ESG Management.....	190

環境、社会、ガバナンス管理

ServiceNow® 環境、社会、ガバナンス管理 アプリケーションは、環境、社会、およびガバナンス (ESG) のすべてのコミットメントの一元管理に役立ちます。ESG Management アプリケーションでは、ESG イニシアチブでの進捗状況を簡単にレポートすることもできます。

ESG Managementの概要

ESG Management アプリケーションの使用。

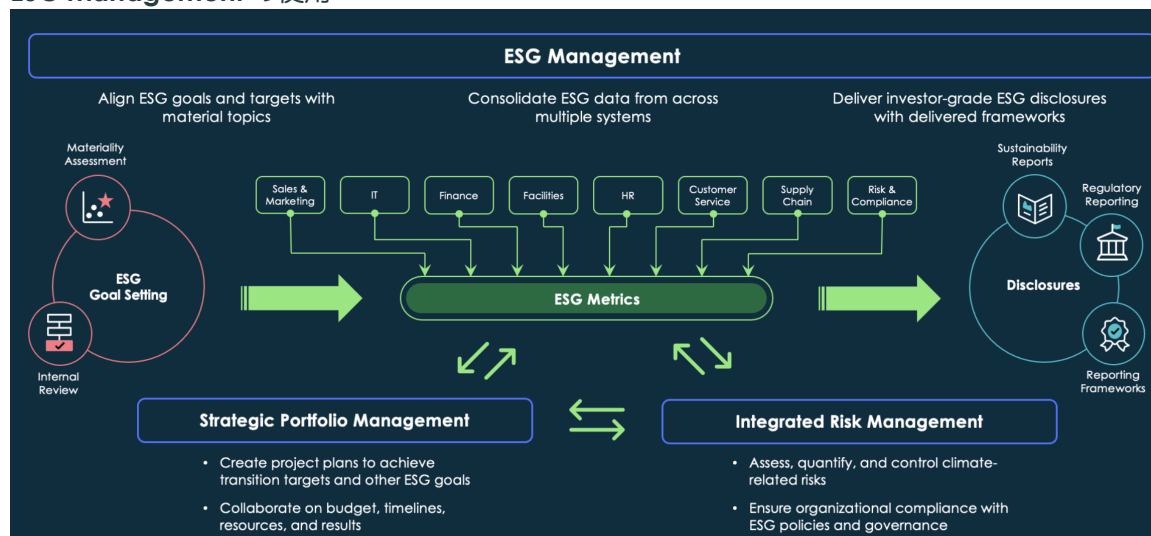
ESG とは、社会的責任のある投資家が関心を持つ 3 本の柱である、環境、社会、およびコーポレートガバナンスを指します。社会的責任のある投資家は、単に利益を考慮するのではなく、自身の価値観を投資に取り入れることが重要であると考えています。ESG フレームワークでは、投資の意思決定プロセスにおいて、持続可能性や等価性などの要因の影響が考慮されます。

ほとんどの組織は、ESG コミットメントをビジネス戦略に統合する方法をレポートする必要があります。ESG イニシアチブの完全なリストは定義されていません。ESG コミットメントの一部の例は次のとおりです。

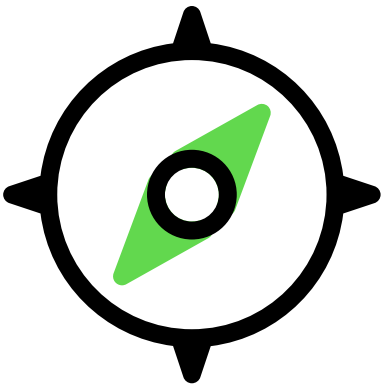
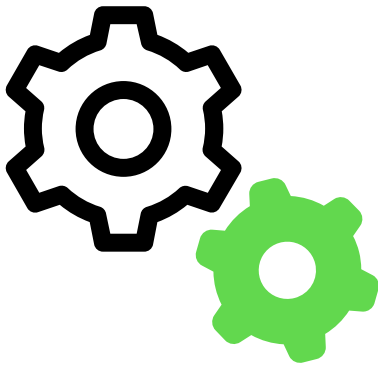
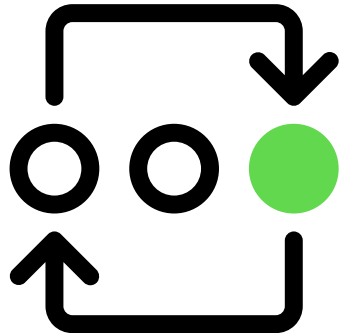
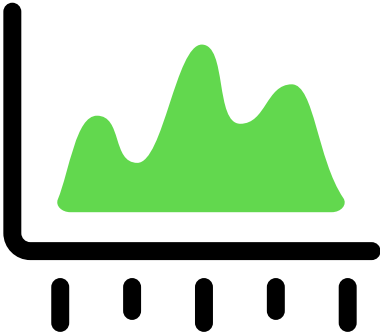
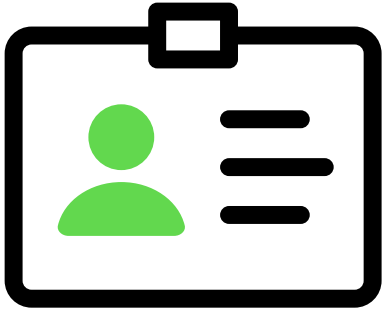
- 責任ある調達
- 職場における多様性、多様性受け入れ、相互信頼
- 電子廃棄物の削減
- カーボンフットプリントの削減

次の画像は、さまざまな部門が ESG レポートでどのように連携しているかを示しています。

ESG Management の使用



開始するには

探索  ESG プログラムマネージャーが ESG Management アプリケーションを使用して、環境、社会、ガバナンスに関する懸念に対処する方法について説明します。	構成  ESG Management アプリケーションを構成します。	データ連携  ESG Management アプリケーションをプロジェクトポートフォリオ管理、Integrated Risk Management、Watershed などの他のアプリケーションと統合します。
使用  引用のインポート、開示の作成、開示の更新などのタスクには、ESG Management アプリケーションを使用します。	概要ページ  さまざまなレポートの ESG Management ワークスペースの概要ページを表示します。	参照  ESG Management とともにインストールされるフィールド、テーブル、ロール、プロパティなどのコンポーネントに関する詳細を取得します。

自動翻訳

ESG Management の実装

ESG Management アプリケーションのセットアップチェックリストを使用すると、ESG Management アプリケーションをすばやく実装できます。

学習内容

Environmental, Social, and Governance (ESG) とは [🔗](#)

ESG Management の探索

ServiceNow® ESG Management アプリケーションは、環境、社会、ガバナンス (ESG) のイニシアチブの管理に役立ちます。

ESG Management の概要

ほとんどの組織は ESG イニシアチブに取り組んでいますが、すべての ESG プログラムを管理するための中心的なツールを持たない組織もあります。ツールがなければ、ESG の取り組みに対する可視化を得られず、進捗状況を追跡できません。ESG Management アプリケーションは、この問題の解決に役立ちます。このアプリケーションを使用すると、企業は ESG プログラムを管理して、ESG の目標と進捗状況を伝達できます。

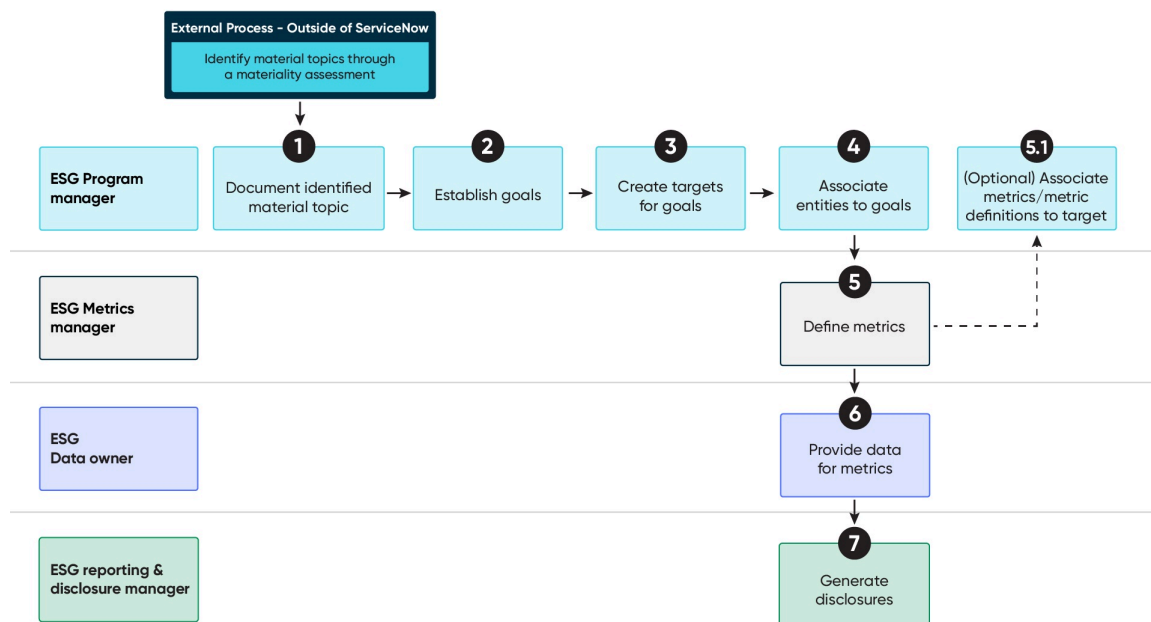
ESG Management アプリケーションを使用した ESG レポートのビジネス上のメリットは次のとおりです。

- ブランドの評判を高めます。
- 競争上の優位性が得られます。
- 投資家を引き付け、より多くの資本を得ることができます。
- 規制要件への準拠が可能になります。
- 倫理的で透明性の高い安全なビジネスプラクティスを通じて、強力なコーポレートガバナンスを確立します。
- 企業の評判が向上します。
- 顧客からの信頼性が向上します。
- リスクと機会に関する透明性を促進します。

ESG Management のワークフロー

次の図は、各ユーザーロールの ESG Management のワークフローを示しています。

ESG Management アプリケーションの設定と使用のワークフロー



ドキュメント重要なトピック

炭素排出量の管理など、追跡する重要なトピックを決定します。詳細については、「[重要なトピックの作成](#)」を参照して開始し、[重要なトピックのワークフローとステータス](#)を確認してください。

目標の設定

目標は達成したい成果であり、ターゲットは目標の達成に役立つ具体的で測定可能なマイルストーンです。ESG 目標の作成ページでは、目標の入力方法について説明し、目標の進捗状況の計算方法などの役立つ情報へのリンクが含まれています。詳細については、「[ESG 目標の作成](#)」を参照してください。

ターゲットを作成

ターゲットは、目標に対してどれだけうまくやっているかを示します。[ESG ターゲットの作成](#)ページには、その方法が示されています。

エンティティを目標に関連付ける

目標とサブ目標について追跡する必要があるエンティティを関連付けます。この関連付けは、追跡の目的で作成されます。目標に関連付けられたエンティティは、目標を追跡する役割を担います。詳細については、「[エンティティを目標に関連付ける](#)」を参照してください。

測定基準の定義

メトリクスの定義とメトリクスを作成して、パフォーマンス、および組織が目標やターゲットに向けてどのように進んでいるかを測定します。メトリクスとは何か、およびメトリクスが ESG Management にどのように役立つかについて深く理解するには、次を参照してください [GRC：メトリクスの探索](#)

ターゲットにメトリクスを追加

必要に応じて、ターゲットを作成した後、ターゲットのソースを追加できます。ソースは、ターゲットに寄与するメトリクスまたはメトリクス定義にすることができます。詳細については、「[ターゲットのソースの追加](#)」を参照してください。

手動メトリクスのデータを提供するか、自動メトリクスのデータを自動的に収集します

手動または自動でメトリクスのデータを収集します。手動メトリクスの場合はデータが手動で指定する必要があり、自動メトリクスの場合はスケジュールされた時刻に自動的

に収集されます。詳細については、「[メトリクスデータタスクのデータ入力](#)」を参照してください。

開示を生成

開示はレビューのために ESG プログラムマネージャーに送信され、承認後、レポートを容易にするためにスプレッドシートにダウンロードできます。Microsoft 365 for ServiceNow Reportingを使用して、Microsoft Wordドキュメントに開示を作成できます。開始するには [Microsoft 365 と ServiceNow レポートの統合](#) を参照し、詳細については [ESG Management における開示](#) を確認してください。

ESG Management のメリット

価値・効果	機能	ユーザー
ホームページのインタラクティブダッシュボードから ESG アクティビティを管理します。	ESG ワークスペース	ESG プログラムマネージャー、ディスクロージャーマネージャー。
[自分のタスク] ビューの単一のダッシュボードから、個人とチームのタスクを監視します。	[自分のタスク] ページビュー	ESG プログラムマネージャー
ESG イニシアチブを決定するための重要なトピックを作成する	重要なトピックの作成	ESG プログラムマネージャー
ESG 目標を設定して、選択した重要トピックの進捗状況を追跡します。	ESG 目標の作成	ESG プログラムマネージャー
ESG ターゲットを作成して、ESG 目標に向けた進捗状況を追跡します。	ESG ターゲットの作成	ESG プログラムマネージャー
GRC：メトリクスを使用して、目標とターゲットを追跡し、データを収集し、データを報告します。	GRC：メトリクスの探索	メトリクスマネージャー
組織の開示を作成します。情報開示により、投資家は企業、そのリスク体制、持続可能性基準、ESGコンプライアンスについて、十分な情報に基づいた意思決定を行うことができます。	#unique_21	レポート開示マネージャー、ESG プログラムマネージャー

の要素 ESG Management

環境、社会、ガバナンス (ESG) イニシアチブを開始する前に、ESG Management アプリケーションを構成する重要なトピック、メトリクス、開示などの重要な要素について理解してください。

ESG プログラムの主要コンポーネントは次のとおりです。

- 重要なトピック：取り組むテーマ。
- 目標：トピックに基づいて達成する目標。
- ターゲット：目標の進捗状況を追跡および測定するために設定されたターゲット。
- 排出アクティビティと係数：排出につながるアクティビティ。
- 開示:選択した重要なトピックに関する会社の進捗状況を示すために生成されたレポート。

重要なトピック

重要なトピックとは、組織が経済、環境、および人に与える最も大きい影響を表すトピックです。企業は、重要性アセスメントを実行することによって、これらの重要なトピックを特定します。これらのトピックは、人権への影響など、組織が社会、環境、および人々に及ぼす最も重大な影響を反映し

ています。重要なトピックの例としては、電子廃棄物の管理、寄付、ボランティアなどがあります。重要なトピックの状況については、「[重要なトピックのワークフローとステータス](#)」を参照してください。

目標

目標とは、選択した重要なトピックに影響を与えるために組織が自ら設定する目的のことです。目標を重要なトピックにリンクさせることができます。目標の例を次に示します。

- 2035 年末までに再生可能エネルギーを使用する。
- 職場の多様性を 50% 向上させる。

目標にサブ目標を設定することもできます。さまざまなエンティティを目標に関連付けて、目標達成の責任者を追跡することもできます。

ESG Management を他の製品と統合すると、次も可能になります。

- プロジェクトポートフォリオ管理 と統合すると、目標を達成するために行われている作業をキャプチャするプログラムおよびプロジェクトを追加できます。
- Integrated Risk Management と統合すると、リスク、リスクステートメント、ポリシー、コントロール目標、および問題を目標に追加して、ガバナンスフレームワークを構築できます。

統合の詳細については、「[他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携](#)」を参照してください。

ターゲット

ターゲットは、目標を測定するのに役立ちます。たとえば、職場の多様性を 50% 増やすという目標を達成するために、2035 年の第 1 四半期までに多様な人材を 30% 雇用することをターゲットにできます。

開示

ESG 開示は、さまざまな ESG 問題におけるパフォーマンスに関する組織による公開レポートの形式です。

排出アクティビティと係数

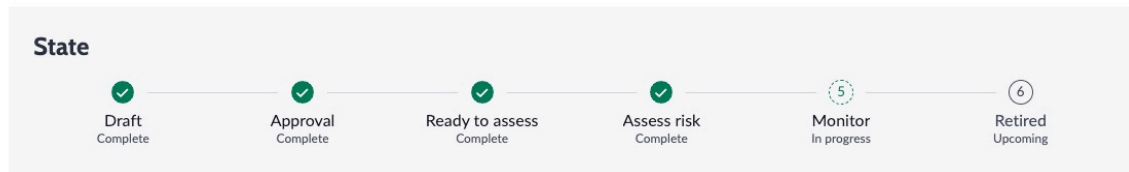
排出アクティビティとは、温室効果ガス (GHG) など汚染物質の排出に関連するあらゆるアクティビティを指します。

大気中への GHG の排出は、主にこのアクティビティとガスを排出する製品によるものです。利用可能な活動の単位あたりの GHG 排出量を推定するには、排出係数と呼ばれる係数を使用する必要があります。排出係数とは、アクティビティデータを GHG 排出量に変換するための係数です。これは、アクティビティまたはプロセスの単位に関連する、指定されたソースの平均排出率です。ESG プログラムマネージャーは、排出アクティビティと係数のライブラリを設定する必要があります。

重要なトピックのワークフローとステータス

マテリアリティは ESG への取り組みの原点です。重要なトピックが特定された場合にのみ、それを追跡し、成功を測定できます。

次の画像は、重要なトピックのステータスを示しています



す。

重要なトピックのステータスは次のように定義されます。

1. **ドラフト:**すべての重要なトピックはこのステータスで始まります。このステータスでは、次のフィールドを更新できます。
 - 名前
 - 分類
 - ビジネスの成功にとって重要
 - 利害関係者にとっての重要性
 - 優先度
 - 承認者
2. **承認:**このステータスでは、ESG プログラムマネージャーがマテリアリティピックのレビューを行い、すべてのフィールドがマテリアリティアセスメントの結果に合わせて正確に更新されていることを確認します。レビューが完了すると、ステータスは [監視] ステータスに変更されます。たとえば、特定された重要なトピックが炭素排出量である場合、レビュー担当者は次のような側面についてレビューする可能性があります。
 - マテリアリティ(重要課題)がマテリアリティアセスメントに準拠しているかどうか。
 - 重要なトピックの説明が正確である場合。
3. **評価準備完了:**このステータスは、ESG リスク管理 プラグインがインストールされ、アクティブ化されている場合にのみアクセスできます。このステータスでは、重要なトピックがリスクアセスメントのために送信されます。
4. **リスク評価:**このステータスは、ESG リスク管理 プラグインをインストールしてアクティブ化している場合にのみアクセスできます。このステータスでは、重要なトピックリスクが ESG プログラムマネージャーによって評価されます。
5. **監視:**監視の観点から重要なトピックを監視するように設計されたこのステータス。重要なトピック属性のいずれかが変更されるまで、現在の状態のままです。更新が必要な場合は、重要なトピックを [ドラフト] ステータスに戻す必要があります。これは、その後のマテリアリティ評価の後に発生する可能性があり、次の属性に変化が生じる可能性があります。
 - 優先度
 - ビジネスの成功にとっての意義
 - 利害関係者にとっての重要性

重要なトピックが [ドラフト] ステータスに戻っても、目標とターゲットへの下流の影響はありません。ESG ワークスペースホームページのマテリアリティマトリクスには、監視ステータスの重要なトピックのみが表示されます。重要なトピックが [監視] ステータスの場合でも、リスクアセスメントを再開できます。
6. **廃止:**このステータスは、重要なトピックが組織に関連する問題として組織によって追跡されなくなった場合に、重要なトピックを廃止するために使用されます。

ESG Management のユースケース

ESG のユースケースは、ESG プログラムの設定、測定基準の定義、測定基準のデータ収集、規制フレームワークの遵守、開示の生成など、複数のプロセスで構成されます。

ESG Management プログラムのセットアップ

ESG アドミニストレーターおよび ESG プログラムマネージャーは、ESG プログラムの設定から始める必要があります。セットアップには次の手順が必要です。

- **重要性の評価:**重要性を評価することで、最も重要な重要なトピックと、ステークホルダーと組織に影響を与えるそれぞれの領域を識別できます。まず、利害関係者にとって最も重要で、最も大きな影響力を持つ重要なトピックを特定します。トピックの識別は外部で行われ、ESG Management アプリケーションに文書化されます。
- **目標とターゲットの定義:**ESG プログラムマネージャーは、重要なトピックの目標とターゲットを作成することを選択できます。

目標とターゲットは、ESG イニシアチブの成功を推進し、測定する上で重要な役割を果たします。以下に簡単な説明を示します。

1. **目標:**ESGイニシアチブの目標は、サステナビリティへの取り組みの全体的な目的と方向性を定義する、広範で長期的な願望です。多くの場合、会社のミッション、価値観、ステークホルダーの期待に沿ったものです。ESG目標の例としては、温室効果ガス排出量の削減、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、コーポレートガバナンスの改善などがあります。
2. **ターゲット:**ターゲットは、より広範な ESG 目標を達成するために設定された、具体的で測定可能な期限付きの目標です。明確さと焦点が明確になり、組織が進捗状況を追跡し、説明責任を実証できるようになります。環境への影響、社会問題、ガバナンスの実践など、ESG のさまざまな側面について目標を設定できます。ターゲットを設定するときは、ターゲットがデータを取得するソースも指定する必要があります。
 - **環境目標:**これらは、会社の環境フットプリントの削減と持続可能な慣行の促進に関連しています。その中には、炭素排出量の削減、水とエネルギーの節約、廃棄物管理、再生可能エネルギーの採用などの目標が含まれます。
 - **ソーシャルターゲット:**社会課題に取り組み、コミュニティや従業員にプラスの影響を与えることに重点を置いています。社会的目標の例としては、労働力の多様性の向上、公正な労働慣行の確保、従業員の福利厚生と安全の促進、コミュニティ開発イニシアチブの支援などがあります。
 - **ガバナンス目標:**これらの目標は、堅牢なガバナンスフレームワークと倫理的なビジネス慣行の実装に重点を置いています。これには、透明性と説明責任の強化、取締役会の独立性の強化、責任ある役員報酬の促進、法的および規制要件の遵守の確保が含まれる場合があります。
- **スコーピングエンティティ:**各目標は、進捗状況を追跡する必要があるエンティティに関連付けられています。

メトリクスの定義

ESG 測定基準アドミニストレーターは、包括的なデータ収集プロセスを確立し、すべての業務にわたって関連する ESG データを収集します。データは、メトリクスの定義を使用して収集できます。メトリクスの定義には、**手動**、**計算**、**自動**の3種類があります。炭素排出量、エネルギー消費、廃棄物管理、従業員の多様性、職場の安全性、サプライチェーンの持続可能性、コーポレートガバナンスなど、業界のベストプラクティスに沿った主要な ESG 測定基準を特定します。適切な追跡システムを実装し、手動メトリクスのデータプロバイダーなどの関連するステークホルダーを関与させることで、データの正確性を確保します。

測定レポート

重要なトピックが特定されると、ESG 測定基準アドミニストレーターと ESG プログラムマネージャーは、組織にとって最も重要な測定基準を収集します。事前定義されたしきい値と目標に対するこれらのメトリクスのパフォーマンスについてレポートしたり、メトリクスがしきい値を満たさなかった場合に発生する問題を文書化したりできます。

レポートフレームワーク

ESG プログラムマネージャーは、グローバル報告イニシアチブ (GRI)、米国サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) などの認知された基準に基づいて ESG 報告フレームワークを開発します。このフレームワークは、レポート境界、開示プロトコル、およびデータを定義します。

開示の生成

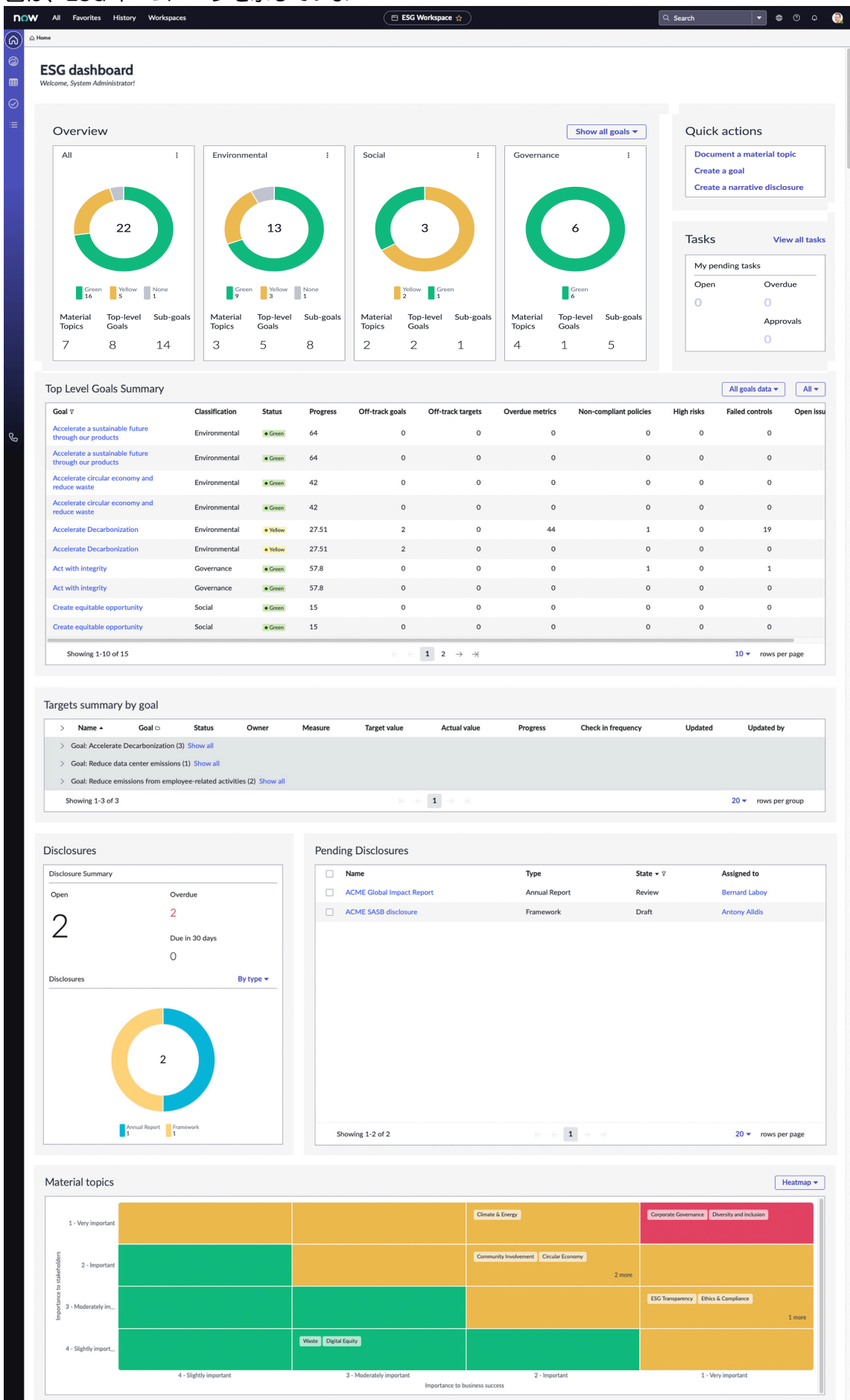
ESG 開示マネージャーは、収集したデータを使用して年次 ESG レポートを生成します。このレポートは、量的および定性的なデータを含む、同社の持続可能性パフォーマンスの包括的な概要を提供します。環境への影響、社会的責任、コーポレートガバナンスに関連する成果、課題、目標、および将来のイニシアチブを強調します。

ESG ワークスペース

ESG ワークスペースは、さまざまなユーザーがそれぞれのタスクを実行できるように設計された簡素化されたユーザーインターフェイスです。ESG ワークスペース のホームページには、さまざまなクイックアクションとレポートが表示されます。

ESG ワークスペース には、さまざまなコンポーネントのデータをビジュアル化したさまざまなセクションが表示されます。これらのセクションでは、Environmental, Social, and Governance (ESG) のコミットメントの 3 本の柱について説明します。

次の図は、ESG ホームページを示しています



ダッシュボードの各セクションについて、以降のセクションで説明します。

クイックアクション

ESG ワークスペース にログインすると、最初に ESG ダッシュボードが表示されます。ESG ワークスペース の [クイックアクション] セクションを使用して、次のタスクを実行できます。

- 重要なトピックを文書化する
- 目標を作成
- プログラムを作成
- プロジェクトを作成
- 開示を開始

i 注: プログラムとプロジェクトを作成するオプションは、プロジェクトポートフォリオ管理 と統合する場合にのみ使用できます。

タスク

[タスク] セクションには以下の内容が表示されます。

- すべての ESG 関連タスクを表示する単一のページを表示します ☑
- ワークスペースビューの [タスク] ページで、個々のユーザータスク、ユーザーグループタスク、自分のアイテム、およびウォッチリストを表示できます。
- マネージャーは、承認待ちを表示できます。

[タスク] ページは、ESG ワークスペース の [タスク] アイコン (📅) を選択して開くことができます。

[概要] セクション

重要なトピックは、会社が選択したエリアです。[概要] セクションには、3 本の柱となる目標、およびサブ目標が関連付けられているすべての重要なトピックのステータスが表示されます。

各リンクをクリックすると、関連するページに移動します。目標がオントラックか、リスクありか、オフトラックかを確認できます。ページでフィルターを使用して、すべての目標を表示することも、トップレベルの目標のみを表示することもできます。

トップレベルの目標の概要

[トップレベルの目標の概要] セクションには、目標とそのステータスの詳細が表示されます。このセクションでは、3 本の柱で目標をフィルタリングできます。トップレベルの目標のみを表示することができます。またフィルターを変更した場合でもそのままトップレベルの目標のみを表示できますが、データにはすべての子レベルの目標が含まれます。このセクションでは、目標の次のアイテムを表示できます。

- 目標：すべての目標を表示します。
- 分類：目標が環境、社会、ガバナンスのいずれに属するかを示します。
- ステータス：目標がオントラックかオフトラックかを示します。
- 進捗状況：目標の進捗状況の値を表示します。
- オフトラック目標：オフトラック目標の数を表示します。
- オフトラックターゲット：オフトラックターゲットの数を表示します。
- 期限切れの測定基準：期限切れの測定基準を表示します。

- 期限切れのプログラム/プロジェクト：目標に関連付けられているプログラムとプロジェクトの数を表示します。
- 非準拠ポリシー：目標に適用される非準拠ポリシーの数を表示します。
- 高リスク：目標のリスクの数を表示します。

i 注：非準拠ポリシーと高リスクは、Integrated Risk Management (IRM) をインストールした場合にのみ表示されます。

目標別ターゲットの概要

このセクションには、目標別ターゲットと、そのステータス、所有者、測定値、ターゲット値、実際の値、進捗状況、チェックイン頻度、および目標の更新者に関する概要が表示されます。

開示

[開示] セクションには、さまざまな開示のブレイクダウンが表示されます。開示とは、組織の環境、社会、およびガバナンスのパフォーマンスに関連するデータの開示を指します。投資家は、このような開示によって、リスクをもたらす可能性のある企業を特定し、情報に基づいて意思決定を行うことができます。このセクションには、次の情報が表示されます。

- 公開されている開示
- 期限切れの開示
- 30 日以内に期限が切れる開示

開示にはさまざまなタイプがあり、それぞれの開示にはワークフローがあります。[タイプ別] または [ステータス別] フィルターを使用して、開示をフィルタリングできます。

開示処理待ち

[開示処理待ち] セクションには、すべての処理待ちの開示が表示されます。これらの開示は、その状態、タイプ、および開示がアサインされているユーザーとともに表示されます。

重要なトピック

提供されているフィルターを使用すると、次のいずれかの形式で重要なトピックのステータスを表示できます。

- ヒートマップ
- リスト

ヒートマップビューの [重要なトピック] セクションには、ステークホルダーとビジネスの成功にとって重要なトピックのマトリクスが表示されます。ヒートマップ内の各タイルはクリック可能です。リストビューを選択すると、重要なトピックの優先度と分類も確認できます。

i 注：監視ステータスにある重要なトピックのみがこのレポートに記載されます。

ESG ワークスペース での検索

[検索] フィールドを使用して、ESG ワークスペース を検索する機能を使用できます。ESG ワークスペース を検索するには、リストから **[ESG ワークスペース]** を選択します。検索結果はコンテキストサイドパネルに表示されます。

[自分のタスク] ページビュー

[自分のタスク] ページには、処理待ちのタスクと、ユーザーグループにアサインされたタスクが 1 つのペインに表示されます。

[タスク] ページのタブ

次の例に示すように、ログインしているユーザーにアサインされたタスクが [タスク] ページに表示されます。

The screenshot shows the ServiceNow interface for the ESG Workspace. The 'Tasks' page is active, displaying a list of tasks under the 'Metric data tasks' tab. The tasks are filtered by 'All' (24 items). The list includes tasks like 'Task for test manual MD for ACME Asia', 'Task for test manual MD for Accounts Receivable', etc. The page also shows filters for 'Needs my approval' (2), 'New' (20), and 'Overdue' (8).

Name	Number	Assigned to	Priority	State
Task for test manual MD for ACME Asia	MDTASK0020161	ESG Admin	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test manual MD for Accounts Receivable	MDTASK0020162	ESG Admin	4 - Low	New
Task for test manual MD for ACME Americas	MDTASK0020163	ESG Admin	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test manual MD for Acer	MDTASK0020164	ESG Admin	4 - Low	New
Task for test Manual MD check 2 for ACME Personal Banking	MDTASK0020165	ESG PM	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test Manual MD check 2 for ACME RB India	MDTASK0020166	ESG PM	4 - Low	Awaiting Approval
Task for test Manual MD check 2 for ACME RB UK	MDTASK0020167	ESG PM	4 - Low	New
Task for test Manual MD check 2 for ACME Midwest	MDTASK0020168	ESG PM	4 - Low	New
Task for test manual MD for ACME Asia	MDTASK0020211	ESG Admin	4 - Low	New

す。

ESG ワークスペースの [タスク] ページには、次のタブが表示されます。

- 自分の保留中タスク：自分にアサインされている処理待ちのタスクと、自分のアクションが必要なタスクの概要が表示されます。次のタイプの状況を使用して、保留中のタスクをフィルタリングできます。
 - すべて
 - ドラフト/新規
 - 処理中
 - 自分の承認が必要
 - 自分のレビューが必要
 - 期限切れ
 - 保留中の応答

i 注： [タスク] ページに表示されるデータは、ユーザーのロールに基づいています。

- 自分のアイテム：ログインしているユーザーにアサインされているタスクのリストが表示されます。

次の例に、ログインしているユーザーの一般的な [自分のタスク] ページを示します。

i 注： [自分の保留中タスク]、[自分のアイテム] タブでは、進行中のレコードのみを表示できます。クローズ済みレコードとキャンセル済みレコードは、これらのタブには表示されません。クローズ済みレコードとキャンセル済みレコードは、ESG ワークスペースのそれぞれの形式で表示できます。

ESG Management アドミニストレーターロールを持っている場合は、タスクページ構成モジュールを更新してESG ワークスペースをカスタマイズできます。

ESG ワークスペース ユーザー

ESG ワークスペース では、環境、社会、ガバナンスという柱の関連データが表示され、ロールに応じて適切なアクションを実行できます。これらのロールには、ESG アドミニストレーター、ESG プログラムマネージャー、ESG レポートおよび開示マネージャー、ESG 測定基準マネージャー、および ESG データ所有者が含まれます。

ESG ワークスペース は詳細な構成が可能で、ロール主導型です。ロール主導型であるとは、ESG ワークスペース が組織内のユーザーまたはロールごとにカスタマイズされているか、一意であることを意味します。

次の表に、各ロールが組織で実行する主要なタスクを示します。

ESG ユーザーとそのタスク

ユーザー	タスク
ESG 管理者	ユーザーが使用できるように ESG Management アプリケーションを設定します。 • 重要なトピックの作成 • ESG 目標の作成 • 目標のターゲットの設定 • 重要なトピックへの目標の追加 • 重要なトピックの承認 • ESG Management でのエンティティの管理 • 新しい排出アクティビティを作成 • 排出係数の作成 • すべての統合を管理 • メトリクスデータタスクの期日を計算するための新しいスケジュールを作成します。 • メトリクスを管理します。 • 単位ファミリー、単位、単位変換を作成します。
ESG プログラムマネージャー	• 重要なトピックの作成 • ESG 目標の作成 • 目標のターゲットの設定 • 重要なトピックへの目標の追加 • 重要なトピックの承認 • ESG Management でのエンティティの管理 • メトリクスを管理します

ESG ユーザーとそのタスク (続く)

ユーザー	タスク
ESG レポートおよび開示マネージャー	内部および外部のステークホルダーに対する開示の作成
ESG 測定基準マネージャー	- 自動メトリクスの定義の作成 - 手動メトリクスの定義の作成 - 計算済み測定基準の作成 - メトリクスの作成 - ESG Managementと Watershedの統合
ESG データ所有者	- 測定基準のデータの入力 - 複数のメトリクスの応答の提供
ESG リスクマネージャー	- リスクステートメントを作成  - リスクステートメントからリスクを生成  - リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始する

 注: このロールは、sn_esg_risk_mgmt プラグインをアクティブ化した場合にインストールされます

ロールに関する詳細については、「[ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

持続可能な IT の管理

持続可能な IT アプリケーションを使用すると、ハードウェア資産によって生成される排出量を効果的に管理および監視できます。さらに、資産のエネルギー消費量と、資産が寿命に達した後の適切な廃棄を追跡できます。

ESG プログラムマネージャーは、持続可能な IT アプリケーションを使用して、ラップトップ、サーバー、デスクトップ、プリンター、スキャナーなどのハードウェア資産の持続可能性パフォーマンスを追跡できます。このツールを使用すると、ハードウェア資産の環境への影響を簡単に監視および評価できます。アプリケーションは、ダッシュボードを通じて貴重なインサイトを提供するため、これらの資産を廃止するか再利用するかについて、情報に基づいた意思決定を行うことができます。ダッシュボードには、電力消費量や排出量などの重要なデータも表示されます。持続可能な IT アプリケーションを使用するには、持続可能な IT (sn_esg_sustain) プラグインと ハードウェア資産管理 (sn_hamp) プラグインをインストールしてアクティブ化する必要があります。

持続可能な IT アプリケーションを使用すると、ハードウェア資産マネージャーは、エネルギー消費の削減に焦点を当て、資産の購入に関して情報に基づいた意思決定を行うことができます。このアプリケーションは、排出量が最も少ないデバイスに関する洞察を提供することで、管理者が環境に優しい選択を優先できるようにします。

このアプリケーションを使用すると、データセンターの排出パフォーマンスを監視し、最も環境に優しい、または最も環境に優しいデータセンターを特定できます。

ハードウェア資産の排出量、消費量、電子廃棄物、エネルギースター資産のデータを収集するために、太陽光発電からのエネルギー、バイオマスからのエネルギーなど、デフォルトで 27 のメトリクス定義が用意されています。データを収集するメトリクスの定義を有効にし、正しいデータが収集さ

れて表示されるようにエンティティを適切に設定する必要があります。データは常に月次ベースで収集され、完了したメトリクスデータについてのみ表示されます。

関連情報

[エンティティを設定する方法 持続可能な IT](#)

持続可能な IT ダッシュボード

持続可能な IT ダッシュボードには、組織の IT 資産の持続可能性への影響を簡単に測定するためのさまざまな情報が表示されます。

持続可能な IT ダッシュボードには、ハードウェア資産、データセンター、および組織の IT フットプリントのデータが世界地図上に表示されます。データセンターとは、IT インフラストラクチャを収容する施設のことです。これらのタブについては、以降のセクションで説明します。

- i 注:** ダッシュボードで [ハードウェア資産] タブと [データセンター] タブを表示するには、ハードウェア資産管理 (sn_hamp) プラグインを有効にする必要があります。さらに、[IT フットプリントマップ] タブをアクティブ化するには、Geo Map コンポーネント (sn_geo_map) プラグインを有効にする必要があります。必要な Geo Map コンポーネントの詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「[Understanding Google Maps APIs in geo-map component \(ジオマップコンポーネントの Google Maps API について\)](#)」[KB1588661]  を参照してください。

IT フットプリントマップ

持続可能な IT ダッシュボードの最初のタブには、データセンターやオフィスビルなどのカーボンフットプリントを示すグローバルマップが表示され、最もエネルギー効率の高い施設が強調表示されます。表示されるデータは、マップマーカーで構成した構成によって決まります。詳細については、「[マップマーカーの構成](#)」を参照してください。マップ上のアイコンをポイントすると、設定されたマーカーの効率の分類、メトリクス名、エンティティ名、および利用可能な最新のメトリクスデータを表示できます。持続可能な IT プラグインとともに提供される任意のメトリクスの定義を設定できます。[持続可能な IT] でグループ化されているメトリクスの定義のみを選択できます。たとえば、次のメトリクスの定義を使用できます。

- オフィス所在地の炭素強度
- データセンター別の DCiE

- i 注:** DCiE は、データセンター インフラストラクチャの効率を表します。

持続可能な IT でグループ化されたメトリクスの定義をフィルタリングする方法の詳細については、「[メトリクスの定義 持続可能な IT フィルター](#)」を参照してください。

アイコンの上にカーソルを移動すると、ポップオーバーが表示されます。ポップオーバーでエンティティ名を選択するとサイドパネルが開き、次のメトリクス定義の選択したエンティティに関連するメトリクスが表示されます。

- データセンター別の PUE
- データセンター別の WUE
- データセンター別の CUE
- エネルギー使用による CO2e 排出量
- 総使用エネルギー
- 場所別のハードウェアエネルギー消費量
- 場所別のハードウェア資産からの CO2e

[リンクを開く] を選択すると、メトリクスレコードページに移動でき、詳細を確認できます。ダッシュボードの右側にあるエンティティクラスフィルターを使用して、表示するデータを選択できます。

ハードウェア資産

次のビデオは、[ハードウェア資産] タブを示しています。持続可能な IT ダッシュボードの [ハードウェア資産] タブ。

概要:概要セクションには、次のメトリック定義のデータを表示する傾向グラフが表示されます。

- ハードウェア資産からの炭素排出量。
- ハードウェアのエネルギー消費量。

チャートをクリックすると、チャートに関連する詳細情報やデータをさらに詳しく調べたり掘り下げたりすることができます。データの取得元のフィールドは、メトリクスの定義フォームで指定されます。詳細については、「[自動メトリクスの定義の作成](#)」を参照してください。

エネルギー消費量:エネルギー消費量セクションには、次の形式で情報が表示されます。

- 総エネルギー消費量 (kWh):この数値は、「モデルカテゴリ別のハードウェアエネルギー消費量」メトリクス定義の総エネルギー消費量を表します。モデルカテゴリ別のハードウェアエネルギー消費量とは、さまざまなカテゴリのハードウェアによって消費されるエネルギーまたは電力の量を指します。ハードウェアモデルカテゴリとは、コンピューター、サーバー、その他のデバイスなど、さまざまなタイプのデバイスを指します。メトリクスの定義の構成には、データ収集を目的としたハードウェアテーブルのモデルカテゴリ列の指定が含まれます。
- モデルカテゴリ (kWh) または場所別のエネルギー消費量: この水平棒グラフには、エネルギー消費量データが表示されます。場所フィルターまたはモデルカテゴリフィルターのいずれかでデータをフィルタリングできます。利用可能なフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートするオプションがあります。この棒グラフをドリルダウンすると、新しいページが開き、使用中の資産やエネルギー消費量が最大になる資産の詳細が表示されます。デフォルトでは、この新しいページには、グラフの最初のバーのすべての資産が下部に表示され、エネルギー消費量別の上位モデルが右側に表示されます。
- Energy Star 資産: 目盛りグラフには、資産の合計数に対する Energy Star 認定資産の数が表示されます。

排出量:排出量セクション内では、データは次の形式で表示されます。

- 総排出量 (日数): 総排出量値と、前月と比較した排出量の変動量の両方を表示できます。
- モデルカテゴリ別または場所別の排出量(日数):この水平棒グラフには、排出量データが表示されます。場所フィルターまたはモデルカテゴリフィルターのいずれかでデータをフィルタリングできます。利用可能なフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートするオプションがあります。この棒グラフをドリルダウンすると、新しいページが開き、使用中で排出量が最大になる資産の詳細が表示されます。デフォルトでは、この新しいページには、下部のグラフの最初のバーのすべての資産が表示され、右側に排出量別の上位モデルが表示されます。表示されるデータは、フィルターで選択した内容、つまり [場所] と [モデル カテゴリ] のどちらを選択したかによって異なります。

電子廃棄物の再利用、寄付、または埋め立て: このセクションでは、データを次の形式で表示します。

- 廃止された資産 (ポンド):ドーナツグラフには、再利用、寄付、廃棄された資産の数が表示されます。
- 埋め立て地 (ポンド):このセクションの円グラフには、廃棄されたハードウェア資産の重量がモデルカテゴリ別に表示されます。この重量の単位はポンドです。

このセクションのデータは、ハードウェア資産テーブルから取得されます。各グラフはインタラクティブで、特定のセグメントをクリックしてより詳細な情報にアクセスできます。

データセンター

次のビデオは、[データセンター] タブを示しています。

https://player.vimeo.com/video/952411276?h=c57fd6f950&badge=0&autoplay=0&player_id=0&app_id=58479

概要:概要セクションでは、次のメトリック定義のデータを表示する傾向チャートを表示できます。

- エネルギー使用によるCO₂e
- 総使用エネルギー

チャートをクリックすると、各データセンターのエネルギー使用量または排出量に関する詳細情報をさらに調べたり、掘り下げたりすることができます。概要セクションには、排出量とエネルギーのデータのソースであるデータセンターの数も表示されます。また、DCiE に基づいて、DCiE が最も高いデータセンターが上位にランク付けされる、最も環境に配慮した上位 3 つのデータセンターを表示することもできます。最も環境に配慮したデータセンターとは、排出量が最小のデータセンターを指します。

データセンターの効率:データセンターの効率セクションでは、データは次の形式で表示されます。

- 電力使用効率:電力使用効率(PUE)は、データセンターのエネルギー効率を評価するために使用される指標です。これは、データセンター施設が消費するエネルギー量と、データセンター施設が収容するIT機器が使用するエネルギー量を定量化する比率です。
- 水使用効率 (KgCO₂e): 水使用効率 (WUE) は、データセンターまたは施設の水効率を評価するために使用される指標です。エネルギー効率を測定する電力使用効率(PUE)と同様に、WUEは、IT機器が使用する水に関連して、データセンター施設で消費される水の量を定量化します。
- 炭素使用効率 (KgCO₂e/kWh): 炭素使用効率 (CUE) は、データセンターまたは施設の炭素効率と環境への影響を評価するために使用される指標です。これは、データセンターによって実行されるIT 負荷またはコンピューティング作業の単位あたりに生成される二酸化炭素排出量を定量化します。

エネルギー消費量:エネルギー消費量セクション内で、情報は次の形式で表示されます。

- 総エネルギー消費量 (kWh): この数値は、すべてのデータセンターの合計エネルギー消費量を表しています。これは、すべてのデータセンターの全体的なエネルギー使用量の概要を提供します。
- ソース別の総エネルギー消費量:ドーナツグラフを使用して、さまざまなエネルギー源からのエネルギー消費量の分布をキロワット時 (kWh) で示します。エネルギー源は、メトリクスの定義の形式で指定されます。半ドーナツグラフの各セクションはインタラクティブで、特定のセグメントをクリックしてより詳細な情報にアクセスできます。
- データセンター別のエネルギー消費量 (kWh):棒グラフには、すべてのアクティブなメトリクス定義を考慮して、個々のデータセンターのエネルギー消費量が表示されます。利用可能なフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートするオプションがあります。これにより、さまざまなデータセンターのエネルギー使用量をより効果的に分析および比較できます。

排出量: 排出量セクションでは、データは次の形式で表示されます。

- 総排出量 (KgCO₂e): この数値は、すべてのデータセンターの総排出量を表しています。
- データセンター別の排出量 (KgCO₂e): 棒グラフには、すべてのアクティブなメトリック定義を考慮して、個々のデータセンターの排出量が表示されます。用意されているフィルターを使用して、棒グラフを昇順または降順でソートできます。さらに、棒グラフの各棒はインタラクティブであるため、特定のセグメントをクリックしてより詳細な情報にアクセスできます。

i 注: データは、合計メソッドを使用して集計されます。

スコープ 3 ダッシュボード

スコープ 3 ダッシュボードは、スコープ 3 排出量を計算および追跡して、組織の環境への影響を完全に理解し、進化する規制へのコンプライアンスを確保するのに役立ちます。スコープ 3 排出量とは、機器の調達から発生する排出量など、バリューチェーンにおける間接的な排出量を指します。

ESG ワークスペース と統合されたスコープ 3 ダッシュボードは、ESG プログラムマネージャーと ESG アドミニストレーターが組織のスコープ 3 排出量の傾向の概要を把握するのに役立ちます。スコープ 3 ダッシュボードを表示するには、スコープ 3 排出管理 (sn_esg_scope3) プラグインを有効にする必要があります。このアプリケーションは、プラグインがアクティブ化され、必要なカテゴリとモデルテーブルが構成された後にのみ、データの収集を開始します。ダッシュボードで履歴データを表示する場合は、データをシステムにインポートする必要があります。

- i 注:** このダッシュボードのデータを収集するために、合計 10 個のメトリクス定義が提供されています。デフォルトでは、これらのメトリクスの定義は非アクティブ状況であり、アクティブ化する必要があります。これらのメトリクスの定義はスコープ 3 排出量 でグループ化されているため、簡単に見つけることができます。

スコープ 3 ダッシュボードにアクセスするには、ESG ワークスペースの  アイコンを選択します。

スコープ 3 排出量を報告できる温室効果ガス (GHG) には 15 のカテゴリがあります。組織は報告するカテゴリを選択でき、スコープ 3 排出管理アプリケーションを使用すると、次の 2 つのカテゴリについて報告できます。

- **カテゴリ 1 購入した商品およびサービス:** このカテゴリは、報告年に報告企業が購入または取得した商品およびサービスの抽出、生産、および輸送を指します。
- **カテゴリ 2 資本財:** このカテゴリは、報告年に報告会社が購入または取得した資本財の抽出、生産、および輸送を指します。資本財は、消費財やサービスを生産するために使用される建物、機械、設備などの物理的資産です。

ダッシュボードには、GHG カテゴリ、支出カテゴリ、およびサプライヤーカテゴリのスコープ 3 データが表示されます。次のセクションでは、これらのカテゴリについて説明します。これらのタイプのデータを理解すると、スコープ 3 ダッシュボードに表示されるデータを理解するのに役立ちます。

支出カテゴリデータ

支出ベースの排出係数は、温室効果ガス (GHG) 排出量の典型的なレベルをさまざまな支出カテゴリに割り当てます。たとえば、オフィス機器に 1 ドルを費やすことで発生する排出量は、輸送サービスに 1 ドルを費やすことで発生する排出量とは異なる場合があります。各カテゴリで支出した金額に、関連する排出係数を掛けることで、間接的な排出量を推定できます。たとえば、すべてのラップトップを資産支出カテゴリとして分類する場合、これらすべての資産に対する支出を集計し、その数値に環境拡張産業連関 (EEIO) によって提供される排出係数値を乗算できます。

サプライヤーカテゴリデータ

サプライヤーカテゴリデータでは、次の計算方法を使用します。

- **環境拡張産業連関 (EEIO) データ:** EEIO データは、環境データと経済産業連関モデルを統合して、経済活動に関連する環境への影響を評価します。この種のデータは、経済活動が環境圧力にどのように寄与しているかを理解する上で重要であり、サプライチェーン全体のさまざまなセクターや製品の環境への影響を評価するために使用できます。このデータは、ServiceNow インスタンスに手動で入力するか、データがスプレッドシートで利用可能な場合は一括でアップロードできます。EEIO データは、ESG Content Accelerator アプリケーションからアクティブ化することによって入力される放出テーブルから派生します。
- **ライフサイクルアセスメント (LCA) データ:** LCA データは、原材料の抽出から材料の加工、製造、流通、使用、修理とメンテナンス、廃棄またはリサイクルまで、製品のライフサイクルのすべての

段階に関連する環境への影響を評価するために使用されます。LCAデータは、これらの評価を実施するために不可欠であり、製品ライフサイクル全体にわたる材料、プロセス、エネルギー使用、および廃棄物管理の環境への影響に関する詳細情報が含まれています。

- サプライヤーカテゴリデータ:各組織には、さまざまな商品やサービスのサプライヤーが複数あります。サプライヤーの例としては、ラップトップサプライヤー、モニターサプライヤー、デスクトップサプライヤーなどがあります。各サプライヤーをさまざまなカテゴリに分類できます。スコープ3ダッシュボードには、デフォルトで提供されるメトリクス定義を使用して、これらのサプライヤーによって生成された排出量が表示されます。この情報は、排出量削減の範囲を特定するのに役立ちます。このデータは、ServiceNow インスタンスに手動で入力するか、データがスプレッドシートで利用可能な場合は一括でアップロードできます。

i 注: データ計算の詳細については、Now Support ナレッジベースの記事「[Overview of Overview of Calculation Methodologies for Metric Definitions in the Scope 3 Dashboard](#) (スコープ3ダッシュボードのメトリクス定義の計算方法の概要)」[KB1648880] を参照してください。

GHG カテゴリ

温室効果ガス(GHG)プロトコルのスコープ3カテゴリ1に分類される購入した物品・サービスからの排出量と、カテゴリ2に分類される資本財は、企業による物品・サービスの調達から発生する間接的な排出量を指します。GHG カテゴリでは、EEIO、LCA、およびサプライヤーの算定方法も使用されます。

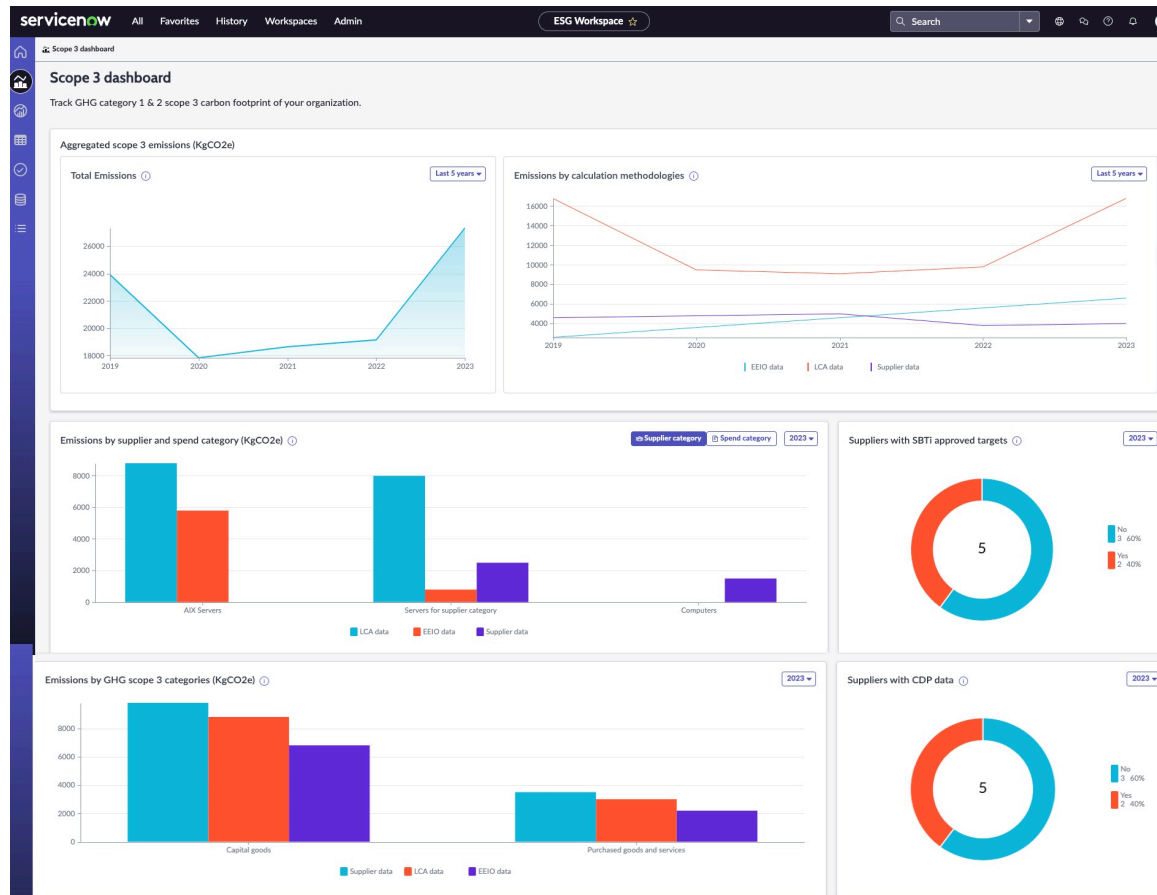
関連情報

[スコープ3ダッシュボードの構成](#)

スコープ3ダッシュボードに関するレポート

スコープ3ダッシュボードには、組織のスコープ3排出量の持続可能性への影響を簡単に測定するためのさまざまなレポートが表示されます。このダッシュボードのすべてのレポートは、詳細なメトリクスの定義と各レポートのデータを提供するエンティティにドリルダウンできます。

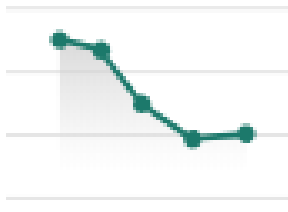
スコープ 3 ダッシュボード

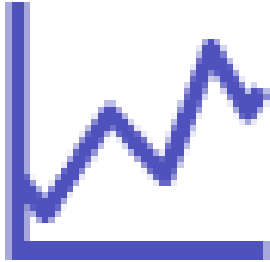
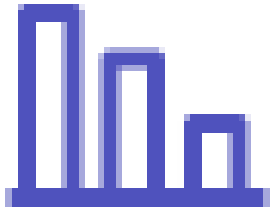
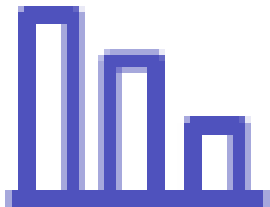


次のセクションでは、表示される各レポートについて説明します。

データの可視化

ESG アドミニストレーターおよび ESG プログラムマネージャーは、スコープ 3 ダッシュボードで次のレポートを表示できます。

タイトル	タイプ	Description (説明)
総排出量	面グラフ 	過去 5 年間の資産調達によって生成された総排出量を表示します。このデータは、年ごとに集計されます。このレポートの排出量測定単位は、トン単位です。過去 3 年、4 年、または 5 年のデータを表示して、比較分析を行います。 注: <code>sn_esg_scope3.historical_years_selector</code> プロパティを使用して、表示する年数を設定できます。デフォルトでは、5 年間のデータを表示します。
算定方法別排出量	線グラフ	EEIOデータ、LCAデータ、サプライヤーデータなど、さまざまな計算方法によって生成された排出量を表示します。これらの計算方法の詳細については、「 ダッシュボード 」を参照してください。このレポートの排出量測定単位は、トン単位です。過去 3 年、4 年、または 5 年のデータを表示して、比較分析を行います。

タイトル	タイプ	Description (説明)
		
サプライヤーおよび支出カテゴリ別の排出量 (KgCO2e)	棒グラフ 	サプライヤーカテゴリと支出カテゴリの詳細粒度データを表示します。[サプライヤーカテゴリ] または [支出カテゴリ] のいずれかを選択して、必要とします。表示されるドロップダウンリストから、データを表示する年を選択します。このレポートでは、過去 5 年間のデータを利用できます。
SBTi 認定目標を掲げているサプライヤー	ドーナツグラフ 	サプライヤーが遵守する必要がある科学的根拠に基づく目標イニシアチブを使用して取得されたサプライヤーデータを表示します。SBTiは、気候変動排出量削減とネットゼロ目標の戦略を定義し、推進しています。このレポートでは、どのサプライヤーが SBTi 基準に準拠しているかを特定できます。データは、デフォルトで提供される手動メトリクス定義の応答から取得されます。 i 注: このメトリクスの定義のメトリクスデータタスクでは、メトリクス所有者は応答を [はい] または [いいえ] として入力する必要があります。
GHG スコープ 3 カテゴリ別排出量 (KgCO2e)	棒グラフ 	カテゴリ 1 の「購入した物品およびサービス」およびカテゴリ 2 の「輸送」の GHG カテゴリのデータを表示します。表示されるドロップダウンリストから、データを表示する年を選択できます。このレポートでは、過去 5 年間のデータを利用できます。
CDP データのあるサプライヤー	ドーナツグラフ	サプライヤーが遵守する必要があるカーボンドスクロージャーフレームワークを使用して取得されたサプライヤーデータを表示します。CDPは、気候変動の影響を開示することを求めています。このレポートのデータは、CDP データから取得されます。データは、手動メトリクス定義の応答から取得されます。 i 注: このメトリクスの定義のメトリクスデータタスクでは、メトリクス所有者は応答を [はい] または [いいえ] として入力する必要があります。

タイトル	タイプ	Description (説明)
		

関連情報

[スコープ 3 ダッシュボードの構成](#)

ESG Content Accelerator

ESG Content Accelerator アプリケーションは、フレームワーク、引用、メトリクス定義、および排出係数の一元化されたリポジトリです。このアプリケーションを使用すると、ESG フレームワークの採用が加速します。

ServiceNow StoreからESG Content Acceleratorをインストールできます。インストール後、ESG Content Accelerator アイコン () を選択してアプリケーションを起動できます。

フレームワークと規制

アプリケーションには、次のフレームワークと規制が含まれています。

- Global Reporting Initiative (GRI)
- Sustainability Accounting Standards Board (SASB)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)
- 国連の持続可能な開発目標
- SustainableIT.org (バージョン 18.0.3 で使用可能)
- European Sustainability Reporting Standards (ESRS/CSRD) (バージョン 18.0.3 で利用可能)

i 注: サポートされているフレームワークのリストはすべてを網羅しているわけではなく、将来のリリースで進化する可能性があります。

排出係数

排出係数は、活動または生産量の単位あたりに放出される排出量を定量化する係数です。これは、さまざまな発生源から大気中に放出される汚染物質または温室効果ガスの量を推定するために、環境科学、工学、および規制のコンテキストで広く使用されています。この ESG Content Accelerator には、いくつかの排出係数も含まれています。排出係数の詳細については、「[排出係数ライブラリ](#)」を参照してください。

排出係数は、特定の標準コンテンツプロバイダーから供給されます。これらのコンテンツプロバイダーは、さまざまな業界や地域の排出係数を公開しています。ESG アドミニストレーターは、独自の [排出係数](#) を作成して排出量を計算できますが、ESG Content Accelerator アプリケーションから提供された排出係数を使用することもできます。ESG Content Accelerator アプリケーションで排出係数を使用すると、時間と労力を節約できます。このアプリケーションでは、次の排出係数が提供されます。

- eグリッド
- 米国EPAによるGHG排出係数
- 英国のGHG係数(DEFRAおよびDESNZより)
- 米国環境拡張入出力 (USEEIO)

要件を満たすものをアクティブ化または更新できます。排出係数の最新バージョンが利用可能な場合は、ESG Content Accelerator アプリケーションを使用して更新できます。

i 注: 任意のタイルの情報アイコンを選択すると、フレームワークまたは排出係数の説明が表示されます。

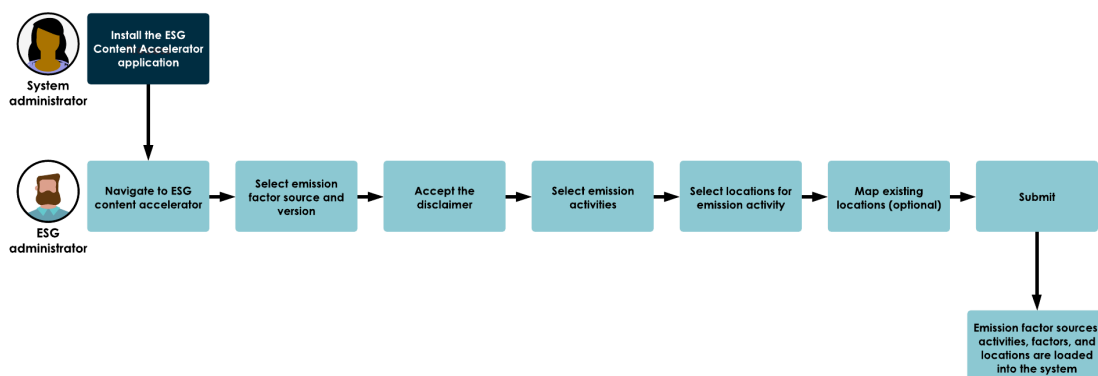
ESG Content Accelerator アプリケーションのメリット

ESG Content Accelerator アプリケーションのメリットは次のとおりです。

- 使用するフレームワークを選択する機能を提供します。
- メトリクスの定義を、さまざまなフレームワークからの関連する引用に合わせて調整しやすくなります。これにより、異なるフレームワークの引用間で相互運用性を実現し、さまざまな基準や規制にわたる ESG パフォーマンスの一貫したレポートが保証されます。
- 特定のフレームワークに関連付けられている引用を選択し、インスタンスにアクティブステータスでインストールできます。
- 引用に関連付けられているメトリクス定義を非アクティブステータスでインストールできます。
- メトリクスの定義を手動で作成する必要がなくなります。
- ユーザーがメトリクスの定義を編集できるようにします。
- 更新が利用可能になったときにそれらを統合することを目的としています。

ESG Content Accelerator アプリケーションのワークフロー

次の図は、ESG Content Accelerator アプリケーションのライフサイクルを示しています。



す。

詳細については、「[を使用してフレームワークをアクティブ化または更新し、引用をインストールする ESG Content Accelerator](#)」を参照してください。

排出係数ライブラリ

排出係数ライブラリは、排出係数、排出活動、排出活動ソースで構成されています。排出量を正確に計算するには、排出係数ライブラリを設定することが重要です。

以下のセクションでは、排出係数、排出活動、排出活動源の違いについて説明します。

排出係数

排出係数は、活動または生産量の単位あたりに放出される排出量を定量化する係数です。これは、さまざまな発生源から大気中に放出される汚染物質または温室効果ガスの量を推定するために、環境科学、工学、および規制のコンテキストで広く使用されています。

排出係数の例は、ディーゼル燃料の燃焼による二酸化炭素(CO₂)排出量です。たとえば、その値は、燃焼したディーゼル燃料1リットルあたり2.68キログラムのCO₂です。組織が年間 10,000 リットルのディーゼル燃料を消費する場合、総 CO₂ 排出量は次のように推定できます: 総 CO₂ 排出量 = ディーゼル燃料消費量×排出係数。CO₂総排出量=10,000リットル×2.68kgCO₂/リットル。総CO₂排出量=26,800kg CO₂ したがって、この組織はディーゼル燃料の燃焼から年間約26,800キログラム(または26.8メートルトン)のCO₂を排出します。

以下は、排出係数のいくつかの用途です。

- 排出量の推定
- 環境報告と開示
- ライフサイクルアセスメント

排出アクティビティ

排出活動とは、大気中に放出される汚染物質または温室効果ガスを生成するプロセスまたは行動を指します。これらの活動は、産業、輸送、農業、住宅地など、さまざまな分野で発生する可能性があります。排出活動の例は次のとおりです。

- 発電所で石炭を燃やして発電する。
- セメント生産。
- 畜産などの活動。

排出アクティビティソース

排出活動ソースは、さまざまな活動からの温室効果ガス (GHG) 排出量を推定するためのデータと方法論を提供します。これらの発生源は、活動の種類と排出される汚染物質に基づいて分類できます。排出活動源の例は次のとおりです。

- 温室効果ガス(GHG)排出源
- 環境・食糧・農村地域省(DEFRA)
- 環境拡張入出力モデル (EIO)
- 排出・発電資源統合データベース(eGRID)

関連情報

[排出係数ライブラリの設定](#)

ESG Management の構成

管理者は、このセクションを使用して ESG Management アプリケーションを設定します。最初に、重要なトピック、目標とターゲット、排出アクティビティ、および排出係数を作成する必要があります。その後、測定基準をレポートして組織の ESG パフォーマンスを測定する対象となる、エンティティおよびエンティティタイプを作成できます。

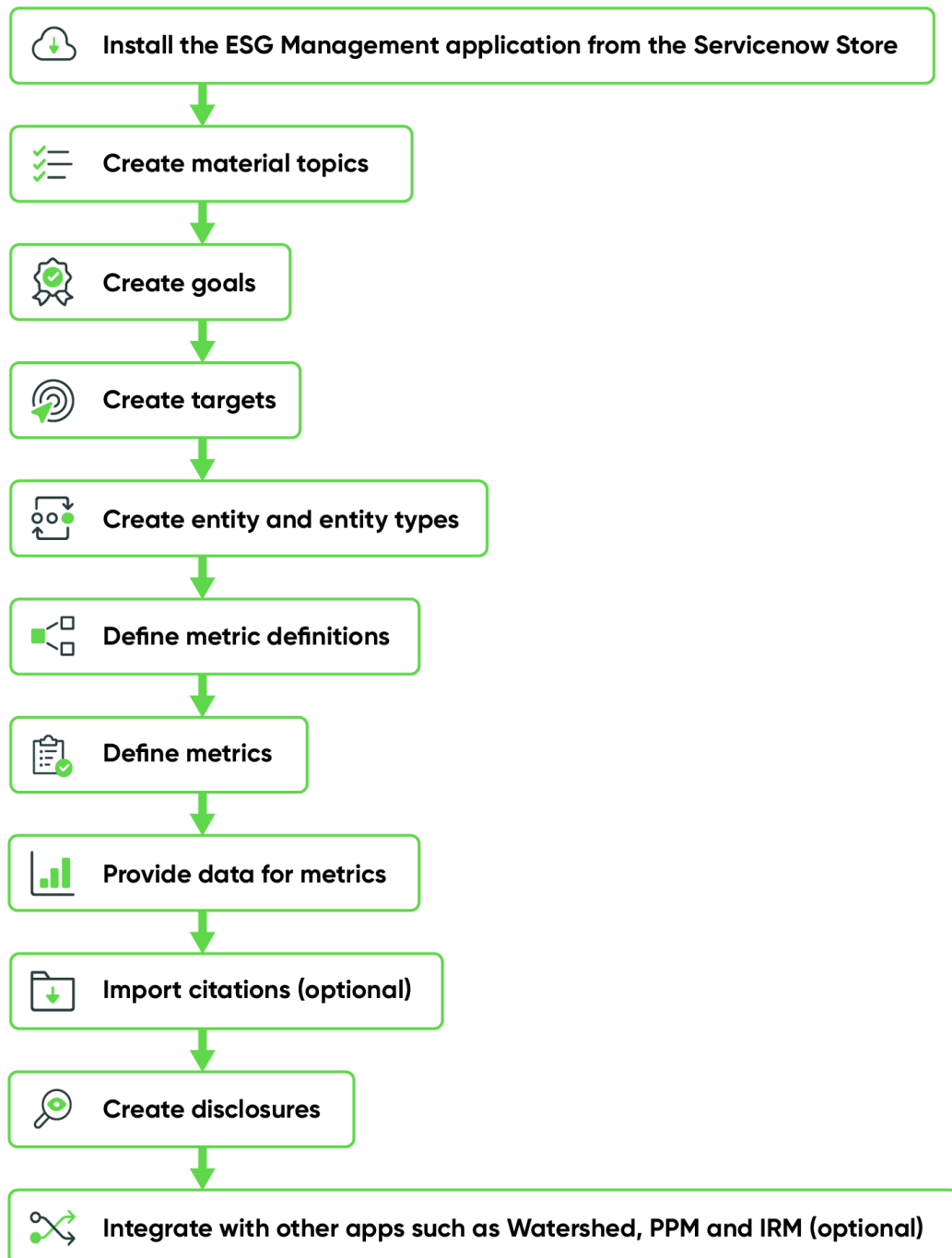
ESG Management の実装

ServiceNow® ESG Management アプリケーションチェックリストの手順に従って ServiceNow Store から ESG Management をダウンロードし、操作の準備をします。必須およびオプションの

セットアップ手順のほか、実装チェックリストが、セットアップを簡略化するために用意されています。

チェックリストの必須ステップのフローを次に示します。

ESG Management の実装ワークフロー



ESG Managementのインストール

sys_admin ロールを持っていれば、ESG Management アプリケーション (sn_esg) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「[ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得](#)」を参照してください。
- ESG Management には次の ServiceNow Store アプリケーションが必要です。ESG Management をインストールする前に、このアプリケーションがインストールされていることを確認します。

必要な ServiceNow Store アプリケーション

GRC: Profiles

GRC: Profiles アプリケーションは、GRC アプリケーションスイートで共有される共通コンポーネントのセットです。このアプリケーションには、一般的なアーキテクチャ、問題管理、およびインジケータが含まれています。

GRC: Common Workspace Elements

GRC Base Workspace は、GRC アプリケーション間で共有されるすべての重大なワークスペースパーツのコンテナです。

ゴールフレームワーク

ゴールフレームワークアプリケーションを使用すると、選択した重要なトピックに対する進捗状況を追跡する目標を追加できます。

GRC : メトリクス

GRC : メトリクス アプリケーションを使用すると、他のアプリケーションのパフォーマンスを評価、比較、追跡、およびレポートする際に使用する測定基準を定義できます。

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting (sn_esg_msoff_intg) は、ESG レポートマネージャーに開示レポート機能を提供し、Microsoft Word を使用して ServiceNow ESG Management システムデータ、リストレポート、チャート、ピボット、およびマルチピボットレポートをシームレスにレポートできるようにします。

- i 注:** ESG Management アプリケーションでは、GRC : ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションの各種法令・基準等および信頼できるソースコンテンツと、GRC: Profiles アプリケーションのエンティティを使用できます。

必要なロール : admin

このタスクについて

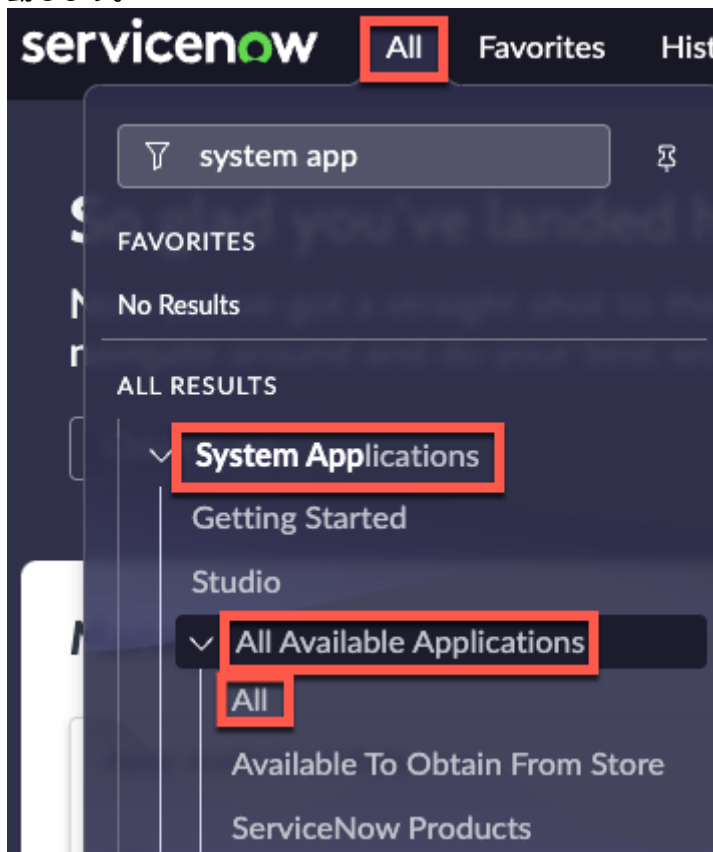
ESG Management とともに次のアイテムがインストールされます。

- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、ESG Management アプリケーション (sn_esg) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[ServiceNow Store](#) Web サイトにアクセスして利用可能なすべてのアプリを表示し、ストアにリクエストを送信する方法について確認してください。リリースされたすべてのアプリのリリースノート情報については、「[ServiceNow Storeバージョン履歴のリリースノート](#)」を参照してください。

3. アプリケーションのインストールダイアログボックスで、アプリケーションの依存関係を確認します。

依存するプラグインとアプリケーションがインストールされている場合、現在インストールされている場合、またはインストールする必要がある場合は、リストに表示されます。インストールする必要があるプラグインまたはアプリケーションがある場合は、ESG Management をインストールする前にインストールする必要があります。

4. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。
デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

i 重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

5. [インストール] を選択します。

のエンタイトルメントを完了 ESG Management

ServiceNow® Store から ESG Management アプリケーションをインストールした後、アプリケーションへの完全なアクセス権を取得して使用するには、エンタイトルメントを完了する必要があります。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. ServiceNow® Store に移動します。
2. [Environmental, Social, Governance Management] を検索して選択します。
3. オプション: 製品ページでバージョンを変更するには、[その他のアプリバージョン] リンクを選択します。
 - a. 他のバージョンの詳細を表示するには、任意のバージョンを選択します。
 - b. [詳細を表示] を選択します。
4. [製品を表示] を選択します。
5. [Environmental]、[Social]、[Governance Management] を選択します。
6. すべてのインスタンスにアプリケーションに対する資格を付与するには、[オプトイン] を選択します。
対象リストには、ライセンスされているすべてのアプリケーション依存関係が表示されます。
7. ServiceNow® 契約条件に同意するオプションを選択します。
8. [承認] を選択します。
製品名の横にチェックマークが表示され、[エンタイトルメントを管理] ボタンが表示されます。
9. オプション: [エンタイトルメントの管理] を選択して、エンタイトルメントされたアプリケーションの影響を受けるインスタンスを変更します。
10. ServiceNow® 契約条件に同意してエンタイトルメントを管理した後、1 回のクリックで他の製品にエンタイトルメントを付与できます。

ESG Management アプリケーションのセットアップチェックリスト

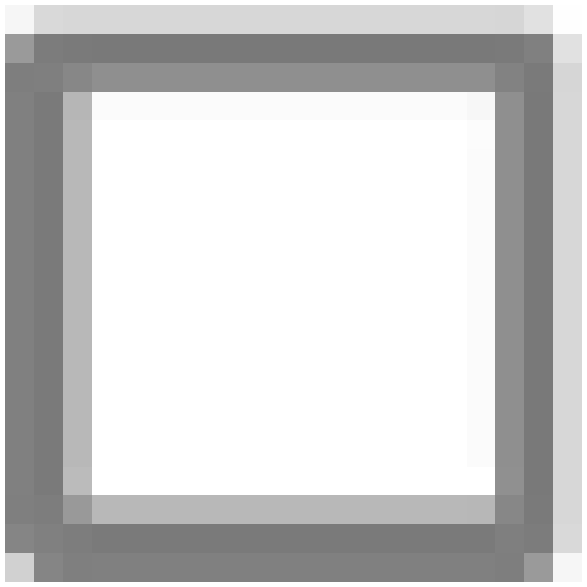
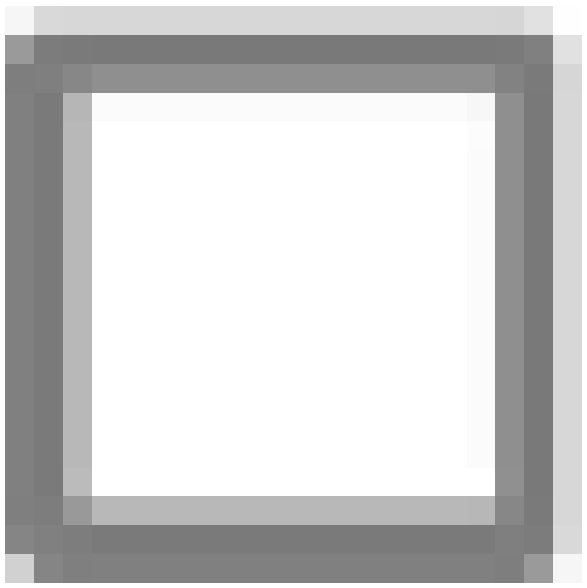
このチェックリストには、Now Platform® インスタンスで完了する必要があるセットアップタスクが含まれています。これらのタスクを完了すると、ベースシステムの運用準備が整います。

始める前に

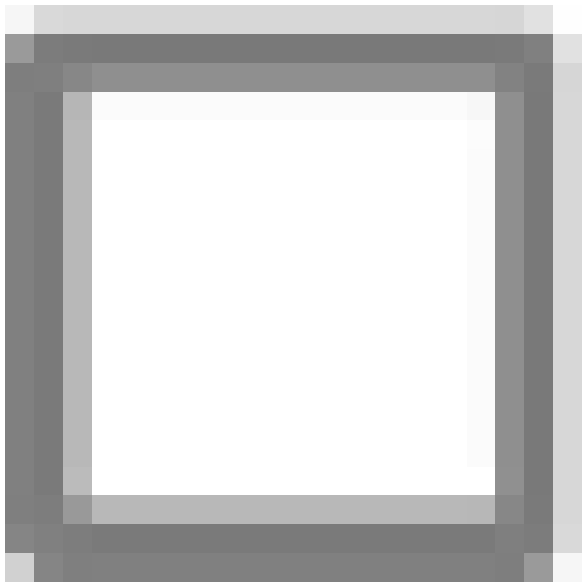
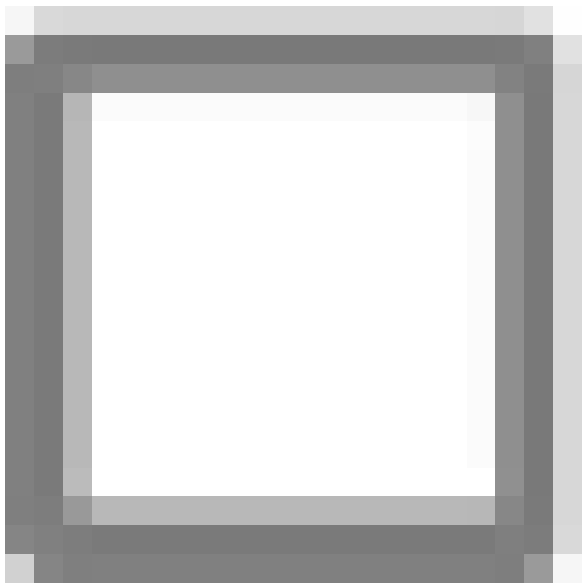
必要なロール：なし

このチェックリストトピックの PDF を作成し印刷することをお勧めします。そうすれば、完了したタスクにチェックを付けることができます。PDF を生成するには、トピックの上部にある [PDF として保存]  アイコンをクリックし、[選択したトピック (Selected topic)] をクリックします。

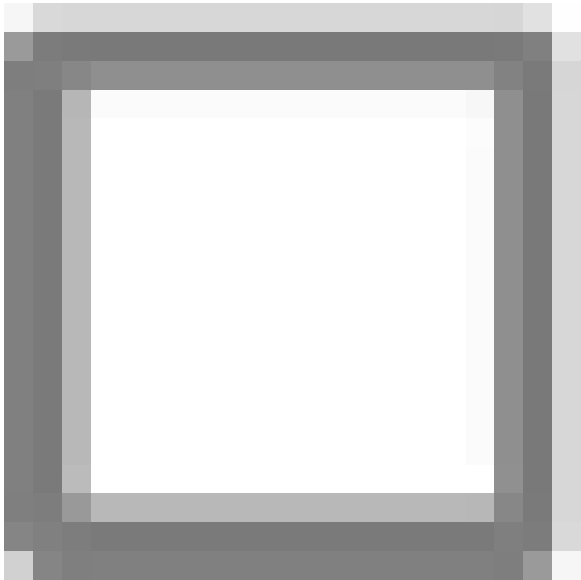
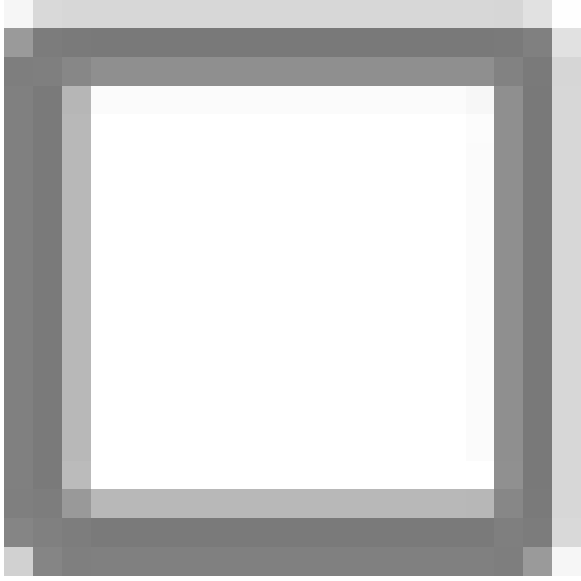
ESG Management アプリケーションのチェックリスト

アイテム	チェックリスト
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、ESG Management アプリケーションをダウンロードしてインストールできます。詳細については、「ESG Managementのインストール」を参照してください。
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、次のタスクを実行します。 • 重要なトピックの作成 • 目標の作成 • ターゲットの作成 • 排出アクティビティの作成 • 排出係数の作成

ESG Management アプリケーションのチェックリスト (続く)

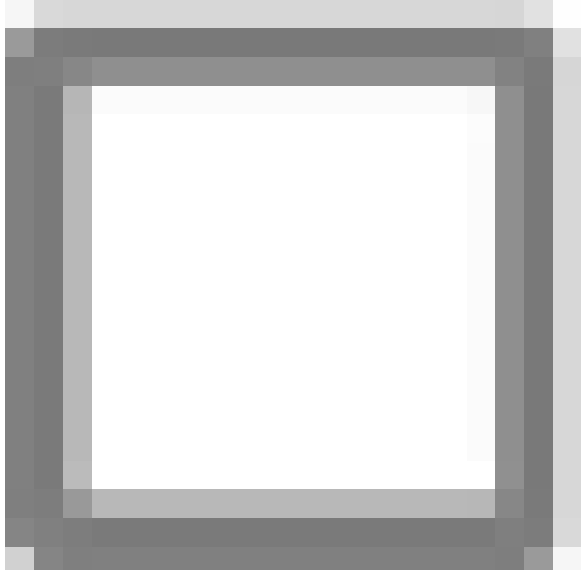
アイテム	チェックリスト
	sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、エンティティを管理して次のタスクも実行します。 • エンティティの作成 • エンティティタイプの作成 • エンティティクラスの作成
	sn_esg.metrics_manager ロールを持つユーザーは、さまざまなタイプの測定基準の定義と測定基準を定義します。このユーザーは次のタスクを実行します。 • 自動測定基準の定義の作成 • 手動測定基準の作成 • 複合測定基準の定義の作成 • 測定基準の作成

ESG Management アプリケーションのチェックリスト (続く)

アイテム	チェックリスト
	sn_esg.data_owner ロールを持つユーザーは、手動測定基準データタスクのデータを提供でき、sn_esg.program_manager を持つユーザーは、提供されたデータをオーバーライドできます。詳細については、「 メトリクスデータタスクのデータ入力 」を参照してください。
	sn_esg.reporting_disclosure_manager、sn_esg.program_manager ロールを持つユーザーは、開示を作成できます。開示により、投資家は、企業、リスク体制、持続可能性標準、および ESG Management コンプライアンスについて、情報に基づいた意思決定を行うことができますようになります。

自動翻訳

ESG Management アプリケーションのチェックリスト (続く)

アイテム	チェックリスト
	ESG Managementのインストール アプリケーションのユーザーは、必要に応じて、プロジェクトポートフォリオ管理 や Integrated Risk Management などの他のアプリケーションと統合することができます。これらの統合により、より多くの機能が得られます。詳細については、「他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携」を参照してください。

重要なトピックの作成

ESG の影響を与える領域を特定できるように、組織の重要なトピックを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

重要なトピックは、組織が経済、環境、および人に与える最も大きい影響を反映したトピックです。重要なトピックを作成したら、そのトピックを承認のために送信する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 重要なトピック**。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

重要なトピックのフォーム

フィールド	説明
名前	重要なトピックの名前。たとえば、「天気とエネルギー」。
分類	重要なトピックの分類。選択肢は次のとおりです。 ◦ 環境 ◦ 社会 ◦ ガバナンス
承認者	重要なトピックのレビューおよび承認の責任者。

フィールド	説明
ステータス	重要なトピックのステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
ビジネスの成功にとって重要	重要なトピックがビジネスの成功に与える効果。選択肢は次のとおりです。 ◦ なし ◦ 非常に重要 ◦ 重要 ◦ ほどほどに重要 ◦ やや重要
ステークホルダーにとっての重要性	ステークホルダーにとっての重要なトピックの重要性。選択肢は次のとおりです。 ◦ なし ◦ 非常に重要 ◦ 重要 ◦ ほどほどに重要 ◦ やや重要
URL	チームが使用できるオンライン情報へのリンク。
優先度	重要なトピックの優先度。選択肢は次のとおりです。 ◦ なし ◦ 高 ◦ 中 ◦ 低
説明	重要なトピックの簡単な説明。

4. [保存] をクリックします。
5. レビューのためにトピックを送信するには、[レビュー準備完了] をクリックします。
6. 重要なトピックを機密としてマークするには、[セキュリティ] セクションで [機密] オプションを選択します。
 - a. [許可されたユーザー] フィールドで、レコードを表示できるユーザーを選択します。
 - b. [許可されたグループ] で、レコードを表示できるグループを選択します。
このセキュリティセクションは、GRC プロパティの下で `sn_grc.enable_record_confidentiality` プロパティが有効になっている場合にのみ表示されます。デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。

タスクの結果

重要なトピックが承認者に送信されます。ステータスが [レビュー] に変化します。

次のタスク

[メトリクスの作成](#)

重要なトピックの承認または却下

自身が承認者としてアサインされている場合は、重要なトピックをレビューして承認または却下します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > タスク > 自分の処理待ちのタスク > 重要なトピック。
2. レビューする重要なトピックを開きます。
3. トピックを承認または却下するには、[ステータス] フィールドを次のいずれかに設定します。

選択肢	アクション
承認する場合	[承認] を選択します。
却下する場合	[却下] を選択します。

4. [保存] をクリックします。

タスクの結果

重要なトピックが承認されると、そのステータスが [監視] に変わります。トピックが却下されると、ステータスは [ドラフト] に変わります。

ESG 目標の作成

環境、社会、ガバナンス (ESG) の目標を設定して、選択した重要なトピックに向かっての進捗状況を追跡します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

重要なトピックを作成した後に、重要なトピックに向けた進捗状況を追跡する目標も作成する必要があります。目標の作成後に、次が可能になります。

- ターゲットをアサインして、目標達成の進捗状況を追跡します。
- Integrated Risk Management と統合している場合は、ポリシーを追加できます。目標関連のリスク、ポリシーとコントロールのコンプライアンス、および期限のある問題を監視することもできます。この統合により、ポリシーを作成し、コントロールを実装して、会社の目標を強化できます。
- プロジェクトポートフォリオ管理 と統合している場合は、目標に対するプログラムとプロジェクトを追加できます。

詳細については、「**ゴールフレームワーク**」  を参照してください

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 目標。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[目標] フォーム

フィールド	説明
名前	目標の名前。たとえば、「気候変動戦略」。
分類	目標のカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 ◦ 環境 ◦ 社会 ◦ ガバナンス
開始日	目標の開始日。
所有者	目標を所有するユーザー。
ステータス	目標の進捗状況を示すステータス。選択肢は次のとおりです。 ◦ 赤 ◦ 黄 ◦ 緑
ステータス	目標のステータス。
カテゴリ	目標が属するカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 ◦ アプリケーション合計 ◦ 総コスト ◦ 経費 ◦ 投資 ◦ クラウドアプリケーション ◦ 自家製アプリケーション ◦ サポート費 ◦ 人件費 ◦ 標準コンプライアンス ◦ 戦略的 ◦ オペレーショナル ◦ 戦術的
終了日	目標の終了日。
貢献者	目標に貢献しているユーザー。
進捗状況	目標の完了率。進捗値は自動的に計算されます。 進捗値の計算方法の詳細については、「 目標の進捗値の計算 」を参照してください。
説明	目標の説明。

4. [保存] をクリックします。

次のタスク

目標と、他のサブ目標、ターゲット、測定基準の定義などとの関係を表示するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

関連情報

[ESG ワークスペース の目標の概要](#)

目標の進捗値の計算

目標の進捗値や完了率の値は、さまざまな式を使用して自動的に計算されます。計算式は、ターゲットのみを含む目標であるか、サブ目標とターゲットの組み合わせであるか、また加重平均計算が有効になっているかどうかによって異なります。

シナリオ	目標の進捗値の計算に使用される式
- 目標にターゲットがある。 - 目標にサブ目標がない。 - ターゲットに重み付けスケールが定義されていない。	$\text{目標の進捗値} = \frac{\text{関連するターゲットの進捗値の合計}}{\text{ターゲットの数}}$
- 目標にサブ目標とターゲットがある。 - サブ目標とターゲットに重み付けスケールなし。	$\text{目標の進捗値} = \frac{\text{サブ目標と関連するターゲットの進捗値の合計}}{\text{サブ目標とターゲットの数}}$
- 目標に 2 つのターゲット (ターゲット 1 とターゲット 2) がある。 - 目標にサブ目標がない。 - ターゲットに対して重み付けスケールが定義されており、sn_gf.weighted_average_enabled システムプロパティが <i>Yes</i> に設定されている。	$\text{目標の進捗値} = \frac{[(\text{ターゲット 1 の進捗値} * \text{ターゲット 1 の重み付けスケール}) + (\text{ターゲット 2 の進捗値} * \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})]}{(\text{ターゲット 1 の重み付けスケール} + \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})}$
- 目標に 2 つのターゲット (ターゲット 1 とターゲット 2) がある。 - 目標に 2 つのサブ目標 (サブ目標 1 とサブ目標 2) がある。 - サブ目標とターゲットに対して重み付けスケールが定義されており、sn_gf.weighted_average_enabled システムプロパティが <i>Yes</i> に設定されている。	$\text{目標の進捗値} = \frac{[(\text{サブ目標 1 の進捗値} * \text{サブ目標 1 の重み付けスケール}) + (\text{サブ目標 2 の進捗値} * \text{サブ目標 2 の重み付けスケール}) + (\text{ターゲット 1 の進捗値} * \text{ターゲット 1 の重み付けスケール}) + (\text{ターゲット 2 の進捗値} * \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})]}{(\text{サブ目標 1 の重み付けスケール} + \text{サブ目標 2 の重み付けスケール} + \text{ターゲット 1 の重み付けスケール} + \text{ターゲット 2 の重み付けスケール})}$

ゴールフレームワーク への既存の目標データの移行

admin ロールを使用すると、スケジュール設定済みジョブを実行して、既存の目標データを ゴールフレームワーク テーブルに移行できます。

始める前に

必要なロール：sys_admin

このタスクについて

IT Business Management の既存ユーザーは、既存の目標を ゴールフレームワーク に移行する必要があります。新規顧客は自動的に新しいフレームワークが与えられるため、この手順に記載されているジョブを実行する必要はありません。

手順

1. 移動先 **すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ**.
2. [目標、戦略、および関連する作業アイテムデータを新しいテーブルに移行] スケジュール設定済みジョブを検索してクリックします。
3. [スクリプトの実行を予定] フォームで、以下の手順を実行します。
 - a. [実行] フィールドで頻度が [オンデマンド] に選択されていることを確認します。
 - b. [このスクリプトを実行] フィールドで、必須パラメーターの値を **[true]** に設定します。

パラメーター	説明
目標データの移行	- 既存のすべての目標レコードを目標 [goal] テーブルから目標 [sn_gf_goal] テーブルに移行します。sys_ID は同じままです。対応するターゲットレコードがターゲット [sn_gf_goal_target] テーブルに作成されます。 - 最初の目標を主目標として、目標と作業アイテム (プロジェクト、デマンド、プログラム) 間の既存の関係を目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに作成します。 i 注: 目標 [goal] テーブルに [方向] フィールドが設定されている既存の目標レコードのみが、目標 [sn_gf_goal] テーブルに移行されます。
戦略データの移行	企業戦略 [enterprise_strategy]、事業部門戦略 [business_unit_strategy]、および戦略的達成目標 [strategic_objective] のテーブルから、既存のすべての戦略レコードを戦略的優先事項 [sn_gf_strategy] テーブルに移行します。sys_ID は同じままです。
目標戦略 M2M データの移行	ゴールフレームワーク では、1 つの目標は 1 つの戦略にのみマッピングできます。既存の目標にマッピングされた 2 つの戦略がある場合、目標のクローンが作成され (1 つは汎用目標として、もう 1 つはサブ目標として)、両方に同じ戦略が設定されます。また、サブ目標については、最初の目標が親目標として設定されます。 たとえば、既存の目標 (G1) が 5 つの戦略 (S1、S2、S3、S4、および S5) にマッピングされているシナリオを考えてみましょう。この場合、G1 の 4 つのクローンがサブ目標 (G2、G3、G4、および G5) として作成され、親目標が G1 として設定されます。サブ目標 (G2、G3、G4、および G5) については、[戦略] フィールドにそれぞれ (S1、S2、S3、S4、および S5) が入力されます。 i 注: クローンされたサブ目標の名前には、Cloned SubGoal: のプリフィックスが付き、その後に親の目標名が続きます。

パラメーター	説明
戦略/作業アイテム関係性データの移行	- 戦略と作業アイテム (プロジェクト、デマンド、プログラム) 間の既存の関係を目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに移行します。 - 目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに、目標に対する、(現在の戦略としての) 戦略と作業アイテム間の関連付けがない場合、現在の戦略の戦略値でダミー目標が作成されます。そして、目標関係 [sn_gf_goal_m2m_relationship] テーブルに、ダミー目標と作業アイテムとの目標関係が作成されます。 i 注: ダミー目標の名前にはプリフィックス Goal: が付き、その後に戦略名が続きます。

4. [Execute Now (今すぐ実行する)] をクリックします。

プロジェクトフォームでの優先度と目標の表示

既存ユーザーの場合は、ゴールフレームワークにアップグレードするためにプロジェクトフォームを構成します。ゴールフレームワークのメリットは、目標のターゲットを設定できることです。戦略的優先事項および関連する目標を組織の戦略的計画の一部として定義することもできます。

始める前に

必要なロール: sys_admin

このタスクについて

事前構成されたフォームがある場合は、この構成を行って新しいフレームワーク機能とフィールドを使用できるようにする必要があります。次の画像は、構成前後のフォームフィールドを示しています。

新しいフィールドの構成前

新しいフィールドの構成後

デマンドフォームとプログラムフォームでも同じ手順を実行できます。詳細については、「[ゴールフレームワーク](#)」を参照してください。

手順

1. 移動先 **すべて** > **プロジェクト** > **プロジェクト** > **すべて**。
2. プロジェクトを開きます。
3. 追加アクションアイコン (≡) をクリックして、次の手順を実行します。
 - a. [構成] をクリックします。
 - b. [フォームレイアウト] をクリックします。
 - c. [フォームビューとセクション] で、[ビュー名] フィールドに、目標と戦略の Glide リストを含むビューを設定します。

- d. [フォームビューとセクション] で、[セクション] フィールドを [ビジネスケース] に設定します。
 - e. [利用可能] リストで、[主要目標 **[+] (Primary goal [+])**] を選択し、ツリーワークフローアイコン () をクリックします。
 - f. [利用可能] リストで、[戦略的優先事項 **[+] (Strategic priority [+])**] をダブルクリックします。
[選択済み] リストに [主要目標.戦略的優先事項 **(Primary goal.Strategic priority)**] が表示されます。
 - g. [保存] をクリックします。
- [スコア] や [財務] など、目標と戦略の Glide リストを持つすべてのビューに対してこの手順を繰り返します。

タスクの結果

プロジェクトフォームには、[戦略的優先事項] フィールドと [主要目標] フィールドが表示されます。

重要なトピックへの目標のマッピング

重要なトピックに目標にマッピングして、選択したトピックに対して実行されるアクションを追跡できるようにします。このマッピング演習に基づいて、最も大きい影響を与える目標に取り組むことができます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 重要なトピック。
2. 目標をマッピングする重要なトピックを開きます。
3. 目標を追加するには、次の手順を実行します。
 - a. [目標] 関連リストをクリックします。
 - b. [追加] をクリックします。
 - c. 追加する目標を選択します。
 - d. [追加] をクリックします。
 - e. [保存] をクリックします。

タスクの結果

重要なトピックに目標がマッピングされます。この目標によって、選択したテーマまたはトピックに向けた進捗状況を追跡できるようになりました。

エンティティを目標に関連付ける

目標を作成したら、追跡するエンティティを目標に関連付ける必要があります。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program.manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 目標**.
2. エンティティを追加する目標を開きます。
3. [エンティティ] 関連リストを選択します。
4. [追加] を選択します。
 - a. 追加するエンティティを選択します。
 - b. [追加] を選択します。

ESG ターゲットの作成

環境、社会、社会 (ESG) ターゲットを作成して、ESG の目標に向けた進捗状況を追跡します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

ターゲットを作成すると、目標をどの程度達成しているかをターゲットを使用して確認できます。ターゲットのステータスを、目標に関するレポートカードとして扱うことができます。ターゲットを作成したら、測定基準を作成して収集し、ターゲットが達成されているかどうかを測定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > ターゲット**.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[ターゲット] フォーム

フィールド	説明
名前	ターゲットの名前。たとえば、「四半期ごとに多様性プログラムを開始」。
目標	このターゲットが追跡する目標。
開始日	ターゲットを開始する日付
所有者	ターゲットの所有者。
タイプ	達成の方向を示すターゲットタイプ。選択肢は次のとおりです。 ◦ 最大化：方向は [基準値] から [ターゲット値] です。基準値はターゲット値未満になっている必要があります。 ◦ 最小化：方向は [基準値] から [ターゲット値] です。ターゲット値は基準値未満になっている必要があります。 ◦ マイルストーン：固定タイプ。[進捗状況] フィールドのみを使用できます。フィールドの値 (0 ~ 100) は、マイルストーンの達成をキャプチャします。

フィールド	説明
ステータス	ターゲットのステータス。
ステータス	ターゲットの進捗状況を示すステータス。選択肢は次のとおりです。 ◦ 緑：ターゲットが順調であることを示します。 ◦ 黄：ターゲットに改善が必要であることを示します。 ◦ 赤：ターゲットに緊急の配慮が必要であることを示します。
終了日	ターゲットが終了する日付。
貢献者	ターゲットの達成に貢献するユーザー。
チェックイン頻度	所有者または貢献者がターゲットの実際の値を更新する頻度を指定するオプション。利用可能なオプションは、[日次]、[週次]、[隔週]、[月次]、および[四半期ごと]です。
測定	指定された値の測定タイプ。使用可能な測定タイプは、単位 [sn_gf_units] テーブルに格納されています。
基準値	ターゲットの基準値。基準値は、現在または最近の値と見なすこともできます。
実際の値	特定の時点でのターゲットの実際値。このフィールドは、[タイプ] フィールドが [最大化] または [最小化] に設定されている場合にのみ使用できます。
ターゲット値	ターゲットのターゲット値。この値は、チームで達成する必要がある目標です。このフィールドは、[タイプ] フィールドが [最大化] または [最小化] に設定されている場合にのみ使用できます。
進捗状況	完了したターゲットの割合。この値は自動的に計算されます。 [タイプ] フィールドが [最大化] に設定されている場合、進捗状況の値は次の式を使用して計算されます。 $\text{Progress} = (\text{Actual value} - \text{Base value}) / (\text{Target value} - \text{Base value}) \times 100$ [タイプ] フィールドが [最小化] に設定されている場合、進捗状況の値は次の式を使用して計算されます。 $\text{Progress} = (\text{Actual value} - \text{Target value}) / (\text{Base value} - \text{Target value}) \times 100$
重量スケール	目標の他のターゲットと比較したターゲットの重要度を表す数値。サブ目標が存在する場合

フィールド	説明
	は、相対的な重み付けとその後の進捗状況の計算でも考慮されます。デフォルトでは、重み付けスケールは 1 です。 i 注: このフィールドは、 <code>sn_gf.weighted_average_enabled</code> システムプロパティが [はい] に設定されている場合にのみ使用できます。
ターゲットのソース	ターゲットのソースとして機能する測定基準の定義または測定基準。このフィールドは、[タイプ] フィールドに [最大化] または [最小化] が含まれている場合にのみ表示されます。ソースの追加方法については、「ターゲットのソースの追加」を参照してください。

4. 重要なトピックを機密としてマークするには、[セキュリティ] セクションで [機密] オプションを選択します。
 - a. [許可されたユーザー] フィールドで、レコードを表示できるユーザーを選択します。
 - b. [許可されたグループ] で、レコードを表示できるグループを選択します。
このセキュリティセクションは、GRC プロパティの下で
`sn_grc.enable_record_confidentiality` プロパティが有効になっている場合にのみ表示されます。デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
5. [保存] をクリックします。
[測定基準の定義] および [測定基準] 関連リストが表示されます。
6. 測定基準の定義を追加するには、次の手順を実行します。
 - a. [測定基準の定義] 関連リストをクリックします。
 - b. [追加] をクリックします。
 - c. 追加する測定基準の定義を選択します。
 - d. [追加] をクリックします。

タスクの結果

測定基準の定義を含むターゲットが作成されます。

ターゲットのソースの追加

ターゲットを作成したら、ターゲットのソースを追加する必要があります。ソースは、親ターゲットに貢献する測定基準または測定基準の定義にすることができます。

始める前に

必要なロール: `sn_esg.program_manager`

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > ターゲット**。
2. ソースの追加先にするターゲットを選択して開きます。
3. [測定基準の定義] または [測定基準] 関連リストから、ターゲットのソースとして設定する測定基準の定義または測定基準を選択します。

The screenshot displays the 'Achieve net zero carbon emissions globally to 80...' project page. It includes a sidebar with navigation icons, a top navigation bar with 'List' and 'Target: Achieve net zero carbon emissions globally to 80...' tabs, and a main content area. The main area is divided into 'Metric Definitions' (5) and 'Metrics'. The 'Metric Definitions' table lists several metrics with columns for Metric definition, Unit, Frequency, Enterprise owner, and Class. The 'Goals and Targets Hierarchy' panel on the right shows a tree structure with 'Accelerate Decarbonization' as the root, followed by 'Get to net zero by 2030' and 'Maintain carbon neutral operations annually, starting in 2022'.

4. [ターゲットソースとして追加] を選択します。

排出係数ライブラリの設定

排出量を正確に計算するには、排出係数ライブラリを設定する必要があります。排出係数ライブラリは、排出係数、排出アクティビティ、アクティビティソース、および係数の場所で構成されています。

新しい排出アクティビティを作成

ESG Content Acceleratorアプリケーションを通じて提供される標準排出アクティビティを使用しない場合は、新しい排出アクティビティを作成して、排出につながるアクティビティを追跡します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program_manager、sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 排出係数ライブラリ > アクティビティ**。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[排出アクティビティ] フォーム

フィールド	説明
名前	排出アクティビティの名前。たとえば、「自動車」。
タイプ	アクティビティのタイプ。たとえば、「高級」。
サブタイプ	アクティビティのサブタイプ。たとえば、「ディーゼル」。

4. [送信] を選択します。

排出アクティビティをインポートし、その場所をマッピングする

ESG Content Acceleratorアプリケーションを使用して、標準排出アクティビティをインポートし、その場所を追加します。これらの排出係数は、組織内のどの活動が特定の量の汚染を引き起こしているかを特定します。要素にロケーションを追加する必要があるのは、組織にさまざまなロケーションがあり、各ロケーションが異なる期間に異なる係数値を持つ可能性があるためです。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program_manager、sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > コンテンツアクセラレータ**.
2. [排出係数] タブを選択します。
3. アクティブ化または更新する排出係数を選択します。
4. [更新] または [アクティブ化] を選択します。
5. 免責事項の [同意する] を選択します。
6. システムにインポートする排出アクティビティを選択します。
7. [Next (次へ)] をクリックします。
8. オプション: [既存の場所をマップ] 列で、各アクティビティの場所を選択します。
9. [送信] を選択します。

タスクの結果

排出アクティビティが排出係数ソースにマッピングされ、メトリクス定義の計算で係数を使用する準備が整いました。

排出係数の作成

ESG Content Acceleratorアプリケーションによって提供される標準排出係数を使用したくない場合は、独自のカスタム排出係数を作成します。排出係数は、大気中に放出された汚染物質の量と、その汚染物質の放出に関連する活動を関連付ける代表値です。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program_manager、sn_esg.admin

このタスクについて

排出係数とは、アクティビティデータを排出量に変換するための係数です。これは、アクティビティまたはプロセスの単位に関連する、指定されたソースの平均排出率です。排出係数を作成するときに、排出量の測定に使用する単位にデータを変換するときの変換元の単位を選択できます。たとえば、アクティビティデータであるマイルを、アクティビティによって発生する排出量に変換できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 排出係数ライブラリ > 係数**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[排出係数] フォーム

フィールド	説明
名前	排出係数の名前。たとえば、「Cars-Mini-Diesel-miles-KgCO2e」。
変換前の単位	データ収集時の単位。
変換後の単位	データ変換先の単位。

フィールド	説明
排出アクティビティ	係数の排出アクティビティまたはソース。

4. [送信] を選択します。

タスクの結果

これで、この排出係数を計算済みメトリクスの定義で使用できるようになりました。

排出係数へのロケーションの追加

係数を作成した後で、排出係数にロケーションを追加します。要素にロケーションを追加する必要があるのは、組織にさまざまなロケーションがあり、各ロケーションが異なる期間に異なる係数値を持つ可能性があるためです。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program_manager、sn_esg.admin

このタスクについて

通常、係数は、温室効果ガス (GHG) プロトコルなどの標準的なソースから取得されます。ロケーションの各係数は、指定された期間中有効です。排出係数にロケーションを追加するときは、その特定のロケーションの係数値を指定します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 排出係数ライブラリ > 係数**.
2. ロケーションの追加先の排出係数を開きます。
3. [排出係数のロケーション (Emission factor locations)] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

排出係数のロケーション

フィールド	説明
排出係数	ロケーションの追加先にする排出係数の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
適用開始日	排出が有効になる最初の日付。
適用終了日	排出が終了する日付。 i 注: 終了日を指定しない場合、係数値は無期限に適用されます。
ロケーション	排出のロケーション。 i 注: ロケーションを指定しない場合、係数値は組織のすべてのロケーションに適用されます。
値	係数の値。たとえば、天然ガスが 0.375kg CO2eq/kWh ICV を排出する場合、値として 0.375 を指定できます。

5. [送信] を選択します。

Example: ロケーションの計算ロジック

各ロケーションに親ロケーションが存在することがあります。たとえば、ロケーションが東京の場合、東京の親ロケーションは日本です。同様に、日本の親ロケーションはアジア太平洋地域になります。[ロケーション] フィールドで [日本] などの親ロケーションを選択し、値を **1.5** として指定した場合、レコードを持たず、かつ親ロケーションが日本であるロケーションに対して、測定量は 1.5 の値を使用して計算されます。[ロケーション] フィールドで [アジア太平洋] を選択し、**2.5** として値を指定した場合、レコードを持たず、親ロケーションがアジア太平洋であるロケーションに対して、測定量は 2.5 の値を使用して計算されます。

新規スケジュールを作成します

スケジュールを作成するか、既存のスケジュールを変更して、メトリクスデータタスクの期日を計算します。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

スケジュールを使用して、メトリクスデータタスクの期日を指定できます。たとえば、期日が週末または祝日をまたがらないように指定できます。別の例として、勤務時間を指定して、仕様に基づいて期日が自動的に設定されるようにすることができます。デフォルトでは、平日の 8 時から 5 時のスケジュールが期日の設定に使用されます。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > 管理 > スケジュール。
2. 新規 を選択し、一意でわかりやすい名前と説明を入力し、フォームに入力します。

[スケジュール] フォームのフィールドの詳細については、「[スケジュールのフィールド](#)」を参照してください。

関連リストのグループ化の作成

レコードページ上の関連リストのグループ化を簡素化し、特定のニーズに合わせてカスタマイズして、プロセス内で意味のある名前を割り当てます。この構成により、フォームを操作する際の読みやすさとユーザーエクスペリエンスが向上します。

始める前に

必要なロール：admin または sn_grc_workspace.record_view_admin

このタスクについて

フォームには多数の関連リストがあり、ビューが乱雑になることがあります。表示を簡素化するために、フォームに表示する関連リストを選択して設定するオプションがあります。デフォルトでは、次のテーブルに関連リストを設定する機能が提供されます。

- 計算済みメトリクスの定義テーブル
- 目標テーブル
- 手動および自動のメトリクス定義テーブル

任意のテーブルを選択してそのテーブルの関連リストを設定できますが、この手順では例として、目標構成テーブルのグループを作成する方法について説明します。関連リストとは別に、グループの下に表示する UX ページを指定することもできます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > レコードビュー構成**.
2. **ESG ワークスペース構成**を選択します。
3. [テーブル構成] 関連リストで、[**目標構成**] を選択します。
4. [グループ構成 (Group configurations)] 関連リストで、[**新規**] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

グループ構成フォーム

フィールド	説明
テーブル構成	関連リストを構成するテーブルの名前。このフィールドは自動的に設定されます。
名前	フォームの関連リストに表示されるグループの名前。たとえば、「プログラムの設定」などの名前を指定できます。
アクティブ	構成がアクティブであることを示すオプション。
順序	フォーム上のグループの順序番号。 i 注: [詳細] タブの前に注文を表示する場合は、注文番号を 100 以下にする必要があります。
条件	フォームに表示するために満たす必要がある条件。たとえば、目標のタイプが環境の場合にのみ、フォームに表示する必要があるように指定できます。

6. [送信] を選択します。
7. [グループ構成 (Group configurations)] 関連リストで、作成したエントリーを選択します。
 - a. [グループエントリー (Group entries)] 関連リストで、[**新規**] を選択します。
 - b. フォームのフィールドに入力します。

グループエントリーフォーム

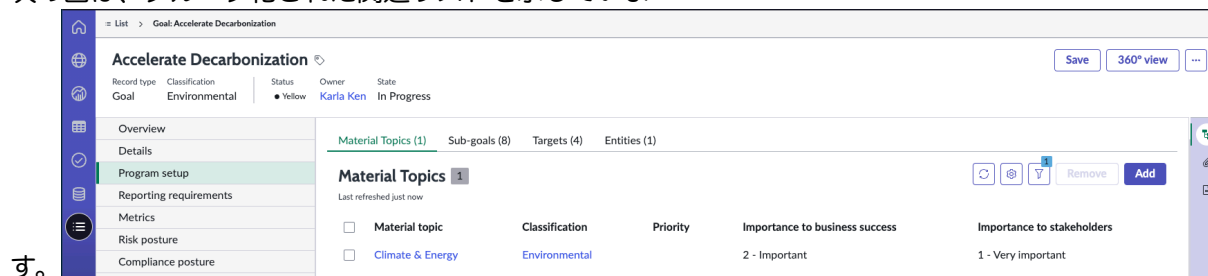
フィールド	説明
グループ構成	関連リストを作成中のグループ。たとえば、この手順では、エントリを構成するグループは [プログラムのセットアップ] です。
順序	UI ページでのエントリーの順序。
アプリケーション	関連リストを作成するアプリケーション。このフィールドは、自動的に [環境、社会、ガバナンス管理] に設定されます。
アクティブ	エントリーがアクティブかどうかを示すオプション。

フィールド	説明
タイプ	グループに含まれるアイテムのタイプを示す選択肢。選択肢は次のとおりです。 - ユーザーエクスペリエンスページ - 関連リスト
関連リスト	必要な関連リストがグループの下に表示されている必要があります。このオプションは、[タイプ] フィールドに [関連リスト] が含まれている場合にのみ表示されます。
スクリーニング	ページの特定のバリエーションまたはバージョン。このオプションは、[タイプ] フィールドに [ユーザーエクスペリエンスページ] が含まれている場合にのみ表示されます。
ルーティング	UX 画面のパス。このオプションは、[タイプ] フィールドに [ユーザーエクスペリエンスページ] が含まれている場合にのみ表示されます。

c. [送信] を選択します。

タスクの結果

次の図は、グループ化された関連リストを示しています



す。

持続可能な IT の構成

手順に従って、持続可能な IT プラグインを構成します。

持続可能な IT プラグインのアクティブ化

持続可能な IT は、ハードウェア資産によって生成される排出量を効果的に管理および監視するために使用されます。

始める前に

必要なロール：admin

このタスクについて

詳細については、「[ESG Management とともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて] に移動します。
2. フィルター基準と検索バーを使用して 持続可能な IT プラグイン (sn_esg_sustain) を検索します。

名前または ID でプラグインを検索できます。プラグインが見つからない場合は、ServiceNow 担当者から要求する必要があります。

3. [インストール] を選択して、インストールプロセスを開始します。

- i** 注: ドメインセパレーションと代理アドミンがインスタンスで有効になっている場合、管理ユーザーはグローバルドメインに含まれている必要があります。それ以外の場合、次のエラーが表示されます: 「別の操作が実行されているため、アプリケーションのインストールは利用できません: <プラグイン名> のプラグインの有効化 (Application installation is unavailable because another operation is running: Plugin Activation for <plugin name>)」

インストールが完了するとメッセージが表示されます。

メトリクスの定義 持続可能な IT フィルター

フィルターを適用して、持続可能な IT プラグインに付属するメトリクスの定義を取得します。フィルターは、手動、自動、計算の 3 つのタイプのメトリクス定義すべてに適用する必要があります。

始める前に

必要なロール: admin

このタスクについて

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > メトリクス**.
2. メトリクスの定義のタイプを選択します。
3. フィルターアイコンを選択します。
4. [詳細ビュー] を選択します。
5. [Group]、[is] の [Sustainable IT] を選択してフィルターを作成します。
6. [更新] を選択します。

エンティティを設定する方法 持続可能な IT

持続可能な IT アプリケーションのデータ収集用にエンティティを設定するには、手動と自動の 2 つの方法があります。いずれかを選択して、データの収集に進むことができます。

エンティティは、次のいずれかの方法で設定できます。

- cmdb_ci_datacenter テーブルを使用してエンティティを作成します。エンティティを作成した後、各エンティティの場所を追加できます。詳細については、「[データセンターの新しいエンティティの作成](#)」を参照してください。通常、この方法はエンティティを構成するための推奨される方法です。
- データセンターのエンティティを手動で作成し、エンティティタイプに追加します。その後、エンティティタイプがメトリクスの定義に追加され、メトリクスの定義でさまざまなデータセンターからデータを収集できるようになります。詳細については、「[持続可能な IT データセンターのエンティティの手動セットアップ](#)」を参照してください。

データセンターの新しいエンティティの作成

cmdb_ci_datacenter テーブルを使用して、すべてのデータセンターのエンティティを作成します。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > スコーピング > すべてのエンティティ**.
2. [新規] を選択します。
3. [既存のレコードを参照] オプションが選択されていることを確認します。
4. テーブル フィールドで、**cmdb_ci_datacenter** を選択します。
5. [レコードに適用] フィールドで、追加するデータセンターを選択します。
6. [場所] フィールドで、データを収集するデータセンターの場所を選択します。
7. [クラス] フィールドで、[サイト] を選択します。
8. データを収集するメトリクスの定義にエンティティを追加します。
9. メトリクスの定義フォームを保存します。

タスクの結果

メトリクスの定義が実行されると、選択したデータセンターのメトリクスが収集され、持続可能な IT ダッシュボードに表示されます。

持続可能な IT データセンターのエンティティの手動セットアップ

データセンターのエンティティを作成し、エンティティタイプに追加します。その後、エンティティタイプがメトリクスの定義に追加され、メトリクスの定義でさまざまなデータセンターからデータを収集できるようになります。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

データセンターに関連する排出量データを収集するには、エンティティに一意の名前を付け、すべてのデータセンターの場所からデータを取得できるように場所に関連付ける必要があります。たとえば、「Energy from coal」という名前のメトリクス定義を利用する場合、メトリクスが実行されたときに、バンガロール、ニューヨーク、パリ、ベルリンの 4 つの場所からの石炭エネルギー排出量データが必要であることを意味します。このタスクを実行するには、New York, Bangalore などの名前を持つエンティティを作成する必要があります。持続可能な IT アプリケーションを使用するには、エンティティを作成するときに、エンティティに場所を追加する必要があります。その後、エンティティタイプ内でエンティティをグループ化できます。たとえば、エンティティタイプを「データセンター」と呼ぶことができます。このエンティティタイプは、「石炭からのエネルギー」という名前のメトリクス定義に追加されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > スコーピング > すべてのエンティティ**.
2. **Paris** データセンターなどの名前新しいエンティティを作成します。
新しいエンティティの作成方法については、「[エンティティの作成](#)」を参照してください。エンティティの作成時に使用する名前は、持続可能な IT ダッシュボードに表示される名前です。エンティティフォームの [場所] フィールドに値を入力することが重要です。特定のデータセンターに複数の場所がある場合は、それに応じてエンティティに名前を付けることができます。
3. 「データセンター」というエンティティタイプを作成します。
新しいエンティティの作成方法については、「[エンティティタイプの作成](#)」を参照してください。エンティティの作成時に使用する名前は、持続可能な IT ダッシュボードに表示される名前です。

- 作成したエンティティをデータセンターエンティティタイプに追加します。
- メトリクスの収集に使用するメトリクスの定義にエンティティタイプを追加します。

タスクの結果

メトリクスが実行されると、4 つのエンティティすべてのデータが収集され、持続可能な IT ダッシュボードに表示されます。

マップマーカの構成

持続可能な IT ダッシュボードの [IT フットプリントマップ] タブに表示するアイテムを構成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

- 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > 持続可能な IT > マップマーカ構成**.
- [新規] を選択します。
- フォームのフィールドに入力します。

マップマーカ構成テーブル

Field (フィールド)	説明
名前	構成の名前
メトリクスの定義	持続可能な IT に関連するアクティブなメトリクスの定義。
マップマーカアイコン	マップ上で構成を表すために使用されるアイコン。
デフォルトでマップに表示	マップの初期ロード時にデフォルトでマップに構成を表示するオプション。
アクティブ	構成をアクティブとしてマークするオプション。マップの初期ロード中は、アクティブな構成のみがマップに表示されます。
エンティティクラス	選択したメトリクスの定義に関連付けられたエンティティの一意的エンティティクラス。
デフォルトのアイコンの色	マップに表示されるときアイコンの 16 進数のカラーコード。このフィールドに自動的に設定されるデフォルトの色を変更できます。

- [送信] を選択します。

次のタスク

データ範囲の構成を定義します。「[マップデータ範囲の構成](#)」を参照してください。

マップデータ範囲の構成

メトリクスデータ値に基づいてマップマーカ进行分类するための基準を定義します。値の範囲を指定し、その範囲内にあるマーカに対応する分類と色を割り当てることができます。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > 持続可能な IT > マップマーカーク構成**.
2. データ範囲を追加するマップマーカーク構成を選択して開きます。
3. [新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

マップデータ範囲の構成

Field (フィールド)	説明
名前	データ範囲の名前。たとえば、高エミッションです。
下限間隔	設定する範囲内の最小値。
マップマーカーク構成	範囲を定義する構成の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
分類	上限間隔と下限間隔の値に基づいて範囲に割り当てられる分類。たとえば、250000 CO2e 排出量の範囲は良好として分類できます。
上限間隔	設定する範囲内の最大値。
アイコンの色	指定された範囲のマップに表示されるアイコンの 16 進数のカラーコード。

5. [送信] を選択します。

を使用してフレームワークをアクティブ化または更新し、引用をインストールする ESG Content Accelerator

選択したフレームワークをアクティブ化または更新し、選択したフレームワークの信頼できるソースコンテンツを選択します。これにより、フレームワークと、選択した引用およびメトリクスの定義がインスタンスにインストールされます。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース**.
2. [ESG content accelerator] を選択します。
3. 必要なフレームワークのバージョンを選択します。
 - a. [アクティブ化] を選択します。
 - b. 免責事項を読み、[同意する] を選択します。
4. [引用] ページで、必要な引用を選択します。
5. [Next (次へ)] をクリックします。
6. [メトリクスの定義] ページで、必要なメトリクスの定義を選択します。

7. [送信] を選択します。
8. フレームワークを更新するには、フレームワークを選択して [更新] を選択します。

ESG の引用ドキュメントをフィルター

ESG ドメインに固有の引用のみを表示するには、機能ドメインを [環境]、[ソーシャル]、[ガバナンス] に設定します。この機能でドメインを選択すると、自分に関連する引用のみを表示できます。同じ手順が各種法令・基準等にも適用されます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.reporting_disclosure_manager

このタスクについて

インスタンス内の引用と各種法令・基準等を表示すると、利用可能なすべての引用と各種法令・基準等が表示されます。すべての引用と権限文書がドメインに関連しているわけではありません。この場合、フィルターを適用して、ドメインに固有のドキュメントのみを表示できます。フィルターを適用しても関連する引用または各種法令・基準等が表示されない場合は、ドキュメントの機能ドメインが [環境]、[社会]、[ガバナンス] に設定されていないことを意味します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示要件 > 引用**.
2. フィルターアイコンを選択します。
3. [詳細ビュー] を選択します。
4. [機能ドメイン] で [contains]、[Environmental]、[Social]、[Governance] を選択してフィルターを構築します。
5. [更新] を選択します。

関連情報

[引用を作成または無効化](#)

スコープ 3 ダッシュボードの構成

スコープ 3 ダッシュボードでデータを表示するには、排出カテゴリタイプを構成して、スコープ 3 データを報告するカテゴリを定義する必要があります。

スコープ 3 ダッシュボードでサプライヤーカテゴリ、支出カテゴリ、および GHG カテゴリデータを表示するために構成する必要があるテーブルは次のとおりです。構成後、スコープ 3 排出量のメトリクス定義は、これらのテーブルのデータを使用します。

排出カテゴリタイプの作成

排出カテゴリタイプを作成して、スコープ 3 ダッシュボードに表示されるスコープ 3 データを報告するカテゴリを定義します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin および sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > スコープ 3 構成 > 排出カテゴリの種類**.
2. [新規] を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。

スコープ 3 排出カテゴリタイプフォーム

Field (フィールド)	Description (説明)
カテゴリタイプ	レコードを作成するカテゴリのタイプ。選択肢は以下のとおりです。 ◦ サプライヤーカテゴリ ◦ 支出カテゴリ ◦ GHG カテゴリ
Model category (モデルカテゴリ)	カテゴリタイプに関連付ける必要がある関連モデルカテゴリ。たとえば、サプライヤーカテゴリの場合、Linux サーバー、ラックなどをモデルカテゴリとして選択できます。
カテゴリ名	カテゴリの名前。
EEIO 排出アクティビティ	カテゴリタイプに関連付けられた EEIO 排出アクティビティ。このフィールドで行われた選択は、排出量の計算に役立ちます。 i 注: 排出アクティビティは、ESG Content Accelerator アプリケーションから有効化する必要があります。

4. [送信] を選択します。

モデル別のサプライヤー排出量テーブルを構成する

サプライヤー排出量データ収集を構成して、特定の資産モデル別の排出量をキャプチャし、スコープ 3 排出量を正確に報告および計算します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin および sn_esg.program_manager

このタスクについて

モデル別のサプライヤー排出量テーブルで構成されたデータは、サプライヤーデータ収集の自動メトリクス定義で使用されます。メトリクス定義の最初の実行日より前に、モデル別のサプライヤー排出量テーブルにデータが入力されていることを確認します。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > スコープ 3 構成 > モデル別のサプライヤー排出量.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

モデル別のサプライヤー排出量フォーム

Field (フィールド)	説明
モデル	データを収集するハードウェアのモデル。

Field (フィールド)	説明
サプライヤー排出係数	サプライヤーが提供する製品またはサービスの単位あたりに生成される温室効果ガス (GHG) 排出量を定量化するために使用される測定。
サプライヤー排出係数年	サプライヤーから提供された排出係数が適用される特定の年。排出係数は毎年変動する可能性があるため、このフィールドで特定の年を選択します。
サプライヤー	サプライヤーの名前。
サプライヤー排出係数単位	活動、材料、または消費されたエネルギーの単位あたりの排出量を定量化するために使用される測定単位。対応機種は、以下の通りです。 ◦ KgCO2e/\$: この単位を選択すると、コストの合計にドルを掛けて計算されます。 ◦ KgCO2e/単位: この単位を選択した場合、単位に排出係数を乗算して計算されます。

4. [送信] を選択します。

インフレ要因の作成

時間の経過に伴う価格変動を説明するために、支出ベースの排出係数のインフレ係数を作成します。そうしないと、これらの係数が不正確になる可能性があります。支出ベースの排出係数は、金銭的支出に基づいて汚染を推定します。排出係数を適用する前にインフレに合わせて支出を調整することで、排出量排出量をより現実的に把握することができます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 すべての > **Environmental, Social, and Governance** > 管理 > インフレ要因.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

インフレ要因フォーム

Field (フィールド)	説明
国	国の名前。  注: アメリカ合衆国のインフレ要因を作成する場合は、国名を「United States」として指定する必要があります。US や USA などの他の形式の名前を使用すると、データは収集されません。
インフレ要因	異なる年の貨幣の価値を比較するために使用される価値。たとえば、2018 年に 100 ドルで購入した場合のコストを今日のドルで調べるには、インフレ係数を適用して価値の変化を調整します。

Field (フィールド)	説明
年	インフレ要因が適用される年。

4. [送信] を選択します。

ESG Management でのエンティティの管理

組織内のさまざまな事業部門など、投資先として希望するさまざまなエンティティを評価するために、投資家やレポート機関が環境、社会、ガバナンス管理 (ESG) の略である ESG を使用する方法について説明します。

エンティティには、ユーザー、プロセス、部門、またはアプリケーションを指定できます。たとえば、データセンターからの炭素排出量を削減することが目標である場合は、データセンターをエンティティと見なすことができます。

別の例として、子会社を持つ会社であるとしてします。その目標は、関連会社の温室効果ガス排出量 (GHG) を測定することです。会社と子会社の両方がエンティティです。会社が親エンティティで、子会社が子エンティティです。通常、親エンティティが子エンティティの GHG のレポートと測定を処理します。

ESG Management 戦略の一環として、ステークホルダーに開示する必要があります。ESG Management 開示は、組織の環境、社会、ガバナンス管理 パフォーマンスに関連するデータの開示を指します。これらの開示は、エンティティに関連付けられている目標、ターゲット、および測定基準に関するものです。投資家は、これらの開示およびその他の測定基準を使用して、ESG パラメーターに基づいてエンティティのパフォーマンスを算定し評価します。

子エンティティを持つ親エンティティは、ダウンストリームエンティティを持つと言われます。親エンティティを持つ子エンティティは、アップストリームエンティティを持つと言われます。

エンティティを作成した後、エンティティクラスを個別に定義するか、既存のエンティティクラスにリンクさせることによって、類似のエンティティにタグを付けることができます。

エンティティクラス

エンティティクラスは、エンティティにタグを付けたり、エンティティに関する概念情報を追加したりするために使用されます。たとえば、3 つの都市に支店がある会社を考えてみましょう。オフィススペースはエンティティと見なされますが、これらのエンティティのエンティティクラスはオフィスのロケーションです。

エンティティタイプ

エンティティタイプは、フィルタリング属性に基づくエンティティをまとめたものです。エンティティタイプは、同じ属性を持つエンティティのセットを定義します。エンティティタイプは、一連のフィルター条件に基づくエンティティを記述および識別するために使用されます。

従業員と製品の 2 つのエンティティタイプを考えてみましょう。各エンティティタイプには独自の属性があります。

従業員の場合、その属性は従業員番号、名前、部門、および肩書きです。会社のデータベースの従業員テーブルでは、従業員のサンプル属性が、1001 (従業員番号)、Paul (名前)、マーケティング (部門)、および PM (肩書き) として E1 行に表示されます。

製品の場合、その属性は製品 ID、名前、コスト、および通貨です。会社のデータベース内の製品テーブルでは、エネルギー効率の高い製品のサンプル属性が、800 (製品 ID)、Solar Panel (名前)、200 (コスト)、USD (通貨) として P1 行に表示されます。

エンティティとエンティティタイプは、1 対多の関係にすることができます。たとえば、「希望」というエンティティは「ユーザー」というエンティティタイプと「組織」というエンティティタイプを持つことができます。

関連情報

エンティティの作成

エンティティの作成

エンティティを作成し、目標に対してそのパフォーマンスを測定します。エンティティを定義すると、エンティティの所有者も識別されます。エンティティを定義すると、ESG Management の目標がエンティティに適用されます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > すべてのエンティティ**。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

[新しいエンティティ] フォーム

フィールド	説明
エンティティ	
既存のレコードを参照	新しいエンティティを既存のレコードに対して参照するオプション。
テーブル	エンティティを作成するために照会するテーブル。
適用するレコード	選択したテーブルに関連付けられているレコード。
名前	エンティティの名前。
所有者	システム管理者などのエンティティの所有者の詳細。
アクティブ	エンティティがアクティブかどうかを示すオプション。
クラス	アプリケーションやビジネスエンティティなどのエンティティに関連付けられているクラスの名前。
ロケーション	所番地、市区町村、都道府県、国などの詳細を含むエンティティのロケーションレコード。
説明	エンティティの説明。
コンプライアンス	
証明頻度	エンティティに添付されているコントロールの証明の頻度。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	◦ 日次 ◦ 週次 ◦ 毎月 ◦ 四半期ごと ◦ 半年ごと ◦ 年次

4. エンティティを保存するには、[保存] をクリックします。

i 注: [新しいエンティティ (New Entity)] フォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しいエンティティが作成されると、[概要] タブ、[詳細] タブ、およびその他の関連リストがフォームに表示されます。

タスクの結果

エンティティが作成されます。[概要] タブ、[階層] タブ、および関連リストを示した [新しいエンティティ (New Entity)] フォームが表示されます。

- エンティティタイプ
- ダウンストリームリスク
- ダウンストリームのコントロール
- ダウンストリームエンゲージメント
- ダウンストリームの問題
- ダウンストリームタスク
- ポリシー例外
- コンテンツ参照
- 目標

i 注: 一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティフォームに表示されます。たとえば、[ダウンストリームリスク] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ダウンストリームエンゲージメント] 関連リストは、監査管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。IRM ライセンスを持っている場合にのみ、[ダウンストリームのコントロール]、[ダウンストリームの問題]、および [ポリシー例外] の関連リストが表示されます。

次のタスク

エンティティの更新

エンティティの更新

既存のエンティティの詳細を更新します。

始める前に

必要なロール: sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > すべてのエンティティ**.
2. リストからエンティティをクリックします。

3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

エンティティのタブと関連リスト

フィールド	説明
タブ	
[概要] タブ	エンティティのコンプライアンスステータスとリスクステータス。問題、コントロール、およびポリシー例外の詳細の追跡。このフィールドは、ステータスの概要と追跡の詳細を表示するために自動的に設定されます。
[詳細] タブ	エンティティに関する情報。[詳細] タブの詳細については、「 エンティティの作成 」を参照してください。
[階層] タブ	選択したエンティティのアップストリームエンティティとダウンストリームエンティティ。子エンティティを持つ親エンティティは、ダウンストリームエンティティを持つと言われます。親エンティティを持つ子エンティティは、アップストリームエンティティを持つと言われます。エンティティを選択し、[追加] をクリックして、アップストリームまたはダウンストリームエンティティを親エンティティに追加します。
関連リスト	
エンティティタイプ	エンティティタイプの詳細、説明、エンティティタイプのフィルター条件、およびコンプライアンススコア (%)。
ダウンストリームリスク	番号、名前、エンティティ、クラス、リスクステートメント、リスクアセスメント方法論、所有者グループ、エンティティの所有者など、選択したエンティティのダウンストリームリスクの詳細。新しいリスクステートメントを追加するには、[追加] をクリックします。新しいリスクステートメントを作成するには、[新規] をクリックします。
ダウンストリームのコントロール	名前、番号、エンティティ、コントロール目標、状態、ステータス、免除、所有者、説明などのダウンストリームコントロールの詳細。新しいダウンストリームコントロールを追加するには、[追加] をクリックします。
ダウンストリームエンゲージメント	名前、番号、タイプ、親計画、ステータス、エンゲージメントリード、残りの経費予算 (%), 残りのリソース予算 (%), エンゲージメント開始予定などの、ダウンストリームエンゲージメントの詳細。新しいダウンストリームエンゲージメントを作成するには、[新規] をクリックします。
ダウンストリームの問題	ダウンストリームの問題の詳細 (名前、番号、問題ソース、問題タイプ、ステータス、問題マネージャー、担当者、優先度、期日など)。新

フィールド	説明
	しい問題を追加するには、[新規] をクリックします。
ダウンストリームタスク	名前、番号、親、ステータス、担当者、終了予定日などのダウンストリームタスクの詳細。
ポリシー例外	名前、番号、ステータス、サブステート、ポリシー、コントロール目標、問題、理由、要求者、有効開始日、有効期限、リスク評価などのポリシー例外の詳細。
コンテンツ参照	コンテンツ参照、説明、バージョンなど、エンティティのコンテンツ参照の詳細。新しいコンテンツ参照を追加するには、[追加] をクリックします。
目標	目標、目標の所有者、状態、ステータス、進捗状況、開始日、終了日など、エンティティに関する目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。

i 注：一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティフォームに表示されます。たとえば、[ダウンストリームリスク] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ダウンストリームエンゲージメント] 関連リストは、監査管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。IRM ライセンスを持っている場合にのみ、[ダウンストリームのコントロール]、[ダウンストリームの問題]、および [ポリシー例外] の関連リストが表示されます。

4. エンティティへの更新を保存するには、[保存] をクリックします。
5. エンティティを廃止するには、[廃止] をクリックします。
6. エントリを削除するには、[削除] をクリックします。
7. 上流エンティティ、下流エンティティ、エンティティクラス、およびエンティティに関連付けられたエンティティタイプ間の関係を視覚的に調べるには、[360 度ビュー] をクリックします。

エンティティタイプの作成

システム内のエンティティのエンティティタイプを作成します。エンティティタイプを使用すると、同じ属性を持ち、一連のフィルター条件に一致するエンティティを検索および作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース。
2. [スコーピング] で [エンティティタイプ] を選択し、[新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいエンティティタイプフォーム

フィールド	説明
名前	エンティティタイプの名前。

フィールド	説明
アクティブ	エンティティタイプをアクティブに設定するオプション。
コンプライアンススコア (%)	エンティティタイプのコンプライアンススコア。値はパーセンテージです。このフィールドは自動的に設定されます。
説明	エンティティタイプの説明。

4. エンティティタイプを保存するには、[保存] をクリックします。

i 注: 新しいエンティティタイプフォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しいエンティティタイプが作成されると、[詳細] タブおよびその他の関連リストがエンティティタイプフォームに表示されます。

5. エンティティタイプを有効にするには、次の手順を実行します。

a. [アクティブ化] をクリックします。
「このエンティティタイプを有効にしてもよろしいですか？」というメッセージが表示されます。

b. エンティティタイプを有効にするには、[OK] をクリックします。

6. エンティティタイプを削除するには、[削除] をクリックします。

タスクの結果

エンティティタイプが作成されます。新しいエンティティタイプフォームが [詳細] タブと関連リストとともに表示されます。

- エンティティ
- リスクフレームワーク
- リスクステートメント
- ポリシー
- コントロール目標
- エンティティフィルター
- ポリシー例外
- コンテンツ参照

i 注: 一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティタイプフォームに表示されます。たとえば、[リスクフレームワーク] 関連リストと [リスクステートメント] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ポリシー]、[コントロール目標]、および [ポリシー例外] の関連リストは、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

次のタスク

。 [エンティティタイプを更新することもできます。](#)

エンティティタイプの更新

既存のエンティティタイプを更新して、エンティティフィルター、ポリシー、およびコントロール目標を追加します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース。
2. [スコーピング] の [エンティティタイプ] からエンティティタイプをクリックします。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

エンティティタイプのタブと関連リスト

フィールド	説明
タブ	
[詳細] タブ	エンティティに関する情報。詳細については、「 エンティティの作成 」を参照してください。
関連リスト	
エンティティ	エンティティの詳細、エンティティの条件 (エンティティが手動で作成された場合)、およびコンプライアンススコア (%)。
エンティティフィルター	エンティティフィルタータイプ、エンティティのテーブル、エンティティフィルターのフィルター条件、使用所有者フィールド、および所有者フィールドの詳細。
リスクフレームワーク	選択したエンティティタイプのリスクフレームワークの詳細。[追加] をクリックして、新しいリスクフレームワークを追加します。
リスクステートメント	タイトル、フレームワーク、カテゴリ、説明などのリスクステートメントの詳細。[追加] をクリックして、新しいリスクステートメントを追加します。
ポリシー	名前、番号、タイプ、所有者、ステータス、有効開始日、有効期限、コンプライアンススコア (%) などのポリシーの詳細。[追加] をクリックして新しいポリシーを追加します。
コントロール目標	カテゴリ、タイプ、分類、コンプライアンススコア (%) などのコントロール目標の詳細。[追加] をクリックして新しいコントロール目標を追加します。
ポリシー例外	名前、番号、要求者、理由、ポリシー、コントロール目標、問題、ステータス、サブステート、有効開始日、有効期限、リスク評価などのポリシー例外の詳細。
コンテンツ参照	コンテンツ参照、説明、バージョンなど、コンテンツ参照の詳細。新しいコンテンツ参照を追加するには、[追加] をクリックします。

- i 注:** 一部の関連リストは、特定のアプリケーションがインストールされている場合にのみエンティティタイプフォームに表示されます。たとえば、[リスクフレームワーク] 関連リストと [リスクステートメント] 関連リストは、リスク管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。[ポリシー]、[コントロール目標]、および [ポリシー例外] の関連リストは、ポリシーとコンプライアンス管理 アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

4. エンティティへの更新を保存するには、[保存] をクリックします。
5. エンティティを廃止するには、[廃止] をクリックします。
6. エントリを削除するには、[削除] をクリックします。
7. アップストリームエンティティ、ダウンストリームエンティティ、エンティティクラス、およびエンティティに関連付けられたエンティティタイプ間の関係を視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

エンティティクラスの作成

エンティティに関連付けられるエンティティクラスを作成します。エンティティクラスの親クラス、ルートエンティティ、および階層を定義します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

エンティティクラスは、エンティティに関する概念情報を追加するために使用されます。エンティティクラスは、部門、事業部門、ビジネスサービスなどの同じ属性を持つエンティティのコレクションを表します。エンティティクラスに基づいてエンティティに関するデータを収集できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > スコーピング > エンティティクラス**。
2. **[新規]** をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しいエンティティクラスフォーム

フィールド	説明
名前	エンティティクラスの名前。
親クラス	エンティティクラスに関連付けられている親クラス (会社や部門など)。
ルートである	新しいエンティティクラスにルートエンティティがあるかどうかを確認する条件。オプションは [True] または [False] です。
階層	新しいエンティティクラスの階層 (アプリケーションやビジネスなど)。

4. エンティティクラスを保存するには、[保存] をクリックします。

- i 注:** 新しいエンティティクラスフォームには、[詳細] タブのみが表示されます。エンティティクラスが作成された後にのみ、[詳細] タブ、[エンティティ] 関連リスト、および [子クラス] 関連リストがエンティティクラスフォームに表示されます。

次のタスク

エンティティクラスの更新

エンティティクラスの更新

エンティティに関連付けられている既存のエンティティクラスを更新します。エンティティクラスは、エンティティにタグを付けたり、エンティティに関する概念情報を追加したりするために使用されます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > スコーピング > エンティティクラス。
2. エンティティクラスを選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

エンティティクラスのタブと関連リスト

フィールド	説明
タブ	
[詳細] タブ	エンティティに関する情報。詳細については、「 エンティティクラスの作成 」を参照してください。
関連リスト	
エンティティ	名前、所有者、コンプライアンススコア (%) などのエンティティの詳細。新しいエンティティを追加するには、[新規] をクリックします。
子クラス	選択した親エンティティクラスの子クラスの詳細。親エンティティクラスの新しい子エンティティクラスを追加するには、[新規] をクリックします。

4. エンティティクラスを保存するには、[保存] をクリックします。
5. アップストリームエンティティ、ダウンストリームエンティティ、エンティティ、およびエンティティクラスに関連付けられたエンティティタイプ間の関係を視覚的に探索するには、**[360 度ビュー (360° view)]** をクリックします。

GRC：メトリクス

ServiceNow® GRC：メトリクス アプリケーションを使用すると、組織は目標とターゲットを追跡して、データを収集し、データをレポートできます。

探索	構成	使用
 メトリクスアドミニストレーターが GRC：メトリクス アプリケーションを使用して目標を追跡する方法について説明します。	 GRC：メトリクス アプリケーションを構成します。	 メトリクスの定義の作成、メトリクスのデータの提供、統合の管理などのタスクには、GRC：メトリクス アプリケーションを使用します。
参照  GRC：メトリクスとともにインストールされるフィールド、テーブル、ルール、プロパティなどのコンポーネントに関する詳細を取得します。		

GRC：メトリクス の探索

メトリクスは、組織のプロセスの有効性を測定および評価するために使用します。1 つのメトリクスまたは組み合わせたメトリクスにより、システム、コンポーネント、またはプロセスに関するインサイトが得られます。GRC：メトリクス アプリケーションは、他のアプリケーションでプロセスのパフォーマンスを評価、比較、追跡することを可能にします。

メトリクス

GRC：メトリクス アプリケーションは、ServiceNow® Store から ESG Management アプリケーションとともに自動的にインストールされます。メトリクスの定義とメトリクスの読み取り、作成、更新の責任を担うユーザーロールは、ESG Management メトリクスマネージャー (sn_esg.metrics_manager) です。

GRC：メトリクス アプリケーションでは、[メトリクス] フォームを使用してメトリクスを定義できます。メトリクスは、メトリクスの定義とエンティティの組み合わせです。メトリクスの定義をエンティティに適用すると、メトリクスが作成されます。メトリクスが定義されると、プロセスの有効性とパフォーマンスを追跡するためのデータが収集されます。たとえば、インシデントの解決にかかる時間を計算することでインシデント解決プロセスの有効性を測定するメトリクスを考えてみます。

すべての組織には、独自のメトリクス分析をビルドおよび構造化するためのさまざまなデータソースがあります。有用なメトリクスを確立するために、メトリクスマネージャーは最初に目標を評価して設定する必要があります。次に、マネージャーは、ビジネス上の意思決定と統合されるメトリクスのターゲットを設定します。

定性的メトリクスと定量的メトリクス

メトリクスは、定性的測定と定量的測定に分類できます。

ESG Management の定性的メトリクスは、他の情報に基づいて作成した主観的な意見から得られます。ESG Management セクターの定性的メトリクスの例には、ブランドの信頼性、企業価値などがあります。

ESG Management 内の定量的メトリクスは、特定の式で具体的な値として測定できるメトリクスです。組織の定量的メトリクスの例には、レポートされるエネルギーの総使用量、地域別のエネルギー使用量などがあります。

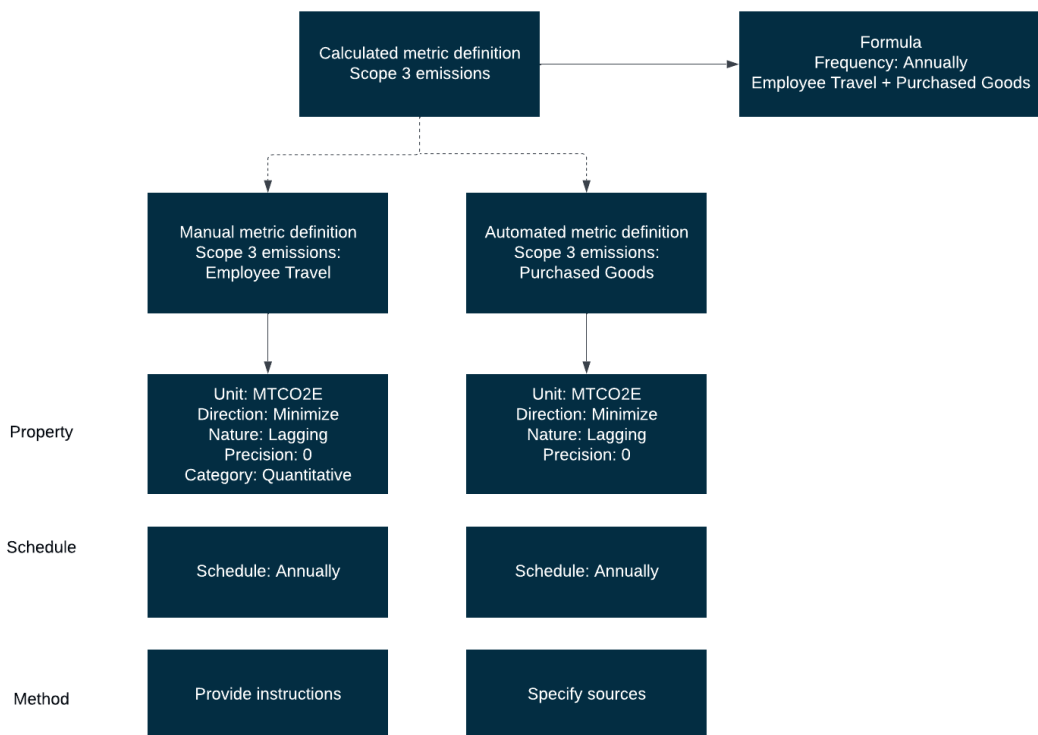
メトリクスの例

組織内のビジネスエンティティの温室効果ガス排出量を測定する例を考えてみましょう。温室効果ガス排出は、国際的な温室効果ガス (GHG) プロトコルによりスコープと呼ばれている 3 つのグループに分類されます。

従業員の出張と購入品というカテゴリに対して、スコープ 3 の排出のメトリクスを測定するとします。従業員の出張ポリシーは、組織内のすべての従業員に適用されます。メトリクスの定義で手順を指定することで、従業員の出張ポリシーのメトリクスを手動で収集できます。

一方、購入品のメトリクスは、メトリクスの定義で指定された条件、メソッド、スケジュール、およびコアプロパティに基づいて自動的に収集されます。メトリクスの収集プロセスを次の図に示します。

メトリクスの定義



エンティティ別のメトリクスデータ

エンティティ別のメトリクスデータテーブル (sn_grc_metric_data_by_entity) には、エンティティのメトリクスの定義データとメトリクスデータ、およびエンティティ階層で定義された親エンティティのアグリゲートデータが入っています。たとえば、ESG レポート開示マネージャーが特定の場所での年間総排出量を把握する必要があり、その場所に複数のサブ場所がある場合は、データを集計してレポート目的に使用することもできます。たとえば、組織の場所が日本であるとし、そして日本には東京と京都の 2 つのサブ場所があるとし、日本での 2022 年のスコープ 1 の年間総排出量を求める必要があるとし、時間次元機能を使用すれば、データを集計すると年間総排出量を出すことができます。レポート要件に応じて、四半期、週、または月のデータを集計することもできます。このテーブルのデータは、メトリクスまたはエンティティのカレンダーに従って収集されます。

GRC：メトリクスのコンポーネント

メトリクスは、メトリクスの定義、メトリクスデータ、メトリクスの定義データ、メトリクスのデータタスクといった複数のコンポーネントで構成されています。これらの要素やパーツはすべて、さまざまな方法でメトリクスの収集プロセスに貢献します。

メトリクスの定義

メトリクスの定義は、メトリクスのコアプロパティの設定に役立つテンプレートレベルのレコードです。これらのプロパティには、メトリクスの単位、方向、性質、精度、データ収集の頻度、およびカテゴリが含まれます。メトリクス自体がスコアを収集して、定義されたメトリクステンプレートにそのスコアが集計されます。メトリクスの定義を作成して使用することのメリットは、このようなメトリクスの定義テンプレートを使用することで、メトリクスを作成するプロセスを簡素化できることにあります。たとえば、複数の事業部門があり、それぞれの収益データを収集する必要があるとします。メトリクスの定義がないと、事業部門ごとに個別のテンプレートを作成し、メトリクスのプロパティを繰り返し指定する必要があります。しかし、メトリクスの定義を使用すると、このタスクを簡素化できます。メトリクスの定義を作成すれば、エンティティ (この場合は事業部門) を簡単に添付し、同じ作業を何度も行うことなくメトリクスを収集できます。

GRC：メトリクス アプリケーションには、次のタイプのメトリクスの定義が入っています。

- 自動メトリクスの定義：データは自動的に収集されます。
- 手動メトリクスの定義：データは手動で収集されます。
- 計算済みメトリクスの定義：データは、他の子メトリクスからデータを集計することによって収集されます。

メトリクスデータ

メトリクスを実行すると、メトリクスデータが作成されます。手動メトリクス定義の場合は、メトリクスデータタスクがクローズされると、メトリクスデータの値がメトリクスデータタスクからコピーされます。既存のメトリクス定義とメトリクスに関する最新情報のオフサイクル要求に対応するために、手動メトリクスでアドホックメトリクスデータタスクを作成できます。メトリクスデータフォームの [アドホック] オプションは、メトリクスデータタスクがアドホックタスクとして作成されたかどうかを示します。これらのアドホックタスクは、集計されたメトリック定義データに寄与せず、エンティティ階層のロールアップでは考慮されず、しきい値評価の差異 (%) では評価されないことに注意してください。ただし、計算済みメトリクス定義で [計算レベル] が [エンティティ] に設定されており、手動メトリクス定義からのアドホックタスクがある場合、これらのタスクが集計されて計算済みメトリクス定義データが導出されます。

スクリプト化された自動メトリクスの定義の場合は、スクリプトを実行すると値が更新されます。基本的な自動メトリクスの定義の場合は、選択したテーブルから値が更新されます。[不一致 (%)] フィールドには、現在の期間と前の期間のメトリクスデータの差異が表示されます。値はパーセンテージで表示されます。[前回の期間データ] フィールドは、前の期間のメトリクスデータを参照します。

メトリクスの定義データ

メトリクスの定義が実行されて集計されると、メトリクスの定義データが自動的に作成されます。メトリクスの定義データのページの [不一致 (%)] フィールドに、現在の期間と前の期間のメトリクスの定義データの差異が表示されます。値はパーセンテージで表示されます。[前回の期間データ] フィールドは、前の期間のメトリクスの定義データを参照します。

メトリクスのデータタスク

メトリクスのデータタスクは、手動メトリクスの定義にのみ適用されます。これらのタスクは、手動メトリクスが実行され、データ所有者がこれらのタスクに対する応答を手動で入力するたびに生成されます。メトリクスデータテーブルを使用すると、複数のメトリクスデータタスクに応答を入力できます。詳細については、「[メトリクスデータテーブル](#)」を参照してください。

メトリクスマネージャーには、メトリクスデータタスクに承認が必要かどうかを判断する権限があります。承認が必要な場合は、次の 2 つの方法から選択できます。つまり、*Metric approval* プロパティを使用して、簡易承認または詳細承認から選択できます。このプロパティの詳細については「[ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

測定基準の定義のタイプ

測定基準マネージャーは、測定基準の定義を作成することで、測定基準を定義します。メトリクスの定義はテンプレートレベルのレコードです。メトリクスの定義では、単位、方向、性質、精度、カテゴリなどのメトリクスのコアプロパティを設定します。メトリクスはスコアを収集し、これらのスコアはメトリクスの定義にロールアップされます。

GRC：メトリクス アプリケーションは、次のタイプのメトリクスの定義を提供します。

- 自動メトリクスの定義：データは自動的に収集されます。
- 手動メトリクスの定義：データは手動で収集されます。
- 計算済みメトリクスの定義：データは、他の子メトリクスからスコアを集計することによって収集されます。

これらのタイプのメトリクスの定義については、以降のセクションで詳しく説明します。

自動メトリクスの定義

自動メトリクスの定義では、メトリクスのプロパティ、メソッド、スケジュールなど、メトリクスの定義で定義された条件に基づいて、データが自動的に収集されます。このメソッドの場合、メトリクスマネージャーは、メトリクスデータの収集に使用するソーステーブルまたはスクリプトと、メトリクスデータをフィルタリングするためのフィルタリング基準を指定します。次のビデオを参照してください。自動メトリクスの定義の作成 詳細については、「[自動メトリクスの定義の作成](#)」を参照してください。

手動メトリクスの定義

手動メトリクスの定義では、データ収集のモードは手動です。特定のメトリクスのデータ所有者は、手順に従ってメトリクスデータを提供します。メトリクスマネージャーは、メトリクスの定義に対しメトリクスのプロパティ、メソッド、およびスケジュールを定義する必要があります。このメソッドの場合、メトリクスマネージャーとしてメトリクスの定義の手順を指定します。また、データ所有者タイプ、データ所有者、承認の詳細などのデータ収集の詳細を指定します。

手動メトリクスの定義では、メトリクスの定義で定義されている頻度に応じて、メトリクスデータタスクが生成されます。メトリクスマネージャーは、タスクのデータを提供するデータ所有者にタスクをアサインできます。詳細については、「[手動メトリクスの定義の作成](#)」を参照してください。メトリクスデータタスクが作成されると、システムで生成されたメール通知がタスク所有者に送信されます。メトリクスデータの所有者は、メトリクスタスクモジュール  を使用して複数のメトリクスのデータを提供できます。詳細については、「[複数のメトリクスのデータの入力](#)」を参照してください。

メトリクスデータタスクにはそれぞれ、手動メトリクスの定義フォームで定義された期日があります。デフォルトでは、期日は 8 時 ~ 5 時のスケジュールに従って決まります。ただし、ESG アドミニストレーターはスケジュールを変更することもできます。詳細については、「[新規スケジュールを作成します](#)」を参照してください。ESG アドミニストレーターがスケジュールを上書きしたい場合は、ESG アドミニストレーターが `sn_grc_metric.metric_data_task_schedule` プロパティを変更できます。

メトリクスの定量的カテゴリと定性的カテゴリはいずれも、手動メトリクスの定義を使用して作成できます。

手動メトリクスの定義を自動メトリクスの定義に、自動メトリクスの定義を手動メトリクスの定義に変換することができます。手動メトリクスの定義にオープンタスクがある場合は、手動メトリクスの定義を変換する前に、まずそのタスクをクローズする必要があります。

手動メトリクスの定義が実行されると、最初にメトリクスデータが作成され、次にメトリクスデータタスクが作成されます。このタスクは、メトリクスデータを参照します。

計算済みメトリクスの定義

計算済みメトリクスの定義は、その子からスコアを計算します。これには、自動および手動のメトリクスの定義、メトリクス (定量的)、および同じ頻度のその他の計算済みメトリクスの定義を含めることができます。メトリクスマネージャーは、メトリクスの定義スコアの計算方法と計算頻度を指定する必要があります。

計算済みメトリクスの定義は、その子からスコアをロールアップします。計算済みメトリクスの定義で定義されるロールアッププロパティは、ロールアップ式とロールアップ頻度のスケジュールから構成されています。計算済みメトリクスの定義には、自動および手動のメトリクスの定義と、その子として、親の計算済みメトリクスの定義と同じ頻度のメトリクスを含めることができます。詳細については、「[計算済み測定基準の作成](#)」を参照してください。

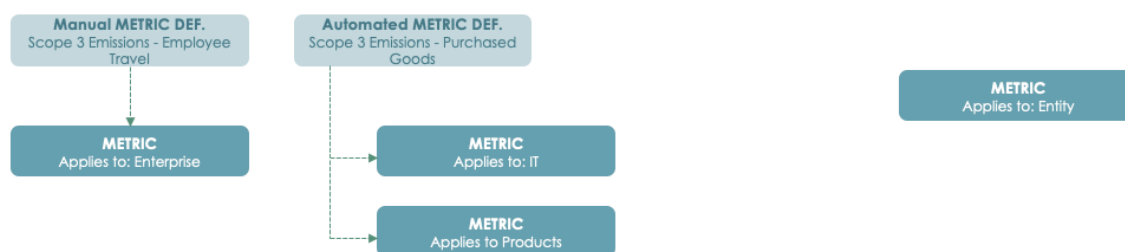
エンティティへのメトリクスの定義の適用

メトリクスの定義を組織内のエンティティに適用できます。各エンティティにメトリクスを定義する代わりに、メトリクスの定義を一旦定義してから、そのメトリクスの定義を複数のエンティティに適用することができます。

たとえば、組織内のエンティティの温室効果ガス排出量を測定するとします。各エンティティのメトリクスを定義するのは時間がかかるプロセスです。メトリクスの定義を作成することで、メトリクスを一旦定義してから、そのメトリクスの定義をエンティティに適用することができます。

次の図は、メトリクスデータ定義をエンティティに適用する方法を示しています。購入品のメトリクスカテゴリに対する自動メトリクスの定義がある場合は、そのメトリクスを組織内の製品エンティティと IT エンティティに適用できます。従業員の出張などの手動メトリクスの定義がある場合は、出張ポリシーが企業全体の全員に適用されるため、組織内の Enterprise エンティティにメトリクスを適用できます。

エンティティへの測定基準データ定義の適用



メトリクスのしきい値

メトリクスのコンテキストでは、しきい値は、メトリクスのパフォーマンスを評価するために使用される事前定義された値または制限を参照します。これらのしきい値は通常、特定の基準または目標に基づいて定義され、測定値またはパフォーマンスが目的のレベルを満たしているか、超えているか、下回るかを判断するための参照ポイントとして機能します。

しきい値の 3 色 (赤、オレンジ、緑) は、パフォーマンスまたはステータスのさまざまなレベルを示すために一般的に使用されます。これらの色はステータスを示します。緑色はメトリクスが期待どおりに良好に実行されていることを示し、オレンジは注意または警告を示し、赤色は重大な状況を示します。たとえば、汚染を減らすことを目的としたメトリクスの定義を確立し、メトリクスの方向を [最小化] に設定したとします。この場合、メトリクス値は指定されたしきい値よりも低くなければなりません。この要件は、汚染の増加を防ぎ、代わりにその削減を促進するという意図から発生します。メトリクス値が定義された制限よりも高い場合、値は赤またはオレンジで表示されます。しきい値は、定量的メトリクスの定義にのみ適用されます。

しきい値のタイプ

メトリクスのしきい値には 2 つのタイプがあります。

- 静的：メトリクスまたはメトリクスの定義の静的しきい値は、メトリクスを追跡するための制限として使用される固定値を参照します。
- 動的：動的しきい値はパーセンテージで指定されます。つまり、パーセンテージ差異は、方向と前期間データの 2 つの要素に基づいて計算されます。たとえば、特定の地域の電力消費量を追跡し、2023 年 6 月の電力消費量の値が 700 kWh だったとします。メトリクスとメトリクスの定義の方向は [最小化] です。つまり、消費量を最小限に抑える必要があるため、増加は望ましくないと見なされます。2023 年 7 月に新しいデータを収集し、消費量が 1000 kWh に増加したことがわかりました。このしきい値のステータスを評価するには、さまざまなレベルの変更を表すさまざまなしきい値を定義します。これらのしきい値は、前の期間のデータ (この場合は 2023 年 6 月

から)との差異パーセンテージとして表されます。たとえば、しきい値の範囲を 5% から 10% に設定できます。6 月から 7 月までの変化率がこの範囲内にある場合、しきい値ステータスは「オレンジ」として分類されます。これは、メトリクスが目的のターゲット値から逸脱しているが、まだ重大ではないことを示す、中程度の変化があったことを意味します。ただし、メトリクス値の変化率が 15% を超えるか 15% に達すると、しきい値ステータスは「赤」として分類されます。この増加は、目的のターゲット値から大きく逸脱しているため、即時の注意または是正処置が必要な重大な変更を示します。

関連情報

メトリクスのしきい値の作成

測定基準ランディングページ

測定基準ランディングページには、すべての測定基準と測定基準の定義の概要が表示されます。

測定基準ランディングページには、次のロールを持つユーザーのすべての測定基準と測定基準の定義の統合ビューが表示されます。

- sn_esg.metrics_manager
- sn_esg.program_manager

測定基準アイコン (📊) を使用して、測定基準ランディングページを起動できます。

測定基準ランディングページ

© Metrics

ESG metrics

Welcome, Oliver Jones

Overview Filter by All

Open metrics
📊 173

Overdue metrics
🕒 34

Metrics due in next 7 days
📅 27

Awaiting approvals
🕒 0

Rejected
🚫 1

Name	Frequency	Data owner	Approver	Unit
Auto Entity count for Entity 1	Weekly	(empty)	(empty)	#
Auto Entity count for Entity 2	Weekly	(empty)	(empty)	#
Charitable causes supported - ACME Global	Annually	Gale Nola	(empty)	#
CO2e emissions from energy usage for Brisbane DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
CO2e emissions from energy usage for Frankfurt DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
CO2e emissions from energy usage for Hong Kong DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
CO2e emissions from energy usage for Melbourne DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
CO2e emissions from energy usage for New York DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
CO2e emissions from energy usage for Paris DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide
CO2e emissions from energy usage for San Diego DC	Monthly	(empty)	(empty)	Kilograms of carbon dioxide

Showing 1-10 of 413 1 2 3 4 5 10 rows per page

Aggregated metric data

Metric definition groups Filter by All

General 14

Energy 2

Emissions 13

Water 1

Biodiversity 0

Name	Frequency	Unit
Approach to Stakeholder Engagement	Annually	(empty)
Auto Entity count	Weekly	#
Charitable causes supported	Annually	#
CO2e emissions from energy usage	Monthly	Kilograms of carbon dioxide
CO2e from hardware assets by location	Monthly	Kilograms of carbon dioxide
CO2e from hardware assets by model category	Monthly	Kilograms of carbon dioxide
Corporate grants	Annually	\$
CUE by Data Center	Monthly	Kilograms of carbon dioxide/Kilowatt-hour
WUE by Data center	Daily	(empty)
E-waste - Disposed	Monthly	Pounds

Showing 1-10 of 82 1 2 3 4 5 10 rows per page

ランディングページには、次のセクションが表示されます。

- 概要
- 集計されたメトリクスデータ

[概要] セクション

[概要] セクションでは、次のタイルに手動測定基準のデータが表示されます。

- オープン測定基準の数：手動測定基準の定義のオープンタスクの数
- 測定基準データタスクが期日を過ぎている測定基準の数：測定基準データタスクが期限切れになっている測定基準の数。
- 今後 7 日以内に期限が切れる測定基準の数：次の 7 日間に測定基準を送信する必要がある測定基準の数。
- 測定基準データタスクの承認待ちの測定基準の数：承認されていない測定基準データタスクの数。
- 却下された測定基準の数：却下された測定基準データタスクの数。

タイルを選択すると、ページ上のデータがフィルターされます。提供されているレポート分類フィルターを使用して、表示されるデータをフィルターすることもできます。レポート分類フィルターに表示されるオプションは、ユーザーが構成できます。オプションの構成方法の詳細については、「[測定基準の定義のグループ化の作成](#)」を参照してください。

このページに表示されるデータは常に最新のデータです。

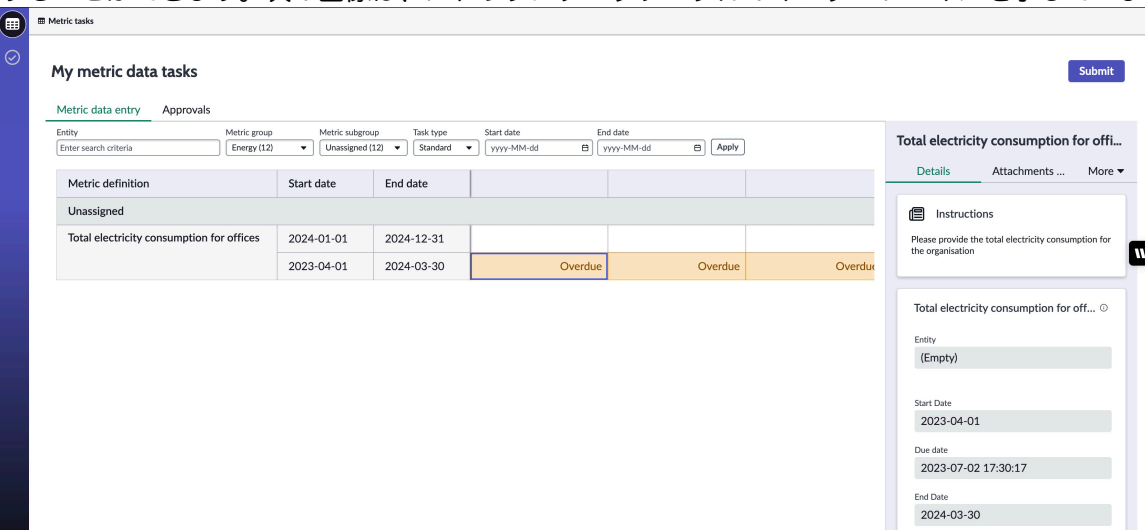
集計された測定基準データ

[集計された測定基準データ] セクションには、測定基準の定義のデータが表示されます。水平方向にスクロールしてタイルを選択すると、そのタイルに関連するデータが表示されます。タイルには、測定基準の定義で指定したグループが表示されます。たとえば、[排出量] を選択すると、排出量に関連するすべての測定基準の定義が表示されます。

メトリクスデータテーブル

メトリクスデータテーブルを使用すると、複数のフィルターやタスク管理ワークフローを備えたスプレッドシートのような使いやすいインターフェイスを使用して、組織全体のメトリクスのデータを収集できます。

データ所有者は、メトリクスデータテーブル () にアクセスして、自分にアサインされたタスクを完了することができます。次の画像は、メトリクスデータテーブルのインターフェイスを示していま



The screenshot displays the 'My metric data tasks' page. At the top, there are tabs for 'Metric data entry' and 'Approvals'. Below these are filters for Entity, Metric group, Metric subgroup, Task type, Start date, and End date. The main table lists metric tasks. The 'Total electricity consumption for offices' task is shown with a start date of 2024-01-01 and an end date of 2024-12-31. The task is marked as 'Overdue'. The right sidebar provides details for the selected task, including instructions and dates.

す。

メトリクスデータテーブルには次のメリットがあります。

- 組織全体のデータ収集が簡素化されます。
- 複数のタスク間を移動しなくても、データ所有者が対応すべきすべてのメトリクスを 1 か所に表示できます。
- エンティティ、メトリクスグループ、メトリクスサブグループ、開始日、終了日でメトリクスデータタスクをフィルタリングできるようにすることで、データ提供プロセスを簡素化します。
- オープンタスクの数を括弧内に表示します。
- データに対するすべての変更と変更を行ったユーザーの監査記録を維持します。
- メトリクスをエンティティごとに分けて表示できます。
- データを入力する際に従うべき指示など、追加情報が参照用にデータ所有者に提供されます。
- ユーザーがコンテキストサイドパネルでファイルを添付し、関連するドキュメントとリンクを添付できるようになります。
- ESG プログラムマネージャーとメトリクスマネージャーが、データ所有者から送信されたデータを確認し、コメント付きでデータを承認または却下できるようになります。
- データ所有者が [アクティビティ] タブで却下コメントを表示できるようになります。
- 定量的メトリクスの過去 3 つのデータの傾向を確認できるようになります。
- タスクの承認者と承認ステータスを確認できます。
- 前の期間のデータと比較したときのデータの差異の割合が表示されます。
- メトリクスがしきい値を超えた場合に、しきい値ステータスが表示されます。
- 最後の期間のデータを確認できます。

関連情報

複数のメトリクスの応答の提供

メトリクスの統合

測定基準統合ツールを使用すると、フラットファイルを使用してデータを正規化し、一括ロードすることで、サードパーティ ESG Management データを管理できます。フラットファイルおよび正規化データという用語は、データの電子的保存方法を指します。

測定基準の統合は、GRC：メトリクス の一般的なインポートユーティリティツールであり、スプレッドシートなどの外部ソースから測定基準データにデータをインポートするために、複数の統合で使用できます。このツールは、さまざまなマッピング構成を使用して、既存の測定基準データの作成や更新に必要なデータを取得します。

測定基準統合ツールのメリットは次のとおりです。

- 一括データアップロード用のフラットファイル正規化を提供します。
- 独自の統合の構成を有効にするか、Watershed 統合などの ServiceNow によって提供されるデフォルト構成を使用します。
- 測定基準の定義の自動作成を有効にします。
- 一括でのデータ作成や更新を自動化する機能を提供します。
- エンティティタイプとエンティティの作成を自動化する機能を提供します。
- 測定基準の独自の正規化ルールとアップロードルールを設定する機能を提供します。

- 更新または作成されるデータのアップロード形式を確認するために、データのステージングを支援します。
- ユーザーが、エラーログを使用して、データベースにロードする前にデータをクリーンアップできるようにします。

[測定基準統合] フォームでは、[データマッピングを作成](#)することもできます。データマッピングを使用すると、測定基準の定義を使用して Watershed スプレッドシートなどの任意のデータソースの列をマッピングできます。システムに従ってデータがマッピングされていることを確認する必要があります。たとえば、Watershed でエンティティに「Office at Atlanta, US」という名前を付けているのに対して、測定基準の定義では「Atlanta, US-office」というエンティティ名が付いていることがあります。この違いにより、データのインポート時に不一致が発生します。この問題を防ぐには、データマッピングが正確であることを確認する必要があります。データをマッピングするときは、測定基準がエンティティ、エンティティタイプ、および測定基準の定義の組み合わせから派生されることを理解することが重要です。したがって、データマッピングに次のテーブルが必要です。

- sn_grc_profile
- sn_grc_profile_type
- sn_grc_metric_definition

異なる会計年度の管理

多くのグローバル組織はさまざまな国で事業を展開しており、各国は標準のグレゴリオ暦に従うのではなく、独自の会計カレンダーに従うことができます。会計カレンダーを作成すると、他の場所のエンティティが独自の会計カレンダーに従ってデータを収集できるようになります。

グローバルレポート用のレポートカレンダーを含む、複数の会計カレンダーを作成できます。このレポートカレンダーをメトリクスの定義で使用し、ターゲットカレンダーとして設定する必要があります。ソースカレンダーと呼ばれる他のカレンダーは、ターゲットカレンダーにマッピングされます。

インドに親会社があり、米国とオーストラリアという異なる国で2つの子会社を運営しているとします。米国政府の会計年度は10月1日から9月30日まで、オーストラリアの会計年度は7月1日から6月30日までです。親組織は、4月1日から3月31日までのインドの会計カレンダーに従います。このコンテキストでは、メトリクスデータは各国の会計年度に従って収集され、データ集計に使用されるグローバルカレンダーに従って集計されます。米国のメトリクスデータが100、オーストラリアのメトリクスデータが200の場合、親組織が使用するグローバルカレンダーのデータの合計は300になります。ここでは、米国とオーストラリアの会計カレンダーがソースカレンダーと見なされ、親組織で使用されるグローバルカレンダーがターゲットカレンダーです。

会計年度でサポートされるデータ収集頻度は4つあり、それらは次のとおりです。

- 毎月
- 四半期ごと
- 半年ごと
- 年の月と日

会計カレンダーを作成したら、カレンダーをマッピングして、ターゲットカレンダーとソースカレンダーを指定する必要があります。これらのカレンダーは、メトリクスの定義とメトリクスで使用できます。メトリクスで指定されたカレンダーはデータ収集に使用され、メトリクスの定義で指定されたカレンダーはデータ集計に使用されます。つまり、メトリクスの定義にグローバルカレンダーが指定されており、メトリクスに米国カレンダーが指定されている場合は、グローバルカレンダーがデータ集計に使用されます。カレンダーのマッピングの詳細については、「[ターゲットカレンダーとソースカレンダーのマッピング](#)」を参照してください。

 注: カレンダーは毎月1日に開始する必要があります。

関連情報

[会計カレンダーの作成](#)

GRC：メトリクスの構成

GRC：メトリクス を構成して、組織のニーズを満たすことができます。

測定基準管理者は、次のタイプの測定基準の定義を構成できます。

- [自動測定基準の定義](#)
- [手動測定基準の定義](#)
- [計算済み測定基準の定義](#)

手動メトリクスの定義の作成

メトリクスのデータを手動で収集するには、手動メトリクスの定義を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

手動測定基準の定義では、データ収集のモードは手動です。定性的および定量的メトリクスを設定するためのオプションがあります。

- i 注：** 自動メトリクスの定義または手動メトリクスの定義を作成するためのフォームは、同じ sn_grc_metric_definition テーブルを指します。2 つのフォームの違いは収集のメソッドです。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 手動メトリクスの定義**.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
フィールドの詳細については、「[\[手動メトリクスの定義\] のフィールド](#)」を参照してください。
4. [保存] をクリックします。

タスクの結果

メトリクスの定義は [メトリクスの定義] リストに保存されます。

次のタスク

エンティティタイプを関連付けて、メトリクスを作成し、メトリクスの定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「[メトリクスの定義の更新](#)」を参照してください。

[手動メトリクスの定義] のフィールド

[手動メトリクスの定義] フォームのフィールドについて詳しく説明します。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	手動メトリクスの定義の名前。たとえば、「インシデントの数」。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
アクティブ	手動メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	手動メトリクスの定義の簡潔な説明。
カテゴリ	メトリクスデータのカテゴリ。選択肢は次のとおりです。 • 定性的：定性的データは本質的に無形であり数値ではありません。プロセスまたはビジネスアクティビティの特性によって定義されます。 • 定量的：定量的データは本質的に有形であり数値で表されます。数値または重要業績評価指標によって定義されます。 i 注：[性質]、[方向]、[精度]、および[単位]の各フィールドは、手動メトリクスの定義のカテゴリが[定量的]の場合にのみ表示されます。
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー (Standard Calendar)] に設定されます。 i 注：標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
アグリゲーション方法	すべてのエンティティのメトリクスデータを計算するために使用される方法。たとえば、人員、部門、地域など、複数のエンティティについて測定する際のメトリクスがある場合、各エンティティのスコアをどのように計算すれば、全体的なパフォーマンスを表す単一のスコアを算出できるかを知りたい場合があります。集計方法の選択は、メトリクスの収集の目標によって異なります。たとえば、全体的なパフォーマンスに関心があり、エンティティ間での規模やサイズの違いを考慮する必要がある場合は、合計または平均がより適切であると思われます。最高のパフォーマンスを発揮するエンティティを特定するには最大値が適切であり、最もパフォーマンスの低いエンティティを特定するには最小値が適切であると思われます。集計は、メトリクスの定義で指定された頻度に基づいて、期間全体で行われます。頻度が月次の場合、計算は毎月行われます。集計方法の 4 つの選択肢は次のとおりです。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 合計：すべてのエンティティのメトリクスデータの合計によって、単一のスコアが作成されます。 • 平均：すべてのエンティティのメトリクスデータの平均によって、単一のスコアが作成されます。 • 最大：すべてのエンティティの中で最も高いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。 • 最小：すべてのエンティティの中で最も低いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。
単位	手動メトリクスの定義の単位。
精度	スコア的小数点以下の桁数。このフィールドは自動的に 0 に設定されます。 精度が 0 に設定されている場合、結果は最も近い整数に丸められます。たとえば、精度が 0 のメトリクスの定義で値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 精度が 0 より大きな値に設定されている場合、結果は、指定された精度に最も近い小数点に丸められます。たとえば、精度が 1 の場合、4.45 の結果は 4.5 に丸められます。
頻度	メトリクスの定義でスコアを収集する必要がある頻度。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
最初の開始日	頻度に応じたデータ収集のメトリクス定義の実行開始日。このフィールドは、[カテゴリ] フィールドが [定量的] に設定されている場合に表示されます。
データコレクション	
データ所有者タイプ	手動メトリクスの定義を担当するデータ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• ユーザー • ユーザーグループ
データ所有者	手動メトリクスの定義を担当するデータ所有者。リストからデータ所有者を選択します。
説明	データ所有者向けの説明。手動メトリクスの定義の収集方法。
承認が必要	手動メトリクスの定義に承認が必要かどうかを示すオプション。 i 注: [承認が必要] オプションを有効にすると、[承認者タイプ] フィールドと [承認者] フィールドが表示されます。
承認者タイプ	メトリクスの定義の承認者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ i 注: このフィールドは、メトリクスの承認プロパティが [簡易 (Simple)] に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
承認者	メトリクスの定義を承認する承認者ユーザーまたは承認者グループ。選択肢は次のとおりです。 • 承認者: [ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 • 承認者グループ: [ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 i 注: このフィールドは、メトリクスの承認プロパティが [簡易 (Simple)] に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。
メトリクスのプロパティ	
タイプ	スコアが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• 自動 • 手動 [手動] を選択します。
エンタープライズ所有者タイプ	手動メトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
方向	メトリクスを表示する方向。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きである場合は、このオプションを選択します。 • 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きである場合は、このオプションを選択します。 • マイルストーン：メトリクスの方向が適用されないが、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。
グループ	メトリクスが関連する領域。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
期日オフセット	メトリクスデータタスクが期限切れになるスケジュール最終日からの経過日数。たとえば、メトリクスの定義の頻度が月次で、このフィールドに 15 を入力した場合、メトリクスデータタスクの期日はその月の終了から 15 日後になります。
Enterprise 所有者	手動メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。
性質	手動メトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 先行 (予測型) メトリクス：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要なメトリクスを使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG

新しい手動メトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	排出量を予測できます。この主要なメトリクスにより、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 • 遅行 (影響度を測定する) メトリクス：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行メトリクスは、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。このメトリクスにより、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。このメトリクスを経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行メトリクスは、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 • 現在のメトリクス：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在のメトリクスは、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。このメトリクスは、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
サブグループ	メトリクスに関連するサブグループ。
主要メトリクス	ビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
機密性	i 注：このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 • GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 • レコードが [ドラフト] ステータスである。
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 i 注：デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

自動メトリクスの定義の作成

メトリクスのデータを収集するための自動メトリクスの定義を作成します。メトリクスの定義では、メトリクスの方法と主要なプロパティ (メトリクスの単位、方向、性質など) を指定します。

始める前に

必要なロール：sn_grc_metric.manager、sn_risk.user、および sn_compliance.user

このタスクについて

自動メトリクスの定義では、メトリクスの定義で定義された条件に基づいて、データが自動的に収集されます。条件では、メトリクスデータの収集に使用するテーブルを指定できます。たとえば、特定の月に記録されたすべてのインシデントのデータを取得する場合は、データ収集のソースとしてインシデントテーブルを指定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 自動メトリクスの定義**。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。
フォームのフィールドの詳細については、「[自動メトリクスの定義のフィールド](#)」を参照してください。
4. [保存] をクリックします。

i 注：新しい自動メトリクスの定義フォームには、[詳細] タブのみが表示されます。新しい自動メトリクスの定義が作成されると、追加の関連リストが [詳細] タブとともにフォームに表示されます。

タスクの結果

自動メトリクスの定義は [メトリクスの定義] リストに保存されます。

次のタスク

エンティティタイプを関連付けて、メトリクスを作成し、メトリクスの定義に信頼できるソースコンテンツを追加することができます。詳細については、「[メトリクスの定義の更新](#)」を参照してください。

自動メトリクスの定義のフィールド

このトピックでは、[自動メトリクスの定義] フォームのフィールドについて説明します。

新しい自動メトリクスの定義フォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	自動メトリクスの定義の名前たとえば、「インシデントの数」。
アクティブ	自動メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	自動メトリクスの定義の簡潔な説明。
単位	自動メトリクスの定義の単位。データを表示する際の単位を定義できます。
集計方法	集計方法とは、すべてのエンティティのメトリクスデータを計算するために使用される方法を

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	指します。たとえば、人、部門、地域など、複数のエンティティについて測定する際のメトリクスがある場合、各エンティティのデータをどのように計算すれば、全体的なパフォーマンスを表す単一のスコアを算出できるかを知りたい場合があります。アグリゲーション方法の選択は、メトリクスの収集の目標によって異なります。たとえば、全体的なパフォーマンスに関心があり、エンティティ間での規模やサイズの違いを考慮する必要がある場合は、合計または平均がより適切であると思われます。最高のパフォーマンスを発揮するエンティティを特定するには最大値が適切であり、最もパフォーマンスの低いエンティティを特定するには最小値が適切であると思われます。集計は、メトリクスの定義で指定された頻度に基づいて、期間全体で行われます。頻度が月次の場合、計算は毎月行われます。集計方法の 4 つの選択肢は次のとおりです。 • 合計：すべてのエンティティのメトリクスデータの合計によって、単一のスコアが作成されます。 • 平均：すべてのエンティティのメトリクスデータの平均によって、単一のスコアが作成されます。 • 最大：すべてのエンティティの中で最も高いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。 • 最小：すべてのエンティティの中で最も低いメトリクスデータが単一スコアとして使用されます。
クラス	メトリクスの定義が属するクラス。選択肢は次のとおりです。 • KPI：目標に対してリスクエクスポージャーがどの程度管理されているかを示します。このオプションを使用して、エンティティと追加エンティティをメトリクスの定義に追加します。 • KRI：指定されたリスクまたは一連のリスクに対するエクスポージャーの量を示します。このオプションを使用して、メトリクスの定義にリスクとリスクステートメントを追加します。このオプションは、高度なリスク プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 • KCI：特定のリスクエクスポージャーを削減または緩和するために実装されたコントロールの有効性を示します。このオプションを使用

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	して、コントロールとコントロール目標をメトリクスの定義に追加します。このオプションは、ポリシーとコンプライアンス管理 プラグインがアクティブ化されている場合に使用できます。 i 重要: このフィールドは、IRM アプリケーションスイートからメトリクスの定義が作成された場合にのみ表示されます。環境、社会、ガバナンス管理 では表示されません。
精度	スコアの小数点以下の桁数。 インジケータの [精度] が 0 の場合、インジケータは結果を最も近い整数に丸めます。たとえば、[精度] が 0 のインジケータが値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 インジケータの [精度] が 0 より大きい場合、指定された精度に最も近い小数点に丸めます。たとえば、[精度] が 1 のインジケータは、4.45 の結果を 4.5 に丸めます。
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー (Standard Calendar)] に設定されます。 i 注: 標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
頻度 (Frequency)	メトリクスが実行される収集頻度。メトリクスの定義でデータを収集する頻度を示します。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
最初の開始日	自動メトリクスの定義の収集頻度スケジュールの開始日。
データコレクション	

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
メソッドタイプ	自動メトリクスのタイプ。選択肢は次のとおりです。 • 基本：合計、平均、最大、最小、個別のカウントなどの集計方法を使用することを示します。 • スクリプト：カスタムスクリプトを使用してデータを収集することを示します。複数のテーブルからデータを収集する場合などにこのオプションを使用できます。 • 外部ソース：データが外部ソースから収集されることを示します。たとえば、組織内の従業員数とその性別比に関するデータを入手したい場合は、ヒューマンリソース (HR) データを格納するアプリケーションである Workday などの外部ソースから情報を取得できます。 i 注: [スクリプト化] を選択した場合は、フォームを保存し、[スクリプトを追加] を選択してスクリプトを追加する必要があります。sn_grc_metric.developer ロールを持つユーザーのみがスクリプトを追加できます。
テーブル	メトリクスに対するデータの取得元のテーブル。このフィールドは、[メソッドタイプ] フィールドが [基本] に設定されている場合にのみ表示されます。
基準	データの収集元となるレコードの条件。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加することでフィルターを作成し、[設定] をクリックします。たとえば、期日が当月にあるインシデントのみのデータを収集するという条件を作成できます。 i 注: このフィールドを変更する前に、[テーブル] フィールドの値を選択します。
集計	選択したテーブルからデータを集計するために使用される方法または計算。[集計] フィールドでオプションを選択すると、[集計] フィールドの横に新しい [集計フィールド] が表示されます。[集計フィールド] には、選択したレコードが表示されます。[集計] フィールドの選択肢は次のとおりです。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
	• カウント：選択したテーブルから取得されたレコードの数。たとえば、インシデントの数が必要な場合は、このオプションを選択します。  注：[カウント] が選択されている場合、[集計フィールド] は表示されません。 • 合計：[集計フィールド] で選択されている列の合計。 • 平均：[集計フィールド] で選択された列の値の平均。 • 最大：[集計フィールド] で選択された列の最大値。 • 最小：[集計フィールド] で選択された列の最小値。 • 個別のカウント：[集計フィールド] でグループ化された結果セット内のグループの数。
テーブルフィールド	[テーブル] フィールドで選択されているテーブルの列またはフィールド。たとえば、インシデントテーブルの [問い合わせユーザー] 列を選択できます。この選択により、インシデントテーブルに関連付けられている問い合わせユーザーを把握し、自身のエンティティの問い合わせユーザーと比較できます。  注：このフィールドを変更する前に、テーブルを選択します。
集計フィールド	集計を実行する必要がある [テーブル] フィールドで選択されているテーブルの列またはフィールド。  注：[集計] フィールドで [カウント] が選択されている場合、このフィールドは表示されません。
エンティティフィールド	エンティティテーブルの列またはフィールド。エンティティは、[テーブルフィールド] で選択されたフィールドと [エンティティフィールド] で選択されたフィールドに基づいて照合されます。このフィールドは自動的に [適用するレコード] に設定されます。この手順のインシデントテーブルのコンテキストでは、このフィールドを使用して、たとえば、どのインシデントがどの発信者によってログに記録されたかを比較できます。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
メトリクスのプロパティ	
タイプ	データが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。選択肢は次のとおりです。 • 自動 • 手動 自動メトリクスの定義を作成する手順であるため、[自動] を選択します。
エンタープライズ所有者タイプ	自動メトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 • ユーザー • ユーザーグループ
方向	メトリクスを表示する方向。選択肢は次のとおりです。 • なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 • 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きまたは降順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、燃料消費量を最小限に抑える場合です。 • 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きまたは昇順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内で天然資源の使用を最大化する場合です。 • マイルストーン：メトリクスの方向が適用されないが、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が新しい再生可能エネルギー製品を市場に投入する場合、今後の発売日がマイルストーンと見なされます。
グループ	メトリクスが関連する領域。たとえば、メトリクスは、性別の多様性、エネルギー、水の消費量などの分野に関連していたり、スコープ 3 排出量に関連している場合があります。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
Enterprise 所有者	メトリクスの所有者であり、メトリクスを担当するユーザー。たとえば、収益の収集などのメトリクスの場合、事業部門の副社長またはゼネラルマネージャーがエンタープライズ所有者になる可能性があります。

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
性質	自動メトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 - なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 - 先行 (予測型) メトリクス：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要なメトリクスを使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要なメトリクスにより、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 - 遅行 (影響度を測定する) メトリクス：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行メトリクスは、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。このメトリクスにより、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。このメトリクスを経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行メトリクスは、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 - 現在のメトリクス：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在のメトリクスは、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。このメトリクスは、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。
サブグループ	メトリクスに関連するサブグループ。
主要メトリクス	メトリクスがビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
機密性	

新しい自動メトリクスの定義フォーム (続く)

フィールド	説明
i 注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 - GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 - レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

計算済み測定基準の作成

自動測定基準の定義、手動測定基準の定義、および計算済み測定基準の定義を集計して、計算済み測定基準の定義を作成します。

始める前に

必要なロール: `sn_esg.metric_manager`

このタスクについて

他のメトリクスの定義と組み合わせることができる計算済みメトリクスの定義を作成し、子メトリクスの定義で収集されたデータを使用して、複雑なシナリオのデータを計算および集計することができます。メトリクスの定義を集計する頻度と方法を指定することもできます。

手順

- 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義**.
- [新規] をクリックします。
- フォームのフィールドに入力します。
フィールドの詳細な説明については、「[計算済みメトリクスの定義のフォーム](#)」を参照してください。
- [保存] をクリックします。
- データを集計するには、[集計] を選択します。

タスクの結果

メトリクスの定義は [メトリクスの定義] リストに保存されます。

次のタスク

測定基準の式を指定します。「[計算済みメトリクスの定義で計算式をビルドする](#)」を参照してください。

計算済みメトリクスの定義のフォーム

このトピックでは、計算済みメトリクスの定義のフォームのフィールドについて説明します。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム

フィールド	説明
基本的な詳細	
名前	計算済みメトリクスの定義の名前。たとえば、「従業員の数」。
アクティブ	計算済みメトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
説明	計算済みメトリクスの定義の簡潔な説明。
単位	メトリクスの定義の単位。スコアの表示単位を定義できます。よく使用される単位は、デフォルトで提供されています。
精度	スコア的小数点以下の桁数。このフィールドは自動的に 0 に設定されます。 精度が 0 に設定されている場合、結果は最も近い整数に丸められます。たとえば、精度が 0 のメトリクスの定義で値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。 精度が 0 より大きな値に設定されている場合、結果は、指定された精度に最も近い小数点に丸められます。たとえば、精度が 1 の場合、4.45 の結果は 4.5 に丸められます。
カレンダー	メトリクスのアグリゲーションに使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ選択できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー (Standard Calendar)] に設定されます。 i 注: 標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。
頻度 (Frequency)	計算済みメトリクスの定義の頻度。このフィールドは、メトリクスの定義でスコアをロールアップする頻度を示します。選択肢は次のとおりです。 • 日次 • 週次 • 毎月 • 四半期ごと • 半年ごと • 年次
計算	
計算レベル	計算が実行されるレベル。選択肢は次のとおりです。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	- メトリクスの定義：メトリクスの定義レベルでデータを計算する場合、すべての子メトリクスの定義または子メトリクスにわたるデータが計算に使用されます。 - エンティティ：エンティティレベルでデータを計算し、計算式ビルダーを使用して計算方法を指定すると、すべての子メトリクスの定義にわたる共通エンティティが照合され、エンティティごとにデータが計算されます。データをアグリゲートしてメトリクスの定義レベルで全体的なスコアを取得するには、[エンティティ] を選択します。
アグリゲーション方法	エンティティレベルでメトリクススコアを集計する方法。選択肢は次のとおりです。 - なし - 合計 - 平均 - 最大 - 最小 このフィールドは、[計算レベル] フィールドが [エンティティ] に設定されている場合にのみ表示されます。
メトリクスのプロパティ	
エンタープライズ所有者タイプ	計算済みメトリクスの定義を担当するエンタープライズ所有者。選択肢は次のとおりです。 - ユーザー - ユーザーグループ
Enterprise 所有者	メトリクスの定義の Enterprise 所有者。
方向	メトリクスを表示する方向。選択肢は次のとおりです。 - なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 - 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きである場合は、このオプションを選択します。たとえば、データセンターからの炭素排出量を最小限に抑える場合です。 - 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きである場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内でエネルギー効率の高いリソースの使用を最大化する場合です。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
	• マイルストーン：メトリクスの方向が適用されず、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が 2029 年末までに 100% 再生可能エネルギーを使用することを目標としている場合、その目標の日付がマイルストーンと見なされます。
性質	計算済みメトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 • なし： • 先行 (予測型) メトリクス：予測型であり、将来の結果を予測するために役立ちます。この場合、企業は、生産単位あたりのエネルギー消費量など、GHG 排出量に関連する主要なメトリクスを使用できます。エネルギー消費を追跡することで、使用するエネルギー源と生産プロセスの効率に基づいて、将来の GHG 排出量を予測できます。この主要なメトリクスにより、企業は改善が必要な領域を事前に特定し、情報に基づいた意思決定を行うことで、排出量を削減できます。 • 遅行 (影響度を測定する) メトリクス：過去のアクションまたはイベントの影響度を測定します。この例では、GHG 排出量に関連する遅行メトリクスは、特定の年に会社が出した総排出量である可能性があります。このメトリクスにより、会社の過去の環境に対する影響のアセスメントが行われます。このメトリクスを経時的に監視することで、会社は排出削減への取り組みの有効性を評価し、さらに改善が必要な領域を特定できます。遅行メトリクスは、過去のアクションの結果を測定し、将来の戦略に対して情報を提供するために役立ちます。 • 現在のメトリクス：進行中のプロセスを監視し、リアルタイムの改善領域を特定します。GHG 排出量の場合、現在のメトリクスは、生産単位あたりの排出量を測定する排出原単位である可能性があります。排出原単位を追跡することで、企業は、排出量の増加に寄与している事業内の特定の領域を特定できます。このメトリクスは、エネルギー使用の最適化、エネルギー効率の高いテクノロジーの導入、再生可能エネルギー源の採用など、企業がリアルタイムでの改善の機会を特定するために役立ちます。

新しい計算済みメトリクスの定義のフォーム (続く)

フィールド	説明
グループ	メトリクスが関連する領域。たとえば、メトリクスは、エネルギーや水の排出量などの領域に関連している場合があります。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
サブグループ	メトリクスが関連するサブグループ。
主要メトリクス	ビジネスの重要なメトリクスであるかどうかを示すオプション。
機密性	
i 注: このセクションは、次の状況が当てはまる場合にのみ表示されます。 - GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 - レコードが [ドラフト] ステータスである。	
機密	レコードを機密としてマークするオプション。
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

計算済みメトリクスの定義で計算式をビルドする

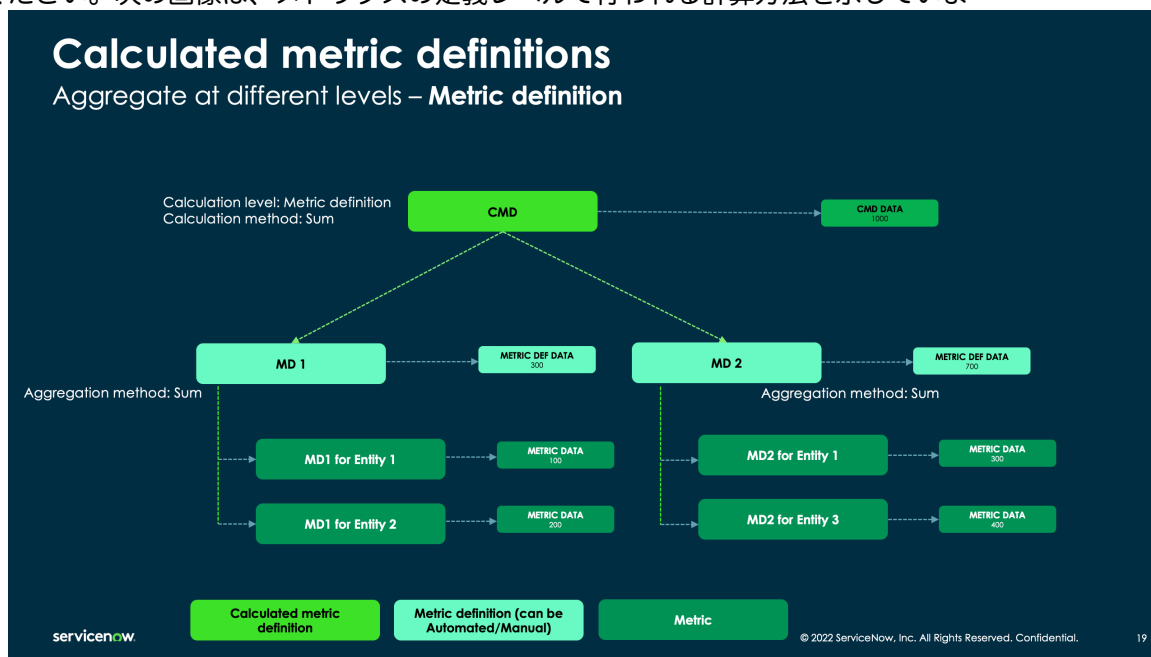
計算済みメトリクスの定義では、必要に応じて計算を実行する式を作成できます。

計算式は、オペランド、演算子、および関数で構成されます。たとえば、2 つのメトリクス定義 (男性従業員数と女性従業員数) から合計従業員数を計算する場合、選択されたメトリクス定義がオペランドであり、演算子はオペランドに対して特定の演算を実行して結果を取得する記号または関数です。演算子の例としては、加算 (+)、減算 (-)、乗算 (*)、除算 (/) などがあります。

計算済みメトリクスの定義で式を作成するときは、メトリクスの定義レベルまたはエンティティレベルのいずれかでビルドすることができます。計算済みメトリクスの定義フォームを保存し、メトリクスの定義スコア計算の式をビルドする前に、計算済みメトリクスの定義フォームで計算レベルを指定する必要があります。2 つのレベルは次のとおりです。

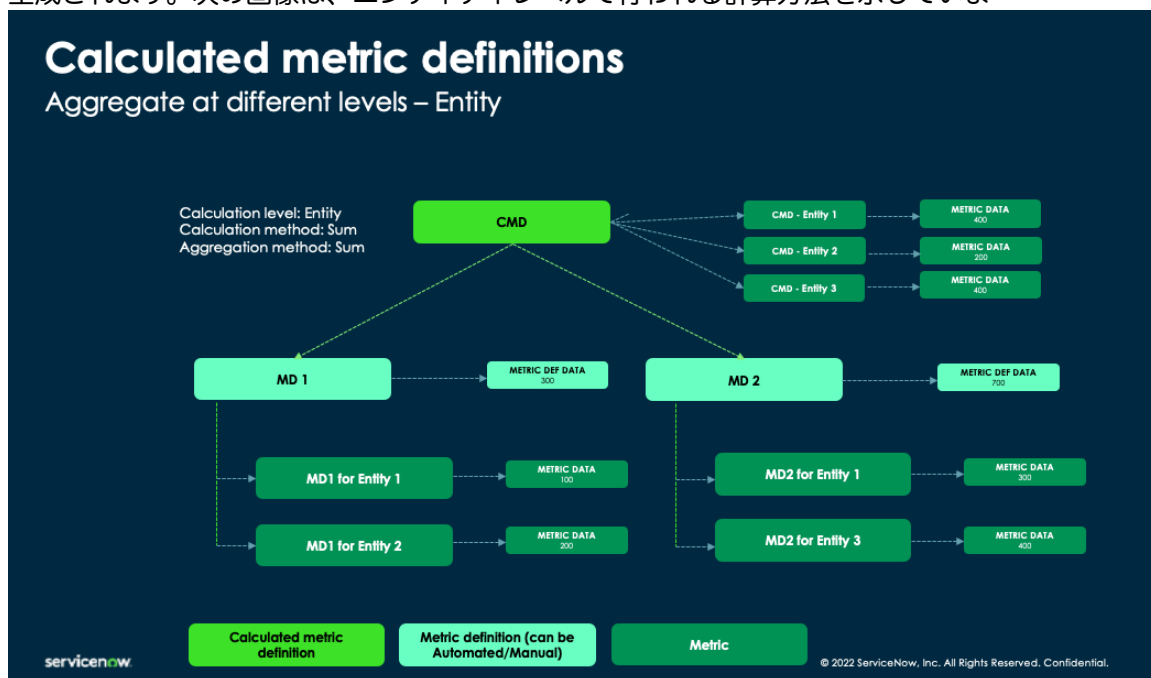
- メトリクスの定義: [計算レベル (**Calculation level**)] フィールドで [メトリクスの定義] を選択した場合、すべての子メトリクスの定義または子メトリクスにわたるデータが計算に使用されます。[実行] を選択すると、式が適用され、計算されたメトリクスの定義データが生成されます。詳細については、「[計算式ビルダーの構成](#)」を参照し

てください。次の画像は、メトリクスの定義レベルで行われる計算方法を示しています



す：

- エンティティ：[計算レベル (Calculation level)] フィールドで [エンティティ] を選択し、計算式ビルダーを使用して計算方法を指定すると、計算済みメトリクスの定義に対して子メトリクスが作成されます。これらのメトリクスは、式でオペランドとして使用されているメトリクスの定義に関連付けられている個別のエンティティごとに作成されます。メトリクスの定義を実行すると、式が適用され、メトリクスデータが生成されます。メトリクスの定義を集計すると、メトリクスデータが集計され、計算されたメトリクスデータが生成されます。次の画像は、エンティティレベルで行われる計算方法を示しています



す：

関連情報

計算式ビルダーの構成

計算式ビルダーの構成

計算式を作成する前に、式のコンテキスト、テーブル、および識別子を指定します。

始める前に
必要なロール：admin

このタスクについて

計算済みメトリクスの定義で計算式を作成する前に、計算式ビルダーを構成する必要があります。構成時に、計算式のコンテキスト、使用するテーブル、その他の条件を指定できます。ESG Management のコンテキストで、メトリクスの定義レベルで計算式をビルドする場合は、構成時にメトリクスの定義テーブルとメトリクステーブルを選択する必要があります。エンティティレベルで計算式を作成するには、メトリクスの定義と排出係数テーブルを選択する必要があります。他のアプリケーションは、使用に必要なテーブルを使用できます。計算式の作成時に、排出係数とともに表示する列とそのラベルを構成できます。これらのラベルは、排出係数を簡単に識別するのに役立ちます。

手順

1. 移動先 **すべて** > **計算式ビルダー** > **構成**。
2. **[新規]** を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

計算式ビルダーの構成フォーム

フィールド	説明
式のコンテキスト	特定のオプションの計算式の作成に使用できる構成。ESG の選択肢は次のとおりです。 ◦ 計算レベル：エンティティ ◦ 計算レベル：メトリクスの定義 i 注：他のアプリケーションのユーザーは、さまざまなコンテキストオプションを選択できます。
アプリケーション	アプリケーションのスコープ。このフィールドは自動的に設定されます。
テーブル	計算式をビルドする際に使用するテーブル。
条件	式をビルドするときに、選択したテーブルからレコードをフィルタリングするために使用する基準。たとえば「ドメインが ESG である」という条件を作成できます。
表示フィールド	[名前] フィールドや [ID] フィールドなどのオペランドで一意に表示される名前。
識別子	特定のテーブル名に関連付けられている小文字の 2 文字の短縮形の組み合わせ。たとえば、テーブル名が「ハードウェアアクセサリ (Hardware accessories)」の場合、識別子は ha になります。 i 注：fn は関数を参照するため、識別子として fn を使用することはできません。
追加の列を表示 (Show additional columns)	追加の列を表示するかどうかを決定するオプション。

フィールド	説明
	i 注: このオプションは、排出係数名が重複している場合に便利です。追加の詳細を表示すると、メトリクスマネージャーが適切な排出係数を選択するのに役立ちます。
プライマリ列	計算式の構築中に排出係数に表示するプライマリ列。たとえば、[開始単位 (From unit)] を選択すると、排出係数の開始単位が係数名とともに表示されます。
セカンダリ列	計算式の構築中に排出係数に表示するセカンダリ列。たとえば、[終了単位 (To unit)] を選択すると、排出係数の終了単位が係数名とともに表示されます。
プライマリ列のラベル	選択されたプライマリ列の優先ラベル。たとえば、[プライマリ列] フィールドで [簡単な説明 (Short Description)] を選択した場合は、優先ラベルを <code>Short Desc</code> として指定できます。
セカンダリ列のラベル	選択されたセカンダリ列の優先ラベル。

4. [送信] を選択します。

計算済みメトリクスの定義への計算式のインポート

Microsoft Excel スプレッドシートに保存されている計算式を計算済みメトリクスの定義に直接インポートします。インポートすることで、計算を実行するための計算式をすばやくビルドできます。

始める前に

必要なロール: システムアドミン

このタスクについて

スプレッドシートに保存された計算式があり、計算式の作成に使用するために計算済みメトリクスの定義に含めたい場合があります。このような場合、数式インポート機能が役立ちます。スプレッドシートに、まったく同じ列名を持つ次の列が含まれていることを確認することが重要です。

- 名前
- 頻度 (Frequency)
- Formula (計算式)
- 計算レベル
- ドメイン領域

手順

1. 移動先 **すべて > システムインポートセット > 管理 > データソース**.
2. [メトリクスの定義データソース] を選択します。
3. 添付ファイルを管理アイコンを選択し、数式を含むファイルをアップロードします。
4. [すべてのレコードをロード] 関連リンクを選択します。
5. [変換の実行] を選択します。
6. [Transform] を選択します。

タスクの結果

計算済みメトリクスの定義は、すべてのメトリクスの定義のリストにある式とともに利用可能になります。

計算式の作成

エンティティまたはメトリクスの定義を使用して独自の計算式を作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

sn_risk.user (リスクユーザーの場合)

このタスクについて

計算式の作成では、最大、最小、平均などの関数と、+、-、/、*などの演算子を使用して計算方法を定義できます。計算式を正常に作成するには、少なくとも1つのメトリクス定義オペランドまたはエンティティオペランドが存在することが重要です。

i 注： この計算式は、Safari を除くすべてのブラウザを使用して作成できます。

手順

- 計算式の作成に使用しているアプリケーションに応じて、次のいずれかの場所に移動します。
 - すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義。
 - すべて > リスク管理 > リスクワークスペース > メトリクス > 計算済みメトリクスの定義。
- 計算式を作成するメトリクスの定義を開き、計算式をビルド > 計算式ビルダー。
- 計算式のテキストフィールドに「\」と入力して、計算式の作成を開始します。
- メトリクスの定義レベルまたはエンティティレベルで式を作成するには、次の手順を実行します。
 - メトリクスの定義レベルで計算式をビルドするには、メトリクスの定義またはメトリクスを2つ選択し、その間の演算子を選択します。

Example

たとえば、従業員の通勤による GHG 排出量 + データセンター排出量 (市場ベース) を選択して合計を計算できます。

- エンティティレベルで計算式を作成するには、メトリクスの定義または排出係数を2つ選択し、その間の演算子を選択します。
- 数式をコピー、リセット、またはプレビューするには、次の手順を実行します。
 - 計算式をコピーするには、[コピー] を選択します。
 - 計算式を初期状態にリセットするには、リセット を選択します。
 - 識別子のない数式をきちんとした形式で表示するには、[プレビュー] を選択します。
 - 数式を保存するには、[計算式を保存] を選択します。
 - 数式を実行するには、[実行] を選択します。
数式を実行する前に保存することが重要です。
 - 計算式ビルダーページで、[サポートが必要な場合] を選択すると、計算式の作成に必要な手順に関するガイダンスが表示されます。

メトリクスの定義の更新

新しいメトリクスを収集するために、既存のメトリクスの定義を更新します。新しい目標、ターゲット、およびエンティティをメトリクスの定義に関連付けることができます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

同じフォームを使用して、自動測定基準の定義、手動測定基準の定義、および計算済み測定基準の定義を更新できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス**。
2. リストからメトリクスの定義を選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

測定基準の定義のタブと関連リストの更新

フィールド	説明
タブと関連リスト	
[詳細] タブ	自動メトリクスの定義におけるメトリクスの定義、メトリクスのプロパティ、メソッド、スケジュールなどのメトリクスの詳細。 手動メトリクスの定義における収集方法、スケジュール、データ収集の詳細、承認などのメトリクスの詳細。 計算済みメトリクスの定義におけるメトリクス、メトリクスのプロパティ、およびロールアッププロパティの詳細。[詳細] タブのフィールドについては、[メトリクスの定義] フォームで説明されています。
エンティティタイプ	メトリクスに関連付けるエンティティタイプの詳細。たとえば、名前、説明、および条件 (アクティブ、更新が必要、処理中のエンティティなど) が表示されます。新しいエンティティタイプを追加するには、[追加] をクリックします。 i 注: [エンティティタイプ] 関連リストは、自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対してのみ表示されます。計算済みメトリクスの定義に対しては表示されません。
追加エンティティ	メトリクスの定義に関連付けることができる追加のエンティティ。名前、所有者、クラス、コンプライアンススコア (%) などの詳細を表示します。新しいエンティティを追加するには、[追加] をクリックします。

フィールド	説明
	i 注: この関連リストは、自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対してのみ表示されます。計算済みメトリクスの定義に対しては表示されません。
子メトリクスの定義	親メトリクスの定義に関連付けられた子メトリクスの定義。子メトリクスの定義の名前、頻度、説明などの詳細を表示します。新しい子メトリクスの定義を追加するには、[追加] をクリックします。 i 注: この関連リストは計算済みメトリクスの定義に対してのみ表示されます。自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対しては表示されません。
メトリクス	メトリクスの名前、関連エンティティ、アクティブ状況などのメトリクスの詳細。新しいメトリクスを追加するには、[新規] をクリックします。
信頼できるソースコンテンツ	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい信頼できるソースコンテンツを追加するには、[追加] をクリックします。
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどの目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。
ターゲット	名前、所有者、状態、ステータス、進捗状況、実際の値、ターゲット値、終了日などのターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、[追加] をクリックします。
メトリクスの定義データ	収集頻度、収集定義、間隔終了日、値、状態などのメトリクスの定義データの詳細。 i 注: この関連リストは、自動メトリクスの定義と手動メトリクスの定義に対してのみ表示されます。計算済みメトリクスの定義に対しては表示されません。
計算済みメトリクスデータ	間隔終了日、ロールアップ頻度、値など、計算済みメトリクスデータの詳細。 i 注: この関連リストは計算済みメトリクスの定義に対してのみ表示されます。自動測定基準の定義と手動測定基準の定義に対しては表示されません。

4. 測定基準の定義を保存するには、[保存] をクリックします。

5. 計算済み測定基準の定義の計算済み測定基準データを計算するには、[集計] をクリックします。
[集計] アクションは、現在の間隔終了日とその親測定基準の定義へのロールアップ頻度について、計算済み測定基準データを計算します。計算済み測定基準データレコードは、[計算済み測定基準データ] 関連リストの下に表示されます。計算済み測定基準の定義スコアは、それが現在の間隔に対して存在しない場合、作成されます。
6. 測定基準の定義を削除するには、[削除] をクリックします。
7. メトリクスの定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、[360 度ビュー (360° view)] をクリックします。

メトリクスの作成

データに対して計算を実行するためのメトリクスを作成します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

測定基準を作成するには、測定基準の定義とエンティティが必要です。メトリクスの定義により、エンティティのスコアを収集する方法が定義されます。メトリクスの定義がエンティティに関連付けられると、メトリクスが作成されます。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > メトリクス。
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい測定基準フォーム

フィールド	説明
名前	メトリクスの名前。たとえば、「インシデントの数 - ACME アジア」。
説明	メトリクスの簡潔な説明。
アクティブ	メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
主要メトリクス	メトリクスの定義を主要メトリクスとしてマークするオプション。
メトリクスの定義	メトリクスに関連付けられたメトリクスの定義。
タイプ	スコアが手動で収集されるか、自動で収集されるかを決定するために使用される方法。このフィールドは自動的に [自動] に設定されますが、メトリクスの定義を選択してそのメトリクス定義のタイプに更新すると、値が変更されます。
エンティティ	メトリクスに関連付けられたエンティティ。
エンタープライズ所有者タイプ	測定基準を担当するエンタープライズ所有者のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。

フィールド	説明
Enterprise 所有者	メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。このフィールドは自動的に設定されます。
メトリクスのプロパティ	
方向	自動メトリクスの定義の方向選択肢は次のとおりです。 ◦ なし：メトリクスの方向を変更しない場合は、このオプションを選択します。 ◦ 最小化：目的のメトリクスの方向が下向きまたは降順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、燃料消費量を最小限に抑える場合です。 ◦ 最大化：目的のメトリクスの方向が上向きまたは昇順である場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織内で天然資源の使用を最大化する場合です。 ◦ マイルストーン：メトリクスの方向が適用されないが、メトリクスがマイルストーンに対して追跡される場合は、このオプションを選択します。たとえば、組織が新しい再生可能エネルギー製品を市場に投入する場合、今後の発売日がマイルストーンと見なされます。
精度	スコアの小数点以下の桁数。 インジケータの [精度] が 0 の場合、インジケータは結果を最も近い偶数の整数に丸めます。たとえば、[精度] が 0 のインジケータが値 $7 + (5 / 2)$ を計算した場合、結果は 10 に丸められます。ただし、式が $2 + (5 / 2)$ を計算した場合、インジケータは結果を 4 に丸めます。 インジケータの [精度] が 0 より大きい場合、指定された精度に最も近い小数点に丸めます。たとえば、[精度] が 1 のインジケータは、4.45 の結果を 4.5 に丸めます。
単位	自動メトリクスの定義の単位。スコアの表示単位を定義できます。よく使用される単位は、デフォルトで提供されています。
性質	自動メトリクスの定義の性質。選択肢は次のとおりです。 ◦ なし ◦ [先頭]：メトリクスが将来のイベントの場合は、このオプションを選択します。たとえば、ある店舗での新しいソーラーバッテリーの販売数を考えてみましょう。この数は、この店舗が将来受け取る可能性のあるサポート要求の先行インジケータです。 ◦ [遅行]：メトリクスが過去のイベントの場合は、このオプションを選択します。たとえ

フィールド	説明
	ば、店舗で前年に行った販売数を考えてみましょう。この数は、この店舗が過去受け取ったサポート要求の遅行インジケータです。 ◦ [現在]：メトリクスがイベントの現在のステータスである場合は、このオプションを選択します。たとえば、店舗での今年の販売数を考えてみましょう。この数は、店舗が受けている現在のサポート要求のインジケータです。
方法	
テーブル	メトリクスの定義を作成するためにクエリされるテーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
メソッドタイプ	自動メトリクスのタイプ。選択肢は次のとおりです。 ◦ 基本 ◦ スクリプト化 i 注：[スクリプト化] を選択した場合は、フォームを保存し、[スクリプトを追加] を選択してスクリプトを追加する必要があります。sn_grc.developer ロールを持つユーザーのみがスクリプトを追加できます。
テーブル	メトリクスの定義を作成するためにクエリされるテーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
基準	スコアを取得するレコードの条件。フィールド、演算子、および値を含む条件を追加することでフィルターを作成し、[設定] をクリックします。 i 注：このフィールドを変更する前に、[テーブル] フィールドの値を選択します。
集計	自動メトリクスの定義のスコアを集計するメソッド。[集計] フィールドでオプションを選択すると、[集計] フィールドの横に新しい [集計フィールド] が表示されます。[集計フィールド] には、選択したレコードが表示されます。[集計] フィールドの選択肢は次のとおりです。 ◦ カウント：フィルター基準に設定されているテーブルクエリによってレンダリングされるレコードの数。 ◦ 合計：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の合計。

フィールド	説明
	- 平均：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の平均。 - 最大：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の最大値。 - 最小：[集計フィールド] の選択された値に基づくパラメーターの値の最小値。 - 個別のカウント：[集計フィールド] でグループ化された結果セット内のグループの数。 i 注：[集計フィールド] は、[カウント] を除くすべてのオプションに対して表示されます。
参照フィールド	メトリクスデータを分離するときに基づくフィールド。このフィールドは、選択したスコアリングテーブルにエンティティを接続し、エンティティに固有のスコアを計算します。 i 注：参照フィールドが指しているテーブルが、関連付けられているエンティティが指すレコードのテーブルと一致していることを、エンティティフォームの [適用先] フィールドで確認します。 i 注：メモに記載されている基準はシステムで検証されないため、検証するのはユーザーの責任です。このフィールドを変更する前に、テーブルを選択します。
スケジュール	
カレンダー	メトリクスの収集に使用するカレンダー。構成されたカレンダーオプションのみ使用できます。このフィールドは自動的に [標準カレンダー (Standard Calendar)] に設定されます。標準カレンダーとは、グレゴリオ暦を指します。このフィールドは、このメトリクスのメトリクス定義が標準カレンダーを使用していない場合にのみ変更できます。
頻度 (Frequency)	メトリクスの定義の収集頻度。このフィールドは選択したメトリクスの定義の頻度に基づいて自動的に設定されます。
最初の開始日	メトリクスが初めて実行された日付。
期日オフセット	メトリクスデータタスクが期限切れになるスケジュール最終日からの経過日数。たとえば、メトリクスの定義の頻度が月次で、このフィールドに 15 を入力した場合、メトリクスデータタスクの期日はその月の終了から 15 日後になります。このフィールドは、メトリクスに関連付けられたメトリクス定義のタイプが手動の場合にのみ表示されます。

フィールド	説明
次回実行日	メトリクスが実行される日付。
データ収集の詳細	
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認	
i 注: このセクションは、[メトリクスの承認] プロパティが [シンプル] に設定されている場合にのみ表示されます。詳細については、「ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。	
承認が必要	承認が必要かどうかを示すオプション。
承認者タイプ	メトリクスの定義の承認者のタイプ。選択肢は次のとおりです。 - ユーザー - ユーザーグループ
ユーザー	メトリクスの定義を承認する承認者ユーザーまたは承認者グループ。選択肢は次のとおりです。 - 承認者: [ユーザー] オプションが選択されている場合に表示されます。 - 承認者グループ: [ユーザーグループ] オプションが選択されている場合に表示されます。 i 注: デフォルトでは、承認者はメトリクスの定義で指定されたユーザーですが、メトリクスレベルで上書きできます。
分類	
グループ	メトリクスに関連する領域。
レポート分類	メトリクスをカテゴリ分けする際に使用するタグ。
サブグループ	メトリクスに関連するサブグループ。
機密性	
i 注: このセクションは、次の場合にのみ表示されます。 - GRC プロパティの下で <code>sn_grc.enable_record_confidentiality</code> プロパティが有効になっている。 - レコードが [ドラフト] ステータスである。	
許可されたユーザー	レコードを表示できるユーザー。 i 注: デフォルトで、ログインしたユーザーは機密ユーザーのリストに追加されます。

フィールド	説明
許可されたグループ	レコードを表示できるグループ。

4. [保存] をクリックします。

- i 注:** 新しいメトリクスが作成されると、関連リストが [詳細] タブとともにフォームに表示されます。[概要] タブでメトリクスデータの概要を確認できます。メトリクスを実行すると、[メトリクスの概要 (Metrics overview)] ページに、メトリクスデータの詳細が、データの収集期間とともに表示されます。

タスクの結果

メトリクスは [メトリクス] リストに保存されます。

メトリクスのしきい値の作成

メトリクスおよびメトリクスの定義に対して、オレンジのしきい値や赤色のしきい値などのしきい値を作成します。しきい値とは、メトリクスのパフォーマンスを評価するために使用される事前定義された値を指します。これらのしきい値は通常、特定の基準または目標に基づいて定義され、測定値またはパフォーマンスが目的のレベルを満たしているか、超えているか、下回るかを判断するための参照ポイントとして機能します。

始める前に

必要なロール: en_esg.metric.admin

手順

- 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス**。
- しきい値を追加する定量的メトリクスの定義を開きます。
- [しきい値] 関連リストを選択します。
 - [新規] を選択します。
 - フォームのフィールドに入力します。

メトリクス定義のしきい値フォーム

Field (フィールド)	説明
しきい値タイプ	しきい値のタイプ。選択肢は次のとおりです。 - 静的：メトリクスまたはメトリクスの定義の静的しきい値は、メトリクスを追跡するための制限として使用される固定値を参照します。 - 動的：動的しきい値はパーセンテージで指定されます。つまり、パーセンテージの差異は、方向と前のデータの2つの要素に基づいて計算されます。 詳細については、「 メトリクスのしきい値 」を参照してください。
オレンジのしきい値	ターゲット値の分散の中程度の変化を示すパーセンテージ値。
有効期限開始	データが有効になる日付。

Field (フィールド)	説明
ターゲット値	パーセンテージの差異の比較対象である前のデータ。
赤色のしきい値	ターゲット値の分散の重大な変化を示すパーセンテージ値。
有効期限	データの有効期限。

4. [送信] を選択します。

5. しきい値をメトリクスにコピーするには、[しきい値のコピー] を選択します。

メトリクス単位の作成

メトリクススコアを表示するときの単位を定義します。単位は、数値、パーセンテージ、通貨、時間数、または定義したその他の任意の単位にすることができます。よく使用される単位は、デフォルトで ESG Management アプリケーションとともに提供されています。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 単位**.
2. [新規] をクリックします。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい単位フォーム

フィールド	説明
名前	単位の名前。たとえば、メガワット時。
フォーマット	単位の形式。たとえば、{0} MWh とすると、略語 MWh でメガワット時数が表現されます。
単位ファミリー	単位が属するファミリー。たとえば、ガロンは体積単位ファミリーに関連付けることができます。

4. 測定基準単位を保存するには、[保存] をクリックします。

タスクの結果

メトリクス単位は [メトリクス] リストに保存されます。

単位ファミリーの作成

単位ファミリーを作成して、類似の単位をグループ化します。たとえば、マイルやキロメートルなどのさまざまな距離単位をグループ化できます。単位ファミリーは、単位変換の際に単位を整理するのに役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

このタスクについて

単位ファミリーの作成では、単位の変換もサポートされます。メトリクスデータ入力時の単位が、メトリクスの定義のレポート単位と異なる場合があります。このような場合は、単位を変換する必要があります。たとえば、メトリクスデータが米国ガロンで入力され、メトリクスの定義のレポート単位がリッターであるとしします。ガロンとリッターが体積などの同じ単位ファミリーに属していれば、単位を変換できます。

さまざまな単位の変換に、さまざまな式が使用されます。メトリクスの定義のレポート単位が、[計算済み] の変換係数を持つ単位ファミリーに属する場合、そのメトリクスのメトリクスデータタスクは、メトリクスの定義と同じ単位で指定する必要があります。たとえば、メトリクスの定義における温度のレポート単位が摂氏であり、温度の変換係数が [計算済み] に設定されている場合、そのメトリクスの定義のすべてのメトリクスデータタスクは摂氏でのみ指定できます。このような場合、ユーザーは変換に使用する必要がある式を指定できます。詳細については、「」を参照してください。[計算式ビルダーの構成](#)

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > 単位ファミリー**。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[単位ファミリー (Unit family)] フォーム

フィールド	説明
名前	単位ファミリーの名前。たとえば、「温度」。
変換係数	ファミリーから単位を変換するときに適用する必要がある変換係数。選択肢は次のとおりです。 - 直接：ファミリー内での単位の変換を直接実行できる場合に、このオプションを使用します。たとえば、直接変換を使用してキロメートルをマイルに変換できます。 - 計算済み：変換式が複雑な場合に、このオプションを使用します。たとえば、摂氏の温度を華氏に変換する場合、式は $^{\circ}\text{F} = ^{\circ}\text{C} \times (9/5) + 32$ になります。

4. [送信] を選択します。

会計カレンダーの作成

会計カレンダーに基づいてデータを収集、集計、およびレポートします。会計カレンダーは、標準のグレゴリオ暦とは異なる場合があります。グローバル組織は、多くの場合、独自の会計カレンダーを持つ国で事業を展開しています。ESG Management アプリケーションで会計カレンダーを作成することで、ローカルエンティティが独自のスケジュールに従ってデータを収集できるようになります。

始める前に

必要なロール：sn_grc_metric.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > メトリクスカレンダーの構成**。
2. [新規] を選択します。

3. フォームのフィールドに入力します。

メトリクスカレンダーの構成フォーム

Field (フィールド)	説明
名前	カレンダー名。たとえば、オーストラリア暦などです。
Description (説明)	カレンダーの簡単な説明。
開始月	会計年度の開始月。
終了月	会計年度が終了する月。このフィールドは開始月に基づいて自動的に設定されます。このフィールドは変更できません。
年表現	会計年度をどのように表すかを指定します。インドなどの一部の国では、会計年度はある暦年に始まり、次の暦年に終わります。たとえば、インドの会計年度は 2024 年 4 月 1 日に始まり、2025 年 3 月 31 日に終わります。 このフィールドでの選択肢は次のとおりです。 - 開始年:会計年度を開始年で表します。たとえば、2024 年 4 月 1 日に開始する会計年度は 2024 年です。 - 終了年:会計年度を終了年で表します。たとえば、2025 年 3 月 31 日に終了する会計年度の場合は 2025 です。

4. [送信] を選択します。

次のタスク

ソースカレンダーとターゲットカレンダーをマッピングします。詳細については、「[ターゲットカレンダーとソースカレンダーのマッピング](#)」を参照してください。

ターゲットカレンダーとソースカレンダーのマッピング

ターゲットカレンダーをソースカレンダーにマッピングして、データロールアップ階層を確立します。要件に応じて、複数のカレンダーマッピングを作成できます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_metric.admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > メトリクスカレンダーの構成。
2. [マップカレンダー] 関連リンクを選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

メトリクスカレンダー構成マッピングフォーム

Field (フィールド)	Description (説明)
ターゲットカレンダー	データがロールアップされるカレンダー。

Field (フィールド)	Description (説明)
ソースカレンダー	データがロールアップされるカレンダー。

4. [送信] を選択します。
5. [メトリクスカレンダー構成] ページに戻ります。
 - a. 作成したカレンダーを選択します。
 - b. [メトリクスカレンダーの生成] を選択します。

タスクの結果

頻度が年次、半年ごと、四半期ごとのメトリクスカレンダーが生成されます。

会計カレンダーのエンティティの追加

作成した会計カレンダーに従うエンティティを特定します。これにより、各エンティティが指定されたカレンダーに従うため、データ収集の一貫性が確保されます。

始める前に

必要なロール：sn_grc_metric.admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > メトリクスカレンダーの構成。
2. エンティティを追加するカレンダー構成を開きます。
3. [エンティティ] 関連リストを選択します。
 - a. [編集] を選択します。
 - b. 必要なエンティティを [コレクション] リストから [エンティティ] リストに移動します
 - c. [保存] を選択します。

メトリクスデータの別の単位への変換

メトリクスデータを優先レポート単位に変換します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

データの優先レポート単位は、測定基準の定義で指定されます。ユーザーがメトリクスデータタスクにデータを入力するときに、メトリクスの定義で設定されている単位とは異なる単位で入力する可能性があります。たとえば、ユーザーは水使用量に関するデータをリッターで入力しても、組織は米国ガロンでのレポートを必要としていることがあります。したがって、メトリクスの定義もガロンに設定されています。この場合、リッターはガロンに変換する必要があります。

- i** 注：メトリクスデータタスクでは、同じ単位ファミリーに属する単位のみをこのデータに使用できます。単位変換は、単位ファミリー変換係数が [直接] に設定されている単位にのみ適用されます。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > 管理 > 単位変換。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[単位変換] フォーム

フィールド	説明
名前	単位変換の名前。たとえば、リッターからガロン。
変換前の単位	変換元の単位。
変換後の単位	変換先の単位。
単位ファミリー	単位が属する単位ファミリー。たとえば、「体積」。
値	変換値。たとえば、リッターからガロンへの変換値は 0.264172 です。

4. [送信] を選択します。

GRC：メトリクスを使用したデータ提供

GRC：メトリクス アプリケーションを使用すると、ビジネスゴールを追跡し、主なリスクインジケーター (KRI) と重要業績評価指標 (KPI) を定義して、アドミニストレーターに進捗状況に関するインサイトを提供するレポートを生成できます。

メトリクスの更新

メトリクスを更新して、目標、メトリクスデータ、およびターゲットを追加します。信頼できるソースコンテンツをメトリクスに関連付けます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metric_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス**。
2. リストからメトリクスを選択します。
3. フォームで、必要に応じてフィールドを更新します。

メトリクスのタブと関連リストの更新

フィールド	説明
タブ	
名前	メトリクスの名前。たとえば、「インシデントの数 - ACME アジア」。
説明	メトリクスの簡潔な説明。
メトリクスの定義	メトリクスに関連付けられたメトリクスの定義。
エンティティ	メトリクスに関連付けられたエンティティ。
エンタープライズ所有者タイプ	メトリクスを担当するエンタープライズ所有者のタイプ。このフィールドは、エンタープライズ所有者タイプを表示するように自動的に設定されます。

フィールド	説明
タイプ	自動メトリクスの定義のタイプ。このフィールドは自動的に設定されます。
アクティブ	メトリクスの定義をアクティブとしてマークするオプション。
主要メトリクス	メトリクスの定義を主要メトリクスとしてマークするオプション。
エンタープライズ所有者	メトリクスの定義のエンタープライズ所有者。このフィールドは自動的に設定されます。
メトリクスのプロパティ	
方向	メトリクスの定義の方向。このフィールドは自動的に設定されます。
精度	メトリクスの定義の精度。このフィールドは自動的に設定されます。
単位	メトリクスの定義の単位。このフィールドは自動的に設定されます。
性質	メトリクスの定義の性質。このフィールドは自動的に設定されます。
メソッド	
メソッドタイプ	測定基準データの収集に使用されるメソッドのタイプ。
テーブル	メトリクスの定義を作成するためにクエリされるテーブル。このフィールドは自動的に設定されます。
基準	テーブルをクエリするための条件。このフィールドは自動的に設定されます。
集計	メトリクスの定義を集計する方法。このフィールドは自動的に設定されます。
参照フィールド	メトリクスの定義方法の参照フィールド。このフィールドは自動的に設定されます。
スケジュール	
スケジュール	メトリクスの定義の収集頻度。このフィールドは自動的に設定されます。
初回ランタイム	初回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
次回実行時間	次回実行時間の日付。このフィールドは自動的に設定されます。
データ収集の詳細	
データ所有者タイプ	データ所有者タイプ (ユーザーなど)。
データ所有者	データ所有者であるユーザーの名前。
承認	
承認が必要	メトリクスで承認が必要な場合に有効にするオプション。

フィールド	説明
[メトリクスのデータタスク] タブ	名前、番号、担当者、優先度、状態などのメトリクスデータタスクに関する情報。
関連リスト	
目標	名前、状態、カテゴリ、開始日、終了日、所有者、ステータスなどのメトリクスに関連付けられた目標の詳細。新しい目標を追加するには、[追加] をクリックします。
メトリクスデータ	開始日、終了日、値、コレクターメトリクスのデータ、収集頻度、タイプなどのメトリクスデータの詳細。 開始日：この開始日は、データ収集の開始日です。 終了日：この終了日は、スコアが計算される間隔が決まる、期間の終了日です。終了日は、メトリクスの定義の頻度によって異なります。終了日はスコアの追跡に使用されます。すべてのスコアは時間に依存しており、間隔終了日への参照があります。 収集頻度：[収集頻度] フィールドのオプションは次のとおりです。 ◦ 日次:毎日作成されるスコア。 ◦ 週次:週の終わりの日付 (日曜日) までに作成されるスコア。月曜日が週の始まりで、日曜日が週の終わりです。 ◦ 月次:月末までに作成されるスコア。 ◦ 四半期ごと:四半期末までに作成されるスコア。たとえば、Q1 は 3 月 31 日に終了し、Q2 は 6 月 30 日に終了し、Q3 は 9 月 30 日に終了し、Q4 は 12 月 31 日に終了します。 ◦ 半年ごと:6 か月の期間の末日までに作成されるスコア。半年の終了日は 6 月 30 日と 12 月 31 日です。 ◦ 年次:年末までに作成されるスコア。年の終了日は 12 月 31 日です。
ターゲット	名前、状態、所有者、開始日、終了日、タイプ、測定などのメトリクスに関連付けられたターゲットの詳細。新しいターゲットを追加するには、[追加] をクリックします。
信頼できるソースコンテンツ	参照、名前、各種法令・基準等、説明、コンプライアンススコア (%) などの信頼できるソースコンテンツの詳細。新しい信頼できるソースコンテンツを追加するには、[追加] をクリックします。

4. メトリクスを保存するには、[保存] をクリックします。

5. メトリクスの定義を削除するには、[削除] をクリックします。
6. メトリクスを実行するには、[実行] をクリックします。
現在の間隔に存在しない場合は、メトリクスデータスコアが作成されます。現在の間隔のメトリクスまたはメトリクスの定義を再実行すると、スコアのみが更新されます。
7. メトリクスの定義の 360 度の関係ビューを視覚的に探索するには、[360 度ビュー (360° view)] をクリックします。

メトリクスデータタスクのデータ入力

測定基準データタスクを使用して、手動測定基準のデータを入力します。測定基準データは、目標に向けた進捗状況の分析に役立ちます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.data_owner

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > 自分のメトリクスデータタスク**。
2. データを提供するタスクを開きます。
3. [対応中に移動] を選択します。
4. [測定基準情報] フォームの [測定基準の入力] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
メトリクスデータ	メトリクスの値。このフィールドは、メトリクスフォームの [カテゴリ] フィールドで [定量的] が選択されている場合にのみ表示されます。
単位	データの単位。たとえば、米国ガロン。  注：データは任意の単位で入力でき、メトリクスの定義で指定されたレポート単位に変換されます。
応答	メトリクスの応答。このフィールドは、メトリクスフォームの [カテゴリ] フィールドで [定性的] が選択されている場合にのみ表示されます。
送信した応答が正確であることを認定して承認します。(I certify and acknowledge that the response I have submitted is accurate.)	データの正確性を認定するオプション。
追加コメント (顧客に表示)	測定基準データの追加情報。

5. [保存] を選択します。
6. 証拠またはサポート情報を提供するには、[関連ドキュメント] 関連リストで [新規] を選択します。
7. [関連ドキュメント] フォームのフィールドに入力します。

[関連ドキュメント] フォーム

フィールド	説明
名前	サポート情報の名前を提供します。
URL	サポート URL を追加するには、ロックアイコンを選択します。
メトリクスのデータタスク	このフィールドには、情報を提供しているメトリクスデータタスクの名前が自動的に設定されます。

8. [送信] を選択します。

複数のメトリクスの応答の提供

メトリクスタスクモジュールを使用すると、複数のメトリクスの応答を使いやすい形式で提供できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.data_owner

このタスクについて

データ所有者は、複数の測定基準データタスクのデータまたは応答を提供する必要があります。提供するデータは、複数のソースからもたらされるため、複数のデータ所有者が存在する場合があります。このようなシナリオでは、データ入力の監査記録を維持することは困難です。メトリクスタスクモジュールを使用すると、複数のメトリクスデータタスクのデータを入力できます。エンティティ別のメトリクスデータタスク、メトリクスグループ、メトリクスサブグループ、開始日、終了日などのフィルターを使用して、データを提供するメトリクスを選択します。入力および送信した応答、およびデータまたは応答の送信の日付が過ぎているかどうかを確認できます。クローズ済みステータスでないタスクに対してのみ、メトリクスデータ応答を提供できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース。

2. メトリクスデータテーブルアイコン 

3. データを提供するタスクには、エンティティ、メトリクスグループ、メトリクスサブグループ、タスクタイプ、開始日、および終了日のフィルターを使用します。

オープンなメトリクスデータタスクがあるグループのみがフィルターに表示されます。

4. **[Apply (適用)]** を選択します。

5. データを入力するエンティティのセルをダブルクリックします。

6. [送信した応答が正確であることを認定して承認します (**I certify and acknowledge that the response I have submitted is accurate**)] オプションを選択します。

7. [保存] を選択します。

データを入力するセルごとにこの手順を実行します。セルをスクロールして、すべてのタスクに対して応答を入力できます。

8. 応答を送信するタスクを選択します。

オペレーティングシステム	キー
macOS ユーザーの場合	Command キーを押しながらセルをクリックして選択します。

オペレーティングシステム	キー
Windows ユーザーの場合	Control キーを押しながらフォーカスのあるセルをクリックして選択します。

9. 入力したデータの証拠を提供するには、コンテキストサイドパネルの [添付ファイルおよびリンク] タブを選択し、必要に応じてリンクと添付ファイルを追加します。

10. [送信] を選択します。

メトリクスデータタスクのレビュー

メトリクスデータタスクをレビューし、レビューに基づいてタスクを承認または却下します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.reader

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース。

2. メトリクスデータテーブルアイコン 

3. メトリクスデータタスクを確認し、次のいずれかのアクションを実行します。

選択肢	アクション
却下	a. データをリジェクトするセルを選択します。 b. [却下] を選択し、却下の理由を入力します。  注: メトリクスデータを却下するには、一度に 1 つのセルのみを選択できます。
承認	a. データを受け入れるセルを選択します。 b. [承認] を選択します。  注: 一度に複数のセルを選択して、メトリクスデータを受け入れることができます。

アドホックメトリクスデータタスクの作成

アドホック測定基準データタスクを作成して、既存の測定基準の定義と測定基準に関する最新情報のオフサイクル要求を処理します。これらのタスクは、オフサイクルの要求に対応し、最新情報を提供します。

始める前に

必要なロール:sn_grc_metric.manager

このタスクについて

アドホックタスクを作成すると、メトリクスの定義フォームで指定されたデータ所有者に自動的にアサインされます。手動メトリクスの定義では、これらのアドホックタスクに注意することが重要です。

- 集計されたメトリクス定義データには寄与しません。
- はエンティティ階層のロールアップでは考慮されません。
- しきい値評価では評価されません。 差異 (%)

ただし、[計算レベル] フィールドが [エンティティ] に設定されている計算済みメトリクスの定義では、アドホックタスクデータがメトリクススコアに寄与します。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > リスト > メトリクス > 手動メトリクスの定義。
2. 必要なメトリクスの定義を選択して開きます。
3. アドホックタスクを作成するメトリクスを開きます。
4. [**Create ad hoc task** (アドホックタスクを作成)] を選択します。
5. [アドホックメトリクスデータタスク] ダイアログボックスで、タスクの開始日、終了日、および期日を入力します。
6. [送信] を選択します。

測定基準データのオーバーライド

データ所有者によってもたらされた測定基準データが不正確な場合は、測定基準データを変更またはオーバーライドします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

メトリクスデータタスクがクローズされた後、ESG アドミニストレータは必要に応じてメトリクスデータを変更できます。管理者は、データを変更する正当な理由も提供する必要があります。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > リスト > メトリクス > 自分のメトリクスデータタスク。
2. 変更するレコードを開きます。
3. [メトリクス情報] フォームの [メトリクスの入力] セクションで、[メトリクスデータのオーバーライド (**Override Metric Data**)] オプションを選択します。
4. [メトリクスデータのオーバーライド (**Override Metric Data**)] フィールドに新しい値を入力します。
5. [理由 (**Justification**)] フィールドに、データを上書きするための妥当な理由を入力します。
6. 追加のコメントがある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。

タスクの結果

メトリクスデータタスクの値がオーバーライドされ、メトリクスデータで同じ値が更新されます。

測定基準データタスク応答のオーバーライド

測定基準管理者は、定量的測定基準に対してもたらされた応答を変更する必要がある場合、データを編集して変更の理由を入力できます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > メトリクス > メトリクスデータタスク**.
2. データを編集するタスクを開きます。
3. [メトリクスの入力] セクションで、[応答をオーバーライド (**Override Response**)] オプションを選択します。
4. [オーバーライドされた応答 (**Overridden response**)] フィールドに新しい応答を入力します。
5. [理由 (**Justification**)] フィールドに、前のデータを上書きするための妥当な理由を入力します。
6. 追加のコメントがある場合は、[追加コメント] フィールドに入力します。
7. [保存] を選択します。

測定基準の定義のグループ化の作成

類似した測定基準の定義のグループとサブグループを作成します。これらのグループを作成すると、レポートと追跡が容易になります。選択肢を使用して、グループとサブグループの値を設定できます。

始める前に
必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

類似した測定基準の定義が多数ある場合は、それらの測定基準の定義のグループまたはサブグループを作成できます。たとえば、スコープ 1、スコープ 2、およびスコープ 3 はすべて排出の異なるタイプですが、「排出」という名前の 1 つのグループと「温室効果ガス排出」という名前のサブグループにまとめることができます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 管理 > 選択肢**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

GRC 選択肢テーブル

フィールド	説明
セット	選択肢を作成するエリア。このフィールドは [ESG 測定基準] に設定されています。このフィールドは変更できます。
名前	選択肢の名前。たとえば、「排出」。
レポート分類	測定基準の定義と測定基準を分類したときのタグ。たとえば、 GRI 、 SASB 、または運営委員会レビュー。
選択肢カテゴリ	選択肢の分類。たとえば、グループ、サブグループ、ラベル。
順番	サブグループ内の測定基準の定義の順序。デフォルトでは、グループとサブグループに追加

フィールド	説明
	されるときに、100、200 などから順番を指定できます。
親	親の選択肢。

タスクの結果

グループ化は、[分類] セクションの測定基準の定義フォームで使用する準備ができています。

一意の測定基準の定義名の作成

必要なレコードテーブルの `sn_grc_metric_definition` で値の計算式を指定して、Watershed スプレッドシートなどの外部ソースからデータをインポートするための一意の測定基準の定義名を作成します。

始める前に

必要なロール： `sn_grc_metric.admin`

このタスクについて

データを含む外部ソースは測定基準の定義にインポートする必要があり、各測定基準の定義には一意の名前を付ける必要があります。測定基準の定義名は、スプレッドシートの単一の列を使用することも、複数の列を組み合わせ使用することもできます。この手順では、例として Watershed Integration for ESG および `sn_grc_metric_definition` テーブルを使用します。`sn_grc_metric_definition` テーブルで式を指定して、一意の測定基準の定義名を作成できます。他のテーブルについても同じ手順を繰り返すことができます。デフォルトで次のテーブルがインストールされています。

- `sn_grc_profile`
- `sn_grc_profile_type`
- `sn_grc_metric_definition`

次の画像は、サンプルスプレッドシートの文字列と値の列を示しています。

値の式の組み合わせ

	A	B	C	D	E	F	G
1	year	ghg_protocol_category	business_category	location	Sum of kgco2e	Sum of renewable KW	Sum of non-renewable KW
2	2020	1 Scope 1	offices	Adelaide, AU	1223.68333	-	260057.3277
3	2020	1 Scope 1	offices	Arlington, US	1115.097139	-	8911.607406
4	2020	1 Scope 1	offices	Augsburg, DE	265093.8515	-	1308976.813
5	2020	1 Scope 1	offices	Aurora, US	6857.805272	-	56104.98315

手順

1. 移動先 **すべて > メトリクス > メトリクスの統合**.
2. **[Watershed 統合 (Watershed Integration)]** を選択します。
3. **[データマッピング]** セクションで、式を指定するデータマッピングを選択します。
4. **[必須レコード]** フォームの **[値の式]** セクションで、**[新規]** を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

[値の式] フォーム

フィールド	説明
ソーステーブル。	ソーステーブルの名前。このフィールドは、自動的に [Watershed データ [sn_esg_watershed_data]] に設定されます。
必須レコード	変更されるテーブルの名前。

フィールド	説明
	 注: この手順では、使用する例は sn_grc_metric_definition テーブルです。
列	GHG プロトコルカテゴリを含む列。
フォーマット	名前のフォーマット。選択肢は次のとおりです ◦ 文字列: テキスト文字列を指定する場合は、このオプションを使用します。 ◦ 値: 列の任意の値を使用する場合は、このオプションを使用します。 ◦ 文字列 + 値: 列値の先頭にテキストを追加する場合は、このオプションを使用します。 ◦ 値 + 文字列: 列値の末尾にテキストを追加する場合は、このオプションを使用します。[文字列] フィールドにテキストを指定します。
文字列	このフォーマットで使用するテキスト。
シーケンス	式の順序を指定します。同じ必須レコードの複数の値の式は、指定された順序に従って連結されます。

6. [送信] を選択します。

測定基準および測定基準の定義の概要ページ

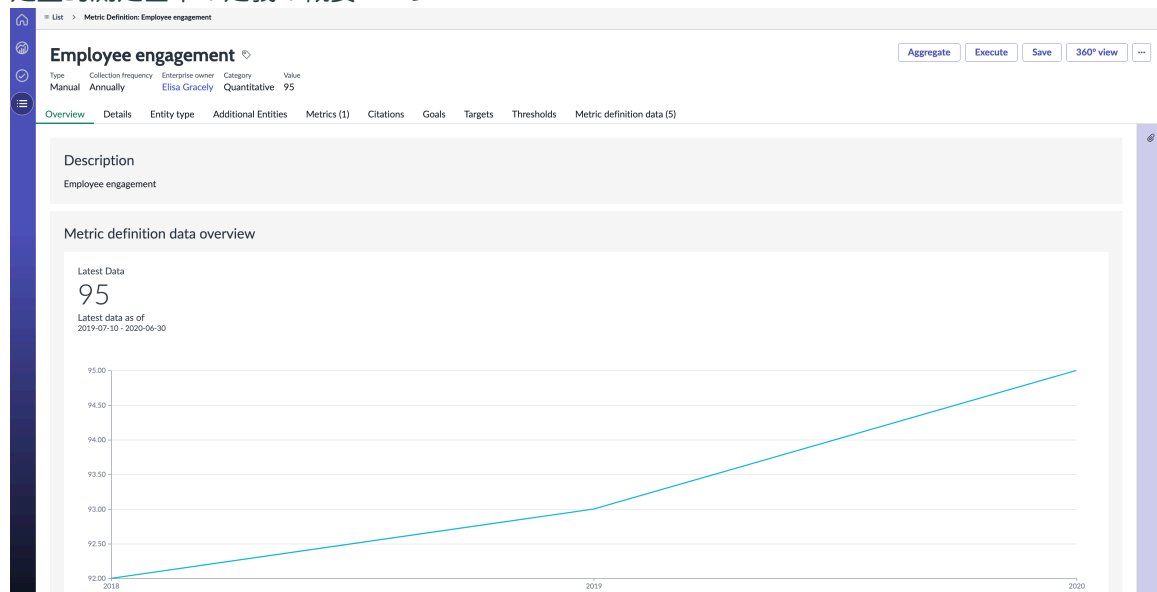
測定基準および測定基準の定義の概要ページは、測定基準の傾向を視覚化し、注意が必要なタスクとアクティビティを監視する際に役立ちます。

概要ページは次で利用できます。

- 自動、手動、計算済みの定量的測定基準の定義
- 定性的測定基準

概要ページには、最新の測定基準データタスクがクローズされた場合にのみ、リストとグラフの形式で最新のデータが表示されます。定量的測定基準の定義についてはグラフが表示され、定性的測定基準についてはリストが表示されます。定性的測定基準の定義の場合、測定基準の定義の説明は概要ページにのみ表示されます。表示されるデータには、データ収集期間の開始日と終了日が表示されます。次の画像は、自動測定基準の定義の概要ページを示しています。

定量的測定基準の定義の概要ページ



次の画像は、データの開始日と終了日を含む定性的測定基準の概要ページを示しています。

定性的測定基準の概要ページ

Name of the organization - ACME Global

Type: Manual | Collection frequency: Annually | Enterprise owner: Elisa Gracely | Metric definition: Name of the organ...

Description
Name of the organization

Metric data overview

Start Date	End Date	Data	State
2022-01-24	2023-01-23	ACME Global	Completed

Showing 1-1 of 1 | 1 | 20 rows per page

Attachments
No Attachments Available
Browse for a file to add it as an attachment

定性的測定基準の定義

Approach to Stakeholder Engagement

Type: Manual | Collection frequency: Annually | Enterprise owner: Oliver Jones | Category: Qualitative

Description
The organization shall describe its approach to engaging with stakeholders, including
i. the categories of stakeholders it engages with, and how they are identified;
ii. the purpose of the stakeholder engagement;
iii. how the organization seeks to ensure meaningful engagement with stakeholders.

GRC：メトリクス の参照

複数のプロパティ、テーブル、およびロールが GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされます。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるコンポーネント

ESG Management アプリケーションがアクティブになると、GRC：メトリクス アプリケーションが自動的にインストールされます。GRC：メトリクスアプリケーションは、ここにリストされているいくつかのテーブル、プロパティ、およびロールを追加します。

インストールされるロール

次のロールが GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされます。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるロール

ロール	説明	内容
sn_grc_metric.admin	このロールはアプリケーションの admin ロールです。このロールは次の操作を実行できます。 - 測定基準の定義、測定基準、および測定基準単位を作成、読み取り、書き込み、削除します。 - 測定基準データタスクの結果をオーバーライドします。 - 測定基準データを読み取ります。 - スケジュールを作成します。	sn_grc_metric.manager
sn_grc_metric.manager	アプリケーションのエンタープライズ所有者および承認者ロール。このロールは次の操作を実行できます。 - 重要なトピック、目標、ターゲット、測定基準の定義、測定基準、信頼できるソースコンテンツ、および測定基準単位を作成、読み取り、書き込み、および削除します。 - 測定基準データタスクの結果をオーバーライドします。 - 測定基準データ、測定基準データタスク、開示、および各種法令・基準等を読み取ります。 との統合がある場合 プロジェクトポートフォリオ管理 - プロジェクトとプログラムの作成、読み取り、書き込み - プロジェクトとプログラムを削除	sn_grc_metric.user

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	内容
	Integrated Risk Management と統合されている場合、このロールは次の操作を実行できます： - コントロール目標、コントロール、リスクステートメント、およびポリシーを作成、読み取り、書き込み、削除します。 - リスクと問題を読み取ります。	
sn_grc_metric.user	このロールは読み取り専用のロールです。このロールを持つユーザーは、測定基準の定義と測定基準の作成、編集、更新を実行できません	なし
sn_grc_metric.developer	このロールを持つユーザーは、自動メトリクスの定義でスクリプトを編集できます。	なし

インストールされるテーブル

次のテーブルが GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされます。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるテーブル

名前	説明
ベース測定基準の定義 (sn_grc_metric_base_definition)	すべての測定基準の定義のベーステーブル。
計算済みメトリクスの定義 (sn_grc_metric_composite_definition)	2 つ以上の測定基準の定義に関するデータを集計するために使用される計算済み測定基準の定義。
測定基準の定義 (sn_grc_metric_definition)	自動および手動の測定基準を定義するために使用される測定基準の定義。
測定基準 (sn_grc_metric_metric)	測定基準の定義がエンティティに適用されるときに生成される測定基準インスタンス。
測定基準単位 (sn_grc_metric_unit)	測定基準の定義または測定基準の単位。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるテーブル (続く)

名前	説明
親データ (sn_grc_metric_parent_data)	測定基準データの親テーブル。
メトリクスの定義データ (sn_grc_metric_collector_data)	自動および手動の測定基準の定義のデータ。
測定基準データ (sn_grc_metric_metric_data)	測定基準インスタンスのデータ。
測定基準のデータタスク (sn_grc_metric_data_task)	手動測定基準のデータを収集するタスク。
エンティティタイプの測定基準の定義 (sn_grc_metric_m2m_definition_profile_type)	エンティティタイプと測定基準の定義の関連性。
エンティティの測定基準の定義 (sn_grc_metric_m2m_definition_profile)	エンティティと測定基準の定義の関連性。
計算済みメトリクス定義へのメトリクス (sn_grc_metric_m2m_metric_composite_definition)	測定基準と計算済み測定基準の定義の関連性。
子測定基準の定義 (sn_grc_metric_m2m_metric_definition)	測定基準と測定基準の定義の関連性。
メトリクスの定義に対するコントロール目標 sn_grc_metric_m2m_definition_control_objective	コントロール目標とメトリクスの定義の間の関連性。
メトリクス定義のコントロール sn_grc_metric_m2m_definition_control	コントロールとメトリクスの定義の関連付け
単位ファミリー sn_grc_metric_unit_family	類似の単位をグループ化するための単位ファミリー。
単位変換	メトリクスデータを優先レポート単位に変換します。

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるテーブル (続く)

名前	説明
sn_grc_metric_unit_conversion	
計算済みメトリクス定義へのメトリクス sn_grc_metric_m2m_metric_composite_definition	メトリクスと計算済みメトリクスの定義との関連性。
メトリクスデータ処理キュー sn_grc_metric_data_process_queue	計算済みメトリクスの定義のデータを更新するため、またはすべてのタイプのメトリクス定義のエンティティ階層データを更新するためのキューにあるメトリクスの定義を示します。
エンティティ別のメトリクスデータ sn_grc_metric_data_by_entity	メトリクスの定義のエンティティのデータと、エンティティ階層で定義されたその親エンティティの集計データが含まれます。
時間次元 sn_grc_metric_time_dimension	その年の各日の日付、週、四半期、月、semi_annual、年が含まれます。

スケジュール済みジョブ

GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされたスケジュール済みジョブは、特定の時間またはスケジュールで自動的に実行されます。スケジュール済みジョブは、定期的なスケジュールでのレポートやデータエクスポートの実行など、さまざまなタスクを実行するように設定できます。

GRC:メトリクスとともにインストールされるスケジュール済みジョブ

名前	Description (説明)
アグリゲートメトリクスの定義	このジョブは 30 分ごとに実行されます。アクティブでステータスが [処理待ち] のすべてのタイプのメトリクス定義データをプルします。各メトリクス定義データの「ステータス」と「値」は、その期間の対応するメトリクスデータの集計に基づいて更新されます。
CMD 妥当性チェック	このジョブは、毎日 1 回午前 12 時に実行されます。計算済みメトリクス定義ごとに、重複する子メトリクス定義と子メトリクスに基づいて「ステータス」が有効/無効に更新され、「メモ」が更新されます。
計算済みメトリクスの定義を実行する	このジョブは、エンティティレベルとメトリクスデータ定義レベルの両方の計算済みメトリクスの定義ごとに実行され、計算された値で更新されます。
メトリクスの実行	このジョブは毎日午後 4 時 30 分に 1 回実行されます。これは、メトリクスデータを作成する各メトリクス定義とそのメトリクスに対して実行され、その期間にメトリクスデータタスクが存在しない場合はメトリクスデータタスクに対して実行されます。

GRC:メトリクスとともにインストールされるスケジュール済みジョブ (続く)

名前	Description (説明)
エンティティ別にメトリクスデータを生成	このジョブは毎日実行され、すべてのメトリクス定義のエンティティ階層ロールアップを実行します。
時間ディメンションを生成	このジョブは毎年最初の日に実行され、その年の時間ディメンションを作成します。

インストールされるプロパティ

GRC: メトリクスとともにインストールされるプロパティ

名前	Description (説明)	デフォルト値
sn_grc_metric.metric_data_refresh_rate	期日の計算に使用するスケジュールを指定します	08fcd0830a0a0b2600079f56b1adb9ae
sn_grc_metric.all_words	メトリクスの統合を使用してメトリクスデータをインポートするときに、値のすべてのカンマ区切りの定義済み文字列を「すべて」に置き換えるために使用されます。	(空白)、空白、該当なし、すべて、空、(空)

ESG Management の使用

ESG Management アプリケーションを使用すると、さまざまなフレームワークから信頼できるソースコンテンツをインポートして開示を作成できます。

ESG Management アプリケーションを使用して、次のタスクを実行できます。

- すべての重要なトピック、目標、ターゲット、アクティビティ、および排出係数を使用して ESG プログラムを設定します。
- 測定基準を定義して、企業全体の ESG プログラムのデータ収集を自動および手動で開始します。
- 内部および外部のステークホルダーに対する開示を作成します。
- ESG フレームワークには Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG や Sustainability Accounting Standards Board (SASB) などのコンテンツパックを使用します。

ESG Management における開示

ESG 開示とは、環境、社会、ガバナンス (ESG) のパフォーマンスに関する情報とレポートを提供する企業や組織の慣行を指します。これらの開示は、企業がさまざまなESG関連の問題をどのように管理し、対処しているかについての洞察を提供するように設計されています。開示レポートを管理する責任は、sn_esg.reporting_disclosure_manager ロールを持つユーザーです。

ESG開示の重要性

ESGの開示は、いくつかの理由で重要です。

- 透明性と説明責任:ESG開示は透明性を高め、投資家、顧客、従業員、一般の人々などの利害関係者が主要なESG分野における企業のパフォーマンスを理解できるようにします。この透明性により、説明責任と信頼が育まれます。
- リスク管理:ESG情報を開示する企業は、環境、社会、ガバナンスの要因に関連する潜在的なリスクをより適切に特定し、管理することができます。これは、長期的な持続可能性とレジリエンスにとって非常に重要です。
- 投資家の意思決定:投資家は、意思決定プロセスにおいてESG要素を考慮する傾向が強まっています。ESG開示は、企業の持続可能性、倫理的慣行、および長期的な実行可能性を評価するための情報を投資家に提供します。
- 企業の評判: 前向きな ESG パフォーマンスは、企業の評判とブランド価値を高めることができます。逆に、ESGの実践が不十分な場合、風評被害につながり、顧客や投資家の信頼に影響を与える可能性があります。
- 法規制の遵守:一部の地域では、企業がESG情報を開示するための規制要件があります。これらの規制の遵守は、法的および財務上の影響を回避するために不可欠です。
- ステークホルダーのエンゲージメント:ESG 開示は、責任あるビジネス慣行に対する企業のコミットメントを示すことで、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを促進します。ESG 課題についてステークホルダーと関わることで、関係とコラボレーションの改善につながる可能性があります。

ナラティブの開示

バージョン 18.0.3 以降、ESG Management のすべての新規ユーザーは、ナラティブ開示にのみアクセスできます。ナラティブ開示とは、Microsoft 365 for ServiceNow Reporting アドインを使用して作成される開示を指します。ナラティブ開示を作成する場合、開示を Microsoft SharePoint またはローカルシステムに保存するオプションがあります。ナラティブ開示への Microsoft SharePoint 統合は、ESG Management バージョン 18.0.3 および Xanadu リリースで使用できます。ナラティブ開示の作成時に生成されるドキュメントは Microsoft Word を使用して開くことができ、構成されたデータ ポイントは ServiceNow Reporting アドインを使用してドキュメントに挿入できます。挿入されたデータに変更がある場合は、データが変更され、Microsoft Word ドキュメントを更新する必要があることを通知するメールが開示データの所有者に自動的に送信されます。

ナラティブ開示では、複数の協力者が開示の作成に貢献できます。開示レポートのタイプごとにテンプレートを定義することもできます。各レポートタイプを理解するには、「[開示レポートの種類](#)」を参照してください。各開示は、1 人以上の承認者によって承認できます。

開示を生成する場合、自動生成されたドキュメントがプライマリドキュメントと見なされることに注意することが重要です。さらに、開示プロセスの一環として二次文書を添付するオプションがあります。

リモートストレージでナラティブ開示を作成するには、sn_docs_onedriveプラグインをインストールしてアクティブ化する必要があります。

ServiceNow®インスタンスとMicrosoft OneDriveを統合する手順は、次の記事を参照してください。

- [Microsoft OneDrive for ドキュメントサービスのセットアップ](#)
- Now Support ナレッジベースの「[Connecting to Microsoft SharePoint \[KB1646310\] \(Microsoft SharePoint への接続\)](#)」の記事。

データの開示

データ開示は、開示を作成し、開示で使用するデータを Excel 形式でエクスポートするための既存の開示機能です。データの開示は、バージョン 18.0.3 より前のバージョンのユーザーが利用できます。作成や更新を含むデータ開示の詳細については、次を参照してください [ESG経営における情報開示](#)。

ESG ワークスペース の [概要] タブから、Excel 形式で開示をダウンロードできます。

開示レポートの種類

ESG Management アプリケーションには複数のタイプの開示レポートが用意されており、各タイプは特定の目的のために使用されます。

ESG Management アプリケーションは、次のタイプの開示レポートをサポートしています。

- **アニュアルレポート:** アニュアルレポートは、企業が財務実績と全体的な事業活動を株主やその他の利害関係者に伝えるために、各会計年度末に発行する包括的な文書です。通常、財務諸表、経営陣の議論と分析、コーポレートガバナンス情報が含まれ、持続可能性と ESG の問題にも触れる場合があります。
- **ESG レポート:** ESG レポートは、サステナビリティ レポートまたは企業の社会的責任 (CSR) レポートとも呼ばれ、特に企業の環境、社会、ガバナンスのパフォーマンスに焦点を当てています。持続可能性、倫理的慣行、社会的責任に関連する会社の取り組み、イニシアチブ、およびパフォーマンスに関する詳細情報を提供します。ESG レポートは、責任あるビジネス慣行へのコミットメントを伝えようとしている企業にとってますます重要になっています。
- **規制とフレームワーク:** 多くの場合、企業は規制要件または確立されたフレームワークに従って特定の情報を開示する必要があります。規制開示は政府当局によって義務付けられており、財務報告、環境影響評価、およびその他の関連情報が含まれる場合があります。フレームワーク開示とは、グローバル・レポートング・イニシアティブ (GRI) やサステナビリティ会計基準審議会 (SASB) などの組織や業界団体が定めた、ESG に関する報告のための体系的なフレームワークを提供する報告基準やガイドラインを指します。
- **情報の要求:** 情報の要求は、企業がサプライヤーまたはパートナーから詳細な情報を求める形式化されたプロセスです。ESG のコンテキストでは、RFI には、サプライヤーの持続可能性の実践、環境への影響、労働基準、およびその他の ESG 関連要因に関する質問が含まれる場合があります。これは、企業がサプライチェーンの ESG パフォーマンスを評価し、ビジネスパートナーについて十分な情報に基づいた意思決定を行うのに役立ちます。
- **格付けとインデックス:** 格付けとインデックスの開示には、企業が ESG パフォーマンスに基づいて企業を評価およびランク付けする外部組織に情報を提供することが含まれます。企業は、持続可能性評価、指数、またはランキングをまとめる事業体にデータと詳細を開示する場合があります。これらのアセスメントは、投資家、ステークホルダー、顧客が企業の ESG 状況に基づいて意思決定を行うためによく使用されます。
- **サプライヤーアンケート:** サプライヤーアンケートは、企業が ESG 関連の慣行を含む、ビジネスのさまざまな側面に関する情報をサプライヤーから収集するために使用するドキュメントまたは一連の質問です。アンケートには、環境への影響、社会的責任、労働慣行、ガバナンスなどのトピックが含まれる場合があります。企業はこの情報を使用して、サプライチェーンの ESG パフォーマンスを評価し、持続可能性の目標に沿った情報に基づいた調達決定を行います。
- **その他:** その他の種類の開示。

開示の承認ワークフロー

ナラティブ開示の作成時に 1 人または複数の承認者が指定されている場合、開示を次のステータスに移行する前に、指定された承認者が承認を付与する必要があります。

開示を作成するときは、1 人または複数の承認者を指定できます。複数の承認者が指定されている場合、開示を [完了] ステータスに移行するには、すべての承認者が承認する必要があります。承認者が開示を却下した場合、開示は [対応中] ステータスに戻り、承認のために承認者に再送信する必要があります。

開示テンプレートを作成

さまざまなタイプの開示に合わせた独自の Microsoft Word 開示テンプレートを作成します。特定の開示を生成するときに作成するこれらのテンプレートを利用します。テンプレートは、効率性と一貫

性のためにカスタマイズされたテンプレートを実装することで、開示プロセスを合理化するのに役立ちます。

始める前に
必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > 管理 > 開示テンプレート**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

開示テンプレートフォーム

Field (フィールド)	Description (説明)
開示タイプ	開示のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ◦ 年次報告書 ◦ ESG レポート ◦ 規制とフレームワーク ◦ 情報の要求 ◦ 評価とインデックス ◦ サプライヤーアンケート ◦ その他
テンプレートドキュメント	追加するドキュメント。  注：ファイル拡張子は.docxである必要があります。

4. [Click to add...] を選択します。
5. [Choose file (ファイルを選択)] を選択します。
 - a. ローカルシステムから任意のファイルを選択します。
 - b. [開く] を選択します。
 - c. [OK] を選択します。

 注：ファイルのサイズが 10 MB を超えないようにし、開示タイプごとにテンプレートを 1 つだけ定義してください。

ローカルシステムでのナラティブ開示の作成

組織の ESG Management ナラティブ開示を作成し、ローカルシステムに保存します。開示を作成したら、ドキュメントをダウンロードして編集し、メトリクスを追加して、ESG Management インスタンスにアップロードし直すことができます。

始める前に
必要なロール:sn_esg.reporting_disclosure_manager または sn_esg.admin

このタスクについて

開示を作成するときに、開示をローカルシステムに保存するか、Microsoft OneDriveなどのリモートストレージに保存するかを指定できます。作成された開示は、プライマリドキュメントとして機能します。この手順では、ローカルストレージでナラティブ開示を作成する手順を示します。

- i 注:** 開示を作成した後、Ctrl + A と Delete を使用して開示ドキュメントのコンテンツを削除しないでください。これを行うと、ドキュメントに関連付けられたメトリックは削除されず、追跡されます。開示ドキュメントの作成後にカスタムプロパティのドキュメント ID と開示番号が更新または削除されていないことを確認します。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

新しい開示フォーム

フィールド	説明
番号	開示の識別番号。このフィールドは自動的に設定されます。
状況	開示のステータス。このフィールドは自動的に [ドラフト] に設定されます。
名前	開示の名前。
説明	開示の説明。
タイプ	開示のタイプ。選択肢は次のとおりです。 ◦ 年次報告書 ◦ ESG レポート ◦ 規制とフレームワーク ◦ 情報の要求 ◦ 評価とインデックス ◦ サプライヤーアンケート ◦ その他
所有者	開示の受託者。
リモートストレージにアップロード	そのような Microsoft OneDrive、開示をリモートストレージに保存する必要があるかどうかを決定するオプション。このオプションを選択すると、「リモート・ストレージ」セクションがフォームに表示されます。この手順では、このオプションを選択しないでください。
データ分類	開示情報の分類。選択肢は次のとおりです。 ◦ 公開:開示を公開するかどうかを決定します。 ◦ 非公開:開示を非公開にする必要があるかどうかを決定します。
承認者	開示を承認する必要があるユーザー。

4. 開示を保存するには、[保存] をクリックします。
次の手順を実行する前に、データがトラッキングテーブルに反映されるまで 1 分間待ちます。開示レコードの開示ドキュメントのカスタムプロパティ、ドキュメント ID、および開示番号が更新または削除されていないことを確認します。

5. 作成されたドキュメントを変更してアップロードするには、「[開示ドキュメントのアップロード](#)」を参照してください。
6. 開示を次のステータスに移動するには、[対応中に移動] を選択します。
7. 必要な承認者からの承認を要求するには、[承認を要求] を選択します。

開示ドキュメントのアップロード

ローカルに作成された開示を ESG Management アプリケーションインスタンスにアップロードします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin または開示の所有者

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示。
2. ローカルに作成された開示を開きます。
3. 開示文書のアップロード を選択します。
4. ドキュメントを開き、[コピー] アイコンを選択して一意のドキュメント ID をコピーします。
 - a. [ドキュメント ID] フィールドに、ドキュメントを開いて ID をコピーして、一意の ID を入力します。
 - b. [保存] を選択します。
5. ダウンロードアイコンを選択して、ドキュメントをダウンロードします。
6. 既に存在するドキュメントを削除します。
7. ドキュメントに必要な編集を行います。
8. 新しいドキュメントをアップロードするには、[ファイルの添付] を選択し、アップロードするドキュメントを参照します。
9. [保存] を選択します。

タスクの結果

開示ドキュメントが同期されます。データの同期には時間がかかります。

開示ドキュメントを追加

作成する開示のセカンダリ関連ドキュメントまたはサポートドキュメントを追加します。開示レポートのサポートドキュメントには、環境および社会指標を詳述したサステナビリティレポート、ガバナンス構造を示すコーポレートガバナンスドキュメント、および企業のESGパフォーマンスを検証するサードパーティ認証が含まれる場合があります。さらに、倫理やサプライチェーンの実践に関するポリシーなどの関連ポリシーは、包括的なESG開示に貢献します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin または開示の所有者

このタスクについて

開示を作成すると、その開示がプライマリドキュメントになります。セカンダリドキュメントを追加することはできますが、プライマリドキュメントを削除することはできません。ドキュメントが更新されるたびに、最新バージョンのドキュメントのみがインスタンスに保存されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. ドキュメントを追加する開示を開きます。
3. [ドキュメント] 関連リストを選択します。
4. [追加] を選択します。
5. フォームのフィールドに入力します。

開示ドキュメントフォーム

Field (フィールド)	説明
名前	ドキュメントの名前。
タイプ	ドキュメントのタイプ。プライマリドキュメントは常に自動的に作成される開示の空白のドキュメントであるため、このフィールドは自動的に [セカンダリ] に設定されます。
URL	ドキュメントが他の場所でホストされている場合のドキュメントの URL。
ドキュメント	添付するサポートファイル。

6. [保存] を選択します。
7. ドキュメントの詳細を表示するには、ドキュメントを選択し、[添付ファイル] サイドパネルに詳細を表示します。

開示にメトリクスを追加

開示データに寄与するのに役立つメトリクスを開示に追加します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin または開示の所有者

このタスクについて

メトリクスを開示に手動で追加した後、そのメトリクスが開示に寄与しなくなった場合、または誤って追加した場合は、それらのメトリクスを削除することもできます。ただし、Microsoft 365 for ServiceNow Reporting アプリケーションから追加されたメトリクスは削除できません。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 開示 > ナラティブの開示**.
2. 関連するメトリクスを追加する開示を開きます。
3. [関連メトリクス] 関連リストを選択します。
4. [追加] を選択します。
5. 追加するメトリクスを選択します。
6. [追加] を選択します。
7. [保存] を選択します。

レポートフレームワーク

ESG Management アプリケーションは、組織が経済、環境、社会、ガバナンスのパフォーマンスを報告できるように、いくつかの持続可能性レポートフレームワークを使用します。ESG Content Accelerator アプリケーションは、フレームワーク、引用、メトリクス定義、および排出係数の一元化されたリポジトリです。このアプリケーションを使用すると、ESG フレームワークの採用が加速します。

重要:

Xanadu リリース以降、Sustainability Accounting Standards Board (SASB) Global Reporting Initiative (GRI) コンテンツアクセラレータは廃止されました。これは非表示になり、新しいインスタンスではアクティブ化されなくなりますが、引き続きサポートされます。この機能の最新のエクスペリエンスは [ESG Content Accelerator](#) アプリケーションで提供されます。

GRI 標準を使用することにより、どの組織でも、経済、環境、および人々への影響を比較可能な信頼できる方法で理解し、レポートすることができるため、持続的な開発への貢献に関する透明性が向上します。

Sustainability Accounting Standards Board (SASB) は、企業が投資家に財務的に重要な持続可能性情報を開示するための標準を設定する ESG ガイダンスフレームワークです。SASB 標準により、企業は、財務的に重要な持続可能性情報を特定して管理し、投資家に伝達できます。

ESG Management アプリケーションは、Global Reporting Initiative (GRI) Content Accelerator for ESG および Sustainability Accounting Standards Board (SASB) のコンテンツパックに付属しています。

信頼できるソースコンテンツフォームでの更新

ESG Management アプリケーションがインスタンスにインストールされると、[レポート] セクションに [レポート要件と推奨事項 (**Reporting requirements and recommendations**)] というタイトルの新しいフィールドが表示されます。このフィールドは、レポート組織によって提供されるレポート要件に関するガイドラインを提供します。

 注: [レポート要件] フィールドは、ESG Management アプリケーションがインストールされている場合にのみ表示されます。

信頼できるソースコンテンツフォームの [レポート要件] フィールドで、レポート組織が提供する次のサンプル情報を参照してください。レポート組織は、次の情報をレポートするものとして、a. 組織の GHG 排出原単位比。b. その比率を計算するために選択された組織固有の測定基準 (分母)。c. 原単位比に含まれる GHG 排出量のタイプ: 直接 (スコープ 1)、エネルギー間接 (スコープ 2)、その他の間接 (スコープ 3)。d. 計算に含まれるガス: CO₂、CH₄、N₂O、HFC、SF₆、NF₃、またはすべて。2.7 開示 305-4 で指定された情報を編集するときに、レポート組織は次の操作を行うものとして、2.7.1 絶対的な GHG 排出量 (分子) を組織固有の測定基準 (分母) で割ることによって比を計算します。2.7.2 その他の間接的 (スコープ 3) GHG 排出量について原単位をレポートしている場合、直接 (スコープ 1) の原単位比およびエネルギー間接 (スコープ 2) 排出量とは別に、この原単位比をレポートします。レポートの推奨事項 2.8 開示 305-4 で指定された情報を編集する場合、レポート組織は、時間の経過に伴う透明性または比較可能性に役立つ場合は、次のように GHG 排出原単位比のブレイクダウンを提供する必要があります: 2.8.1 事業部門または施設。2.8.2 国。2.8.3 ソースのタイプ。2.8.4 アクティビティのタイプ。

他のアプリケーションとの ESG Management のデータ連携

ESG Management を プロジェクトポートフォリオ管理 および Integrated Risk Management (IRM) と統合できます。これらの統合により、目標を追跡するためのその他のオプションが得られます。

統合：プロジェクトポートフォリオ管理

ESG Management と プロジェクトポートフォリオ管理 を統合すると、ESG の目標を達成するためのアクティビティについて、計画、ロードマップの構築、優先順位付けを行えます。ESG に関連するすべてのプログラムとプロジェクトは、以下で確認できます。すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > **ESG** ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ。

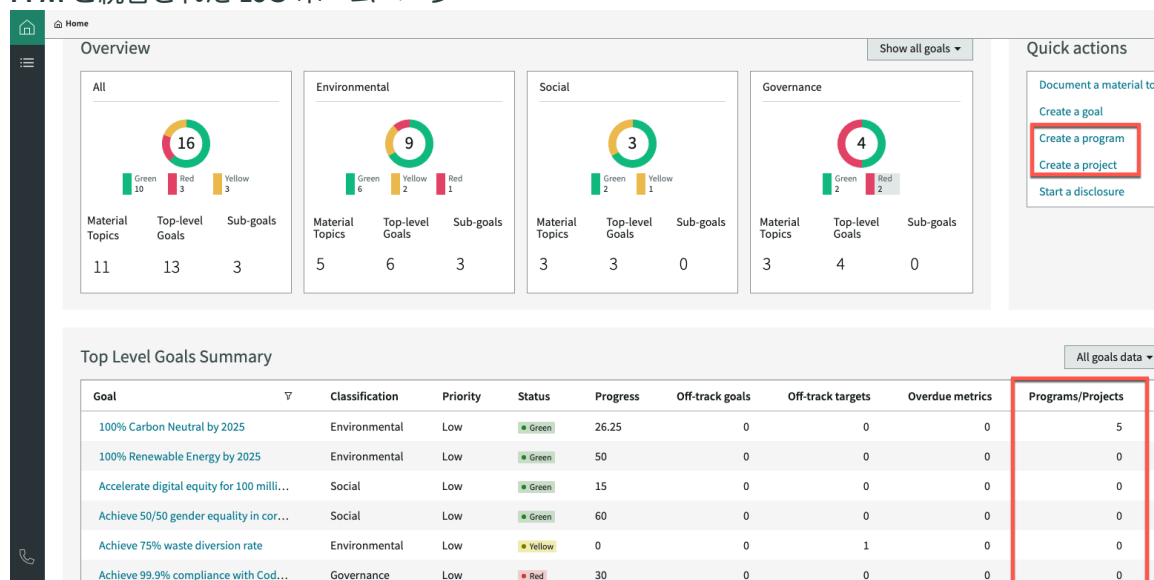
重要なトピックの目標を作成するときは、それらの目標を達成するためにいくつかのアクティビティを実行します。実行する作業は、プログラムとプロジェクトの形で取り込まれます。プロジェクトポートフォリオ管理 と統合した場合、目標に対するプログラムとプロジェクトを作成できます。プログラム管理およびプログラムの作成方法の詳細については、「[プログラム管理](#)」を参照してください。

プロジェクトフォームで実行する必要がある構成を確認するには、「[プロジェクトフォームでの優先度と目標の表示](#)」を参照してください。

ゴールフレームワーク とともにインストールされるテーブルを確認するには、「[とともにインストールされるロール ゴールフレームワーク](#)」を参照してください。

次の図は、プロジェクトポートフォリオ管理 統合を表示した ESG ホームページを示しています。統合により、[クイックアクション] セクションに新しいアクションが追加され、[トップレベルの目標の概要] セクションに [プログラム/プロジェクト] 列が作成されます。

PPM と統合された ESG ホームページ



プロジェクトポートフォリオ管理 と統合すると、[目標] フォームに [プログラム/プロジェクト] 関連リストが表示されま

100% Carbon Neutral by 2025

Classification: Environmental Status: Green Owner: Karla Ken State: In Progress

Overview Details **Programs/Projects** Material Topics (2) Entities (1) Sub-goals (3) Targets (1) more ▾

Description

100% Carbon Neutral by 2025

Direct view ▾

Tracking

In-scope entities



Goals summary

Total sub-goals

3

Complete On track At risk Off track
0 3 0 0

Targets summary

Total targets

1

Complete On track At risk Off track
0 1 0 0

Open metrics

Total Due in 30...

4

0

Overdue

0

す。

統合：IRM

ESG Management を IRM と統合すると、リスク、リスクステートメント、ポリシー、コントロール目標、および問題を目標に追加できます。たとえば、目標にポリシーを追加すると、関連するすべてのコントロール目標とコントロールがこの目標に関連付けられます。この統合は、目標に脅威を与えるリスクを特定して評価する際に役立ちます。

- i** 注：ESG ユーザーは、ポリシーを作成する必要はありません。ポリシーは IRM 管理者によって作成されます。ユーザーは、ポリシーを目標に関連付けることのみ必要です。

IRM と統合すると、[目標] フォームの [その他] リストの下に追加オプションが表示されま

100% Carbon Neutral by 2025

Classification: Environmental Status: Green Owner: Karla Ken State: In Progress

Overview Details Programs/Projects Material Topics (2) Entities (1) Sub-goals (3) Targets (1) more ▾

Description

100% Carbon Neutral by 2025

Direct view ▾

Tracking

In-scope entities



Goals summary

Total sub-goals

3

Complete On track At risk Off track
0 3 0 0

Targets summary

Total targets

1

Complete On track At risk Off track
0 1 0 0

Total Due in 30...

4

0

Overdue

0

- Policies
- Control Objectives
- Additional Control Objectives
- Controls
- Additional Controls
- Issues
- Risk Statements
- Risks
- Additional Risks (1)

す。

ESG Management とともにインストールされるロールとテーブルの詳細については、「[ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

関連情報

[ゴールフレームワーク への既存の目標データの移行](#)

Microsoft 365 と ServiceNow レポートの統合

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting (sn_esg_msoff_intg) 統合により、ESG レポート開示マネージャーに開示レポート機能が提供され、Microsoft Word を使用してServiceNow ESG Managementシステムデータ、リストレポート、グラフ、ピボット、およびマルチピボットレポートをシームレスにレポートできるようになります。

ESG レポート開示マネージャーは、活動の影響についてステークホルダーに対して透明性を保つために、開示を作成する必要がある場合があります。たとえば、組織が保護地域で石油を掘削する必要がある活動に従事することを計画している場合、開示マネージャーは、環境と地域社会に対する活動の潜在的な影響と、それらの影響を軽減するために講じられている対策を概説する開示を作成できます。

この統合により、レポートマネージャーは、開示レポートの ServiceNow ESG Management データリンクのインベントリを表示し、挿入されたデータを最新の ServiceNow ESG Management データと同期するように更新できます。インポートされたデータと ServiceNow インスタンスの間にも監査記録が作成されます。監査記録により、監査人はドキュメント内のリンクをクリックして、ServiceNow インスタンス内のデータのソースにアクセスできます。

また、構成を使用して挿入されたデータに加えられた変更を追跡し、それらの変更をログテーブルに記録することもできます。詳細については、「[Microsoft 365レポート構成の設定](#)」を参照してください。

- i** 注: この統合は、Microsoft Word のデスクトップバージョン 16.71 (23031200) および Web バージョン 16.0.16412.41005 と互換性があります。ただし、Web バージョンではチャートはインタラクティブではありません。つまり、グラフの色や書式などを変更することはできません。サポートされている Windows Office のバージョンは 2303 (ビルド 16130.20394) です。

インポートされたデータの形式、スタイル、色を変更できます。この統合では、次のグラフスタイルがサポートされています。

サポートされているグラフのスタイル

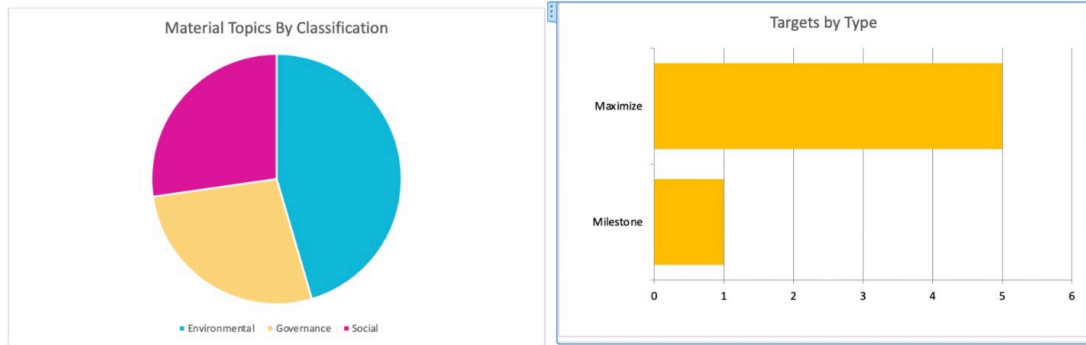
グラフのタイプ	サポートされているスタイル
円グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • 凡例を表示
棒グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • X 軸と Y 軸 ◦ タイトル ◦ タイトル太字

サポートされているグラフのスタイル (続く)

グラフのタイプ	サポートされているスタイル
	◦ グリッドを表示 ◦ ラベル太字
水平棒グラフ	• チャートの色 • データラベルの表示 • チャートタイトル • X 軸 ◦ タイトル ◦ タイトル太字 ◦ グリッドを表示 ◦ ラベル太字 • Y 軸 ◦ グリッドを表示 ◦ ラベル太字

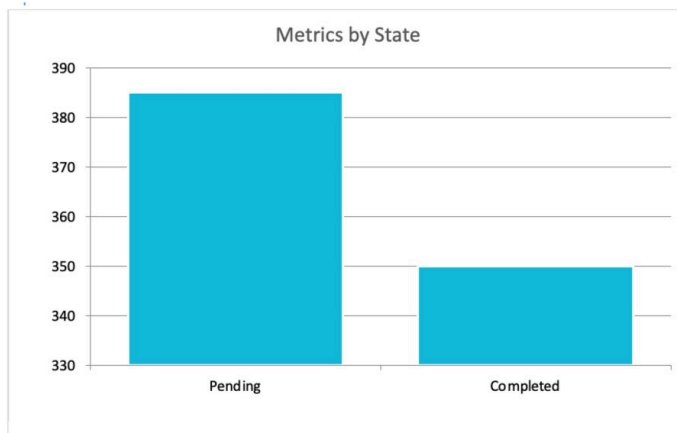
次の画像は、インポートされたデータがドキュメントでどのように表示されるかを示しています。

インポートされた各種データをドキュメントに表示する方法



	Classification	Environmental	Governance	Social	Total
	Priority	Low	Low	Low	
Status					
Green		9	6	1	16
Yellow		3		2	5
Total		12	6	3	21

	Frequency	Annually	Daily	Monthly	Quarterly	Semi-annually	Weekly	Total
Data owner								
Albert Washington		51	9	4			2	66
Happy Singh		1						1
Adam Haro		12		3			2	17
Brandon Hardley			3					3
Felipe Gould		5						5
Gale Nolau		3	1					4
Oliver Jones			20		24	6		50
Rene Dummermuth		6						6
Valli Raman		4						4
Total		82	33	7	24	6	4	156

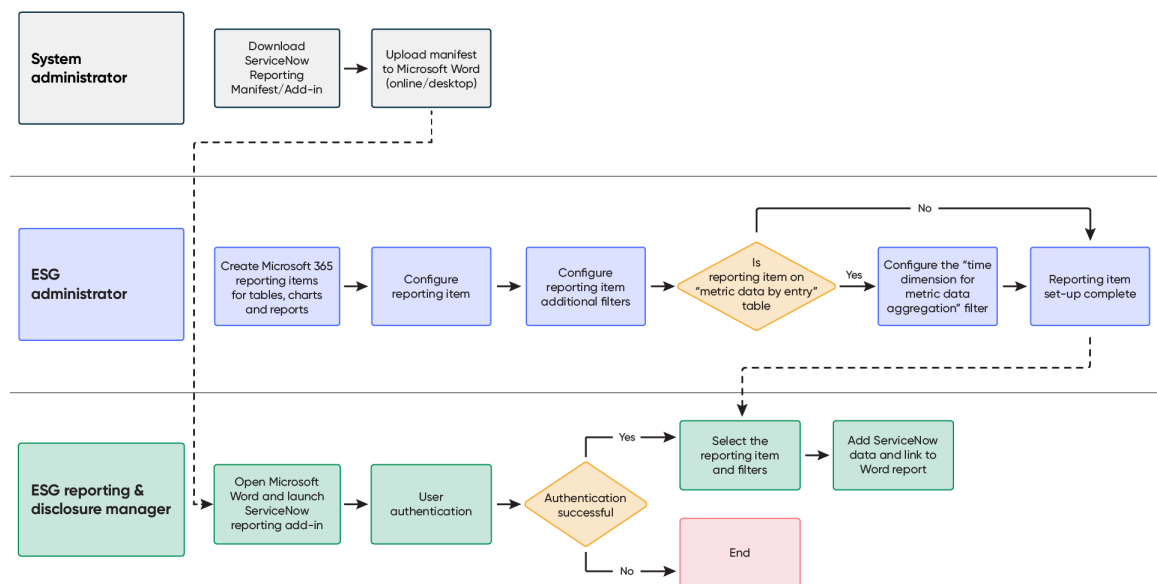


Microsoft 365 for ServiceNow Reporting のワークフロー

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting 統合では、システム管理者、ESG 管理者、開示マネージャーなどの複数のユーザーロールの参加が必要なワークフローを利用します。明確なワークフローを定義することで、個人とチームは自分の役割と責任をよりよく理解し、必要な開示を生成できます。

次の図は、Microsoft 365 for ServiceNow Reporting 統合を使用して Microsoft Word ドキュメントで開示を生成する完全なワークフローを示しています。

Microsoft 365 for ServiceNow レポート統合のプロセスフロー



Microsoft Word開示を生成するには:

1. ServiceNow Reporting アドインのダウンロード: システムアドミニストレーターとして、ESG マニフェストファイルをダウンロードしてインストールします。マニフェストファイルには、ソフトウェアアプリケーションまたはパッケージに含まれるファイルに関する情報が含まれています。これは、必要なすべてのファイルが正しい場所にインストールされるようにするために、ソフトウェアインストーラーによって使用されます。この段階では、Microsoft 365 アドミニストレーターと協力してマニフェストファイルを Microsoft Word アプリケーションにアップロードする必要があります。Microsoft 365 アドミニストレーターには必要なアクセス権があります。
2. ESG アドミニストレーターは、Microsoft 365 レポート構成レコードを設定して、Microsoft Word へのデータのインポートに使用する必要がある ServiceNow[®] インスタンスのテーブル、レポート、およびチャートを指定します。データのインポート元のテーブルの列を指定することもできます。
3. ESG アドミニストレーターは、追加のレポートフィルターを構成できます。これらのフィルターは、テーブルから開示レポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定します。
4. ESG レポートおよび開示マネージャーは、Microsoft Word ドキュメントに移動して自分自身を認証し、インスタンスからドキュメントにデータをインポートします。必要に応じて、データのフォーマット設定を変更できます。

ServiceNow Reporting アドインをインストールする

ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word ドキュメントにインストールします。このアドインは、ServiceNow[®] インスタンスからレポートとデータをインポートしてドキュメント Microsoft Word、開示レポートを作成するために必要です。

始める前に

次のプラグインがアクティブであることを確認してください。

- sn_esg
- sn_esg_msoff_intg
- sn_outlook_addin

必要なロール: sys_admin

手順

1. 移動先 **すべて > Office 用 ServiceNow アドイン > Office アドインマニフェスト**。
2. [Office マニフェスト] リストから、**[ServiceNow レポート (ServiceNow Reporting)]** を選択します。
3. [マニフェストをダウンロード] を選択します。
4. アドインを有効にするには、ステップ 3 でダウンロードしたマニフェストファイルを使用できる Microsoft 365 アカウントマネージャーにお問い合わせください。

次のタスク

マニフェスト ファイルを展開する方法の詳細については、Now Support サポート技術情報の「[Microsoft 365 管理センターでアドインを展開する \[KB1307378\]](#)」の記事を参照してください。

ブラウザーで Microsoft Word 用アドインの HTTP 応答ヘッダーを構成するには、Now Support サポート技術情報の「[応答ヘッダーの解決 \[KB1434453\]](#)」の記事を参照してください。

Microsoft 365 レポート構成の設定

Microsoft 365 レポート構成レコードを設定して、開示レポートの目的で Microsoft Word ドキュメントにインポートするデータポイントとレポートを指定します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.admin

このタスクについて

データは、開示レポートの目的で Microsoft Word ドキュメントにインポートされます。これらの Microsoft Word 開示を作成するときは、Microsoft Word ドキュメントにデータをインポートするために使用する必要がある ServiceNow インスタンスのテーブル、レポート、およびデータの可視化を指定する必要があります。データのインポート元のテーブルの列を指定することもできます。ESG アドミニストレーターによって作成されたレポート、または ESG アドミニストレーターと共有されているレポートのみを選択できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Microsoft 365 レポート統合 > レポート構成**。
2. Microsoft 365 レポート構成の一覧から、[新規] を選択します。
3. Microsoft 365 レポート構成フォームで、フィールドに入力します。

Microsoft 365 レポート構成フォーム

フィールド	説明
ビジネスドメイン	構成の作成元のドメイン。このフィールドは自動的に [ESG] に設定されます。
レポートアイテム	構成の名前たとえば、Word ドキュメントで ESG 目標に関するデータを取得する場合は、「自分の ESG 目標」などの名前を指定できます。
ソース タイプ	データを取得するソース。選択肢は次のとおりです。

フィールド	説明
	◦ テーブル：[テーブル] からデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。 ◦ レポート：事前定義されたレポートまたはグラフからデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。レポートの作成方法の詳細については、「アナリティクス Q&A でレポートを作成する」を参照してください。 ◦ データの可視化: パフォーマンスアナリティクス ライブラリのデータ可視化からデータをインポートする場合は、このオプションを選択します。詳細については、「データの可視化タイプの概要」を参照してください。 i 注: リストレポート、ピボットレポート、マルチレベルピボットレポート、水平および垂直棒グラフ、および円グラフのみを選択できます。積み上げ棒グラフとグループ化された棒グラフはサポートされていません。
ソーステーブル	データをフェッチするソーステーブル。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
フィルター	レコードをフィルタリングするためのフィルター条件。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
列	値を挿入するテーブルの列。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [テーブル] が選択されている場合にのみ表示されます。
ソースレポート	開示レポートに挿入する利用可能なレポート。このフィールドは、[ソースタイプ] フィールドで [レポート] が選択されている場合にのみ表示されます。
アクティブ	レコードがアクティブかどうかを示すオプション。ドキュメントではアクティブなレコードのみを選択できます。
構成を追跡	構成を使用して挿入されたデータに加えられた変更を追跡し、それらの変更をログテーブルに記録するオプション。

4. [送信] を選択します。

次のタスク

追加のレポート構成フィルターをレポート構成に追加します。これらのフィルターは、データを Microsoft Word 開示レポートにフェッチするのに役立ちます。詳細については、「[Microsoft 365 設定レコードにレポート構成フィルターを追加する](#)」を参照してください。

ビジネスドメインロールの構成

特定のドメインのユーザーがデータをインポートするドメインを選択できるように、ビジネスドメインロールを構成します。設定中に追加されたユーザーのみが、Microsoft Word ドキュメントのドメインを表示できます。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Microsoft 365 レポート統合 > ビジネスドメイン**.
2. デフォルトの ESG ドメイン名レコードを選択します。
3. [ロール] フィールドを選択します。
4. 必要に応じてロールを追加または削除します。
5. [更新] を選択します。

Microsoft 365設定レコードにレポート構成フィルターを追加する

レポートフィルターを追加して、テーブルから開示レポートにインポートする必要があるデータを詳細なレベルで指定します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.admin

このタスクについて

特定のテーブルからデータをインポートするように指定する場合は、データが必要なテーブルの正確なレコードも指定する必要があります。たとえば、sn_gf_goalテーブルからデータをフェッチするように指定したとします。このテーブルには複数のレコードが含まれる場合があります。したがって、データをフェッチする正確なレコードを指定する必要があります。必要な数のフィルターを指定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Microsoft 365 レポート統合 > レポート構成**.
2. 追加のレポート構成フィルターを追加するレコードを開きます。
3. [Microsoft 365 レポート構成フィルター (Microsoft 365 reporting configuration filters)] 関連リストで、[新規] を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

Microsoft 365 レポート構成フィルターフォーム

フィールド	説明
レポート構成	フィルターを追加する構成の名前。このフィールドは自動的に設定されます。
フィールド名	データをフェッチする必要があるフィールドの名前。たとえば、目標テーブルの場合、[名前] フィールドを指定できます。名前を選択すると、データのインポート時に目標のすべての名前を選択できます。

フィールド	説明
順序	ドキュメントのアドインペインに表示されるフィールドの順序。
時間ディメンションに基づく集計	選択した時間ディメンションに基づいてレポート構成ソーステーブルデータをアグリゲートするオプション。このオプションの詳細については、手順の例を参照してください。このフィールドは、フィールド名に [時間ディメンション] がある場合にのみ表示されます。
時間次元	データを集計する必要がある時間ディメンション。時間ディメンションのリストは次のとおりです。 - 年 - 半年ごと - 四半期 - 月 - 週 - 日付 要件に応じてディメンションを選択し、それらを [利用可能] リストから [選択済み] リストに移動します。 i 注: このフィールドは、[時間ディメンションに基づく集計 (Aggregate on time dimension)] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

5. [送信] を選択します。

タスクの結果

これで、構成データをアドインにインポートする準備が整いました。

Example: エンティティのデータ集計

ESG レポート開示マネージャーが特定の場所の年間総排出量を把握する必要があり、その場所にサブ場所がある場合は、データを集計してレポート目的で使用することもできます。たとえば、組織の場所が日本であるとし、そして日本には東京と京都の 2 つのサブ場所があるとし、日本での 2022 年のスコープ 1 の年間総排出量を求める必要があるとし、時間次元機能を使用すれば、データを集計すると年間総排出量を出すことができます。レポート要件に応じて、四半期、週、または月のデータを集計することもできます。メトリクスデータは、メトリクスデータ収集頻度よりも高い頻度で集計されます。これを実現するには、ソース テーブル フィールドで、エンティティ別のメトリック データ `[sn_grc_metric_data_by_entity]` を選択し、時間ディメンションに基づく集計 オプションを選択して、ソース テーブルから時間ディメンション フィールドを選択します。

ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word に追加する

Microsoft Word 文書にデータをインポートして開示レポートを作成する前に、ServiceNow Reporting アドインを Microsoft Word に追加する必要があります。

始める前に

必要なロール：Microsoft Word ドキュメントのすべてのユーザー。

手順

1. Microsoft Word アプリケーションを開きます。
2. メニューバーで [ホーム] を選択します。
3. [アドイン] を選択します。
4. [アドミン管理 (ADMIN MANAGED)] を選択します。
5. **ServiceNow Reporting** アドインを選択します。
6. [追加] を選択します。

タスクの結果

Microsoft 365 for ServiceNow Reporting の統合がアクティブになり、**ServiceNow Reporting** アドインの Microsoft Word ドキュメントで次のボタンを使用できるようになります。

- リンクを挿入
- リンクを管理

Microsoft Word開示レポートへのデータのインポート

ESG データポイントやレポートなどのデータをServiceNowインスタンスからMicrosoft Word開示レポートドキュメントにインポートして挿入します。インポートおよび挿入できるのは、レポート構成で設定されているデータのみです。

始める前に

必要なロール:sn_esg_msoff_intg.reader

手順

1. データを挿入する Microsoft Word ドキュメントに移動します。
2. リボンで [リンクの挿入] を選択します。
右側のペインに、ServiceNow ログイン画面が表示されます。
3. ServiceNow インスタンスにログインするには、[ログイン] を選択します。
 - a. ServiceNow レポートが新しいウィンドウに表示されることを示すメッセージが表示されたら、[許可] を選択します。
 - b. ServiceNow のログイン画面で認証情報を入力します。
 - c. [許可] を選択します。
4. テーブルからドキュメントに ESG データポイントを挿入するには、データを挿入するポイントにカーソルを移動します。
 - a. ペインの右側にある [データ] タブを選択します。
 - b. [Business domain (ビジネスドメイン)] フィールドが [ESG (ESG)] に設定されている。
 - c. [レポート アイテム] フィールドで、挿入する Microsoft 365 レポート構成レコードを選択します。
追加のフィルターは、選択した設定レコードに基づいて動的に表示されます。
 - d. [挿入する値] フィールドで、データを挿入する列を選択します。
 - e. [追加] を選択します。
5. レポートを挿入するには、データを挿入する位置にカーソルを移動します。

- a. 右側のペインで [テーブル] タブを選択します。
 - b. [Business domain (ビジネスドメイン)] フィールドが [ESG (ESG)] に設定されている。
 - c. [レポートアイテム] フィールドで、挿入する構成済みレポートを選択します。
 - d. [追加] を選択します。
データは開示レポートドキュメントに挿入されます。挿入されるテキストには、ドキュメントの書式が使用されます。必要に応じて書式設定を変更できます。
6. グラフを挿入するには、グラフを挿入する位置にカーソルを移動します。
- a. 右側のペインで [チャート] タブを選択します。
 - b. [Business domain (ビジネスドメイン)] フィールドが [ESG (ESG)] に設定されている。
 - c. [レポートアイテム] フィールドで、挿入する構成済みレポートを選択します。
 - d. [追加] を選択します。
チャートが開示レポートドキュメントに挿入されます。挿入したグラフを好みに応じて変更できます。たとえば、色やグラフの種類などを変更できます。
7. ドキュメント ID をコピーするには、コピーアイコンを選択します。
8. ドキュメントに挿入されているレコードの詳細を表示するには、コンテンツコントロールを選択し、[リンクを開く] を選択します。
9. レポートに挿入したすべての ServiceNow リンクの一覧を表示し、ドキュメントの最新のデータを取得するには、[リンクの管理 (Manage Links)] を選択します。
- a. 更新するリンクのチェックボックスをオンにします。
 - b. リフレッシュアイコンを選択します。
データは更新され、更新した時刻が表示されますが、ドキュメントの書式は保持されます。
10. レポートで選択されているコンテンツコントロールを識別して強調表示するには、縦に並んだ 3 つのドットまたは [その他のアクション] アイコンを選択します。
コンテンツ コントロールが右側のペインで強調表示されます。

ESG Management と高度なリスクアセスメントの統合

ESG リスク管理 機能を使用すると、ビジネスの ESG リスクを評価および評価できます。この機能は、ESG Management と高度なリスクアセスメントの統合です。リスクアセスメント機能を使用するには、sn_esg_risk_mgmt プラグインをインストールしてアクティブ化する必要があります。

高度なリスクアセスメント機能を使用すると、リスクアセスメントを意思決定プロセス全体の一部として統合できます。

リスクアセスメントには、定量的と定性的の 2 つのタイプがあります。定性的リスクアセスメントは、リスクの可能性と影響に関する査定人の認識に依存します。方法が純粋に定性的である場合、評価は高、中、低などのリスト値に基づいています。この場合、リスクスコアはロールアップされません。この方法には数学的依存関係が最小限であるため、定性的リスクアセスメントは簡単かつ迅速に実行できます。この方法では、評価対象のプロセスまたは資産に関する査定人の知識を活用することもできます。リスクアセスメントを初めて使用するユーザーは、通常、定性的アセスメントを使用します。定量的リスクアセスメントは、ファクトベースで測定可能な高度に数学的なデータに焦点を当てています。高度なシミュレーション技術を使用する定量的リスクアセスメントでは、リスクは純粋に数値で定量化されます。

ESG リスク管理 アプリケーションは両方のタイプのリスクアセスメントを提供し、エンティティと重要なトピックの両方を評価するために使用されます。オブジェクトベースのアセスメントは重要なトピックに焦点を当てていますが、リスクベースのアセスメントはエンティティに適用されます。結果のリスクアセスメントスコアは、リスクベースのアセスメント用に集計されます。オブジェクト

ベースのアセスメントでは、エンティティ、リスクステートメント、コントロールなどの包括的な GRC セットアップがない場合でも、ServiceNow レコードまたはオブジェクトのリスクを評価できます。オブジェクトアセスメントの例には、変更管理の評価や引用の評価が含まれます。高度なリスクアセスメントの詳細については、[高度なリスクアセスメント](#) ドキュメントを参照してください。

sn_esg_risk_mgmt プラグインとともにインストールされるロールの詳細については、「[ESG Management](#)とともにインストールされるコンポーネント」を参照してください。

ESG リスク管理 のワークフロー

重要なトピックとエンティティのリスクアセスメントを実行するには、ESG アドミニストレータ、ESG リスクマネージャー、および ESG データ所有者が一連の定義されたステップを実行する必要があります。

ESG リスクアセスメントを正常に実行するには、次の手順が必要です。

1. システムアドミニストレータは *Migrate to Advanced Risk Assessments*、高度なリスクアセスメント>管理>プロパティ。
2. ESG アドミニストレータとして、次のタスクを完了します。
 - a. デフォルトで提供される 2 つのリスクアセスメント方法論 (RAM) を構成します。1 つの RAM は重要なトピックの評価用に設計されており、もう 1 つの RAM はエンティティの評価用に調整されています。方法論を構成するときは、固有リスクや残存リスクなど、評価するリスクを指定します。これらの各タイプを理解するには、「[高度なリスクアセスメント](#)」を参照してください。
 - b. リスクアセスメントの要素を構成します。要素は、リスクアセスメント中に表示される質問であり、リスク査定人が回答します。要素とそのタイプの詳細については、「[高度なリスクアセスメントの要素](#)」を参照してください。
3. ESG リスクマネージャーは、次のタスクを完了します。
 - a. リスクステートメントを作成し、エンティティをリスクステートメントに関連付けます。リスクステートメントの作成方法については、「[リスクステートメントを作成](#)」を参照してください。
 - b. リスクを作成します。リスクの作成方法については、「[リスクステートメントからリスクを生成](#)」を参照してください。
 - c. エンティティのリスクを定義および特定し、アセスメントの査定人と承認者を特定し、アセスメントの頻度を定義し、リスクアセスメントを開始するためのリスクアセスメントスコープを作成します。リスクアセスメントスコープの作成方法については、「[リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始します。](#)」を参照してください。
4. リスクベースのアセスメントの場合、ESG データ所有者は、ESG ワークスペースの [タスク] ペインからアセスメントに回答し、レビューし、承認者が定義されている場合は承認のためにアセスメントを送信します。承認者が定義されていない場合、リスクスコアはリスクとエンティティにロールアップされます。
5. オブジェクトベースのアセスメントの場合、ESG プログラムマネージャーは、ESG ワークスペースの [タスク] ペインからアセスメントに回答し、レビューし、承認者が定義されている場合は承認のためにアセスメントを送信します。

リスクアセスメント方法論を構成

デフォルトで提供されるリスクアセスメント方法論 (RAM) を構成します。RAM は、リスクアセスメントエンジンの構成またはレコードです。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

RAM を使用して、組織内のリスクまたはオブジェクトを評価できます。たとえば、RAM を構成して、リスクアセスメントのタイプとリスクアセスメントが実行されるエンティティを指定できます。デフォルトで提供される RAM は 2 つあり、ドメイン領域は **ESG** に設定されています。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > リスクアドミニストレーション > リスクアセスメント方法**.
2. 変更または設定する RAM を選択します。
3. フォームでフィールドを変更します。
RAM フィールドの詳細については、「[リスクアセスメント方法論フォーム](#)」を参照してください。

リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始する

エンティティのリスクを定義および特定するためのリスクアセスメントスコープを作成します。アセスメントの査定人と承認者を特定し、アセスメントの頻度を定義します。スコープを作成したら、リスクアセスメントを開始します。

始める前に

必要なロール:sn_esg_risk_mgmt.risk_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > リスクアセスメント計画 > スコープ対象エンティティ**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。
リスクアセスメントスコープフォームのフィールドの詳細については、「[リスクアセスメントスコープを作成し、アセスメントを開始します](#)」を参照してください。

重要なトピックに関するリスクアセスメントの開始

リスクアセスメントを開始し、重要なトピックの所有者に送信することで、重要なトピックに対するリスクを評価します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.program.manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > プログラムのセットアップ > 重要なトピック**.
2. リスクを評価する重要なトピックを開きます。
3. [リスク アセスメントの開始] を選択します。

タスクの結果

リスクアセスメントが重要なトピックのオーナーに送信されます。その後、査定人がアセスメントに応答します。

リスクアセスメントへの対応

リスクアセスメントを実施して、ESG Management アプリケーションのリスクを評価します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.data_owner

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG** ワークスペース > 自分のタスク.
2. 評価するリスクアセスメントを開き、次のいずれかを実行します。
 - アセスメントを開始する場合は、[始めましょう] を選択します。
 - リスクアセスメントを他のユーザーにアサインする必要があると思われる場合は、[再アサイン] を選択して必要な詳細を入力してください。
 - このリスクが以前に評価されている場合、以前のアセスメントを表示するには、[前回のアセスメントのレビュー] を選択します。
3. 固有のアセスメントを実行するには、すべての固有のアセスメントの質問に回答します。
4. オプション: 定性的および定量的重み付けを表示するには、[総合評価] を選択します。
5. スコアを保存して表示するには、[保存] を選択します。
6. オプション: 計算された固有リスクの結果を変更するには、次の操作を行います。
 - a. [計算されたスコアを変更したい] オプションを選択します。
 - b. [固有リスクを上書き] リストから、適切な値を選択します。
 - c. 計算されたスコアの変更の理由を説明するコメントを入力します。
 - d. [保存] を選択します。
7. 軽減コントロールの実装後に残っているリスクを評価するには、[残存アセスメントに移動 (**Move to residual assessment**)] をクリックし、要素に対応します。
スコアを変更する理由を入力することで、計算された残存スコアを変更することもできます。
8. オプション: アセスメントを変更する場合は、[アセスメントを編集] を選択します。
9. 承認者を定義した場合は、[レビューと送信] を選択します。
アセスメントホームページが表示されます。アセスメントの概要を確認できます。
10. 承認を要求、アサインを編集、または再アサインするには、次のいずれかを選択します。

選択肢	説明
承認を要求	承認者が指定されている場合は、このオプションを選択して承認のためにアセスメントを送信します。承認者に追加のコメントを提供することもできます。
アセスメントを編集	アセスメントの回答を変更する場合は、このオプションを選択します。
再アサイン	アセスメントを他のユーザーに割り当てる必要がある場合は、このオプションを選択します。

ESG Managementと Watershedの統合

Watershed は、組織が炭素排出量と再生可能エネルギーおよびその影響を測定できるようにするツールです。また、組織が排出量の削減に取り組み、カーボンフットプリント削減の進捗状況をレポートできるようにします。

ESG Management ユーザーは Watershed を使用して、そのビジネスのスコープ 1、2、3 の排出量を計算できます。企業の温室効果ガス (GHG) の排出量は 3 つのスコープに分類されます。次の表で、各スコープの違いについて説明します。

スコープ 1、2、3 の排出量の差異

スコープ 1	スコープ 2	スコープ 3
次のソースからの直接的な GHG の排出量： - 燃料燃焼 - 社用車からの排出量 - 所有または制御されているプロセス機器での化学製品製造による排出量 - 一時的排出量	次のソースからの間接的排出量： - 購入電力 - 熱および蒸気。	次のソースからの間接的排出量： - 購入品およびサービス - 出張 - 従業員の通勤 - 廃棄物処理 - 販売した製品の使用 - 輸送と配送 (アップストリームおよびダウストリーム) - 投資 - リース資産とフランチャイズ

Watershed はスプレッドシートでデータを管理し、それらのスプレッドシートを ESG Management プログラムマネージャーに提供します。sn_esg.program_manager ロールを持つ ESG Management プログラムマネージャーは、スプレッドシートから ESG Management アプリケーションのソーステーブルにデータをインポートする必要があります。ソーステーブルは、ServiceNow インスタンスの測定基準の定義で指定されます。

Watershed の機能を使用するには、Watershed Integration for ESG プラグインを有効にして、[メトリクスの統合を設定する必要があります](#)。

i 注:

- データを正常にインポートするには、import_admin ロールを sn_grc_metric.admin ロールに追加する必要があります。
- [メソッドタイプ] が [外部ソース] である自動測定基準の定義のみが、データのインポートをサポートしています。システムに手動測定基準の定義が既にある場合は、データをインポートする前に [タイプ] を [自動] に、[メソッドタイプ] を [外部ソース] に変更する必要があります。詳細については、「[自動メトリクスの定義の作成](#)」を参照してください。

スプレッドシートからデータをインポートする前に、測定基準の定義を作成することも、システムに依存してプレースホルダーを作成し、後で詳細を追加することもできます。

測定基準は、測定基準の定義で定義した頻度に基づいて生成されます。測定基準値は、その単位とともに、測定基準の定義における測定基準の関連リストに表示されます。この値は、測定基準の定義で指定された式に基づいてロールアップされます。

i 注: 任意のメトリクスデータを優先レポート単位に変換できます。

デフォルトでは、Now Platform は Watershed からインポートできる次のデータを提供します。

- 炭素排出量
- 再生可能エネルギー
- 再生不能エネルギー

水使用量や廃棄物処理などの他のデータをインポートすることもできます。他のタイプのデータをインポートするには、[測定基準の統合](#)を使用してデータをインポートします。

Watershed Integration for ESG の変更

Watershed Integration for ESG 構成を変更して、Watershed からデータをインポートして測定基準を生成する方法を指定します。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

Now Platform は、Watershed からデータをインポートするための事前構成された統合を提供します。ただし、要件に基づいて構成プロパティを更新または変更することができます。たとえば、構成を変更するときに、測定基準の定義を自動的に作成するかどうかや、測定基準データをオーバーライドするかどうかを指定できます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Watershed > メトリクスの統合**。
2. [測定基準の統合] ページで、**[Watershed 統合 (Watershed Integration)]** を選択します。
3. フォーム上のフィールドを編集します。

[Watershed 統合 (Watershed Integration)] フォーム

フィールド	説明
名前	マッピングの名前。
ソース	マッピングのソース。このフィールドは、自動的に [Watershed データ] に設定されます。
ドメイン領域	統合の作成元ドメイン。統合が [Environmental, Social, and Governance] から作成される場合、このフィールドは自動的に [ESG] に設定されます。
ソーステーブル	このソーステーブルは自動的に [Watershed データ] に設定されます。
測定基準の定義を自動的に作成	データのインポート中に測定基準の定義を自動的に作成するオプション。
測定基準の単位を自動的に作成	データのインポート中に測定基準の単位を自動的に作成するオプション。
エンティティタイプを自動的に作成	データのインポート中にエンティティタイプを自動的に作成するオプション。
エンティティを自動的に作成	データのインポート中にエンティティを自動的に作成するオプション。
測定基準データを上書き	データのインポート中に測定基準データを上書きするオプション。

4. **[更新]** を選択します。

データマッピングの作成

Watershed スプレッドシートの事前構成された列以外の列から Watershed データをインポートするデータマッピングを作成します。デフォルトでは、3 つの列からのデータインポートがサポートされています。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

デフォルトでは、炭素排出、再生可能エネルギー、および非再生可能エネルギーに関連するデータをインポートできます。スプレッドシートから水使用量や廃棄物処理などの他のタイプのデータをインポートする場合は、それらのデータマッピングを作成できます。必要な数のマッピングを作成できます。

手順

1. 移動先 **すべて > メトリクス > メトリクスの統合**.
2. **[Watershed 統合 (Watershed Integration)]** を選択します。
3. **[データマッピング]** セクションで、**[新規]** を選択します。
4. フォームのフィールドに入力します。

[データマッピング] フォーム

フィールド	説明
名前	マッピングの名前。
ソーステーブル	マッピングのソーステーブル。このフィールドは、自動的に [Watershed データ] に設定されます。
データ列	データのインポート元の列。
開始日の列	開始日を含むソーステーブル内の列。
開始日	マッピングの開始日。開始日列がない場合は、開始日を指定します。
頻度	スプレッドシート内のデータの頻度。たとえば、月次データ、年次データなど。
終了日の列	終了日を含むソーステーブル内の列。
終了日	マッピングの終了日。終了日列がない場合は、終了日を指定します。
単位列	インポートされたデータセットから得られた単位列。
単位	データの単位。
デフォルトの所有者	測定基準の定義の所有者またはエンティティの所有者。
測定基準の統合	測定基準の統合。このフィールドは、自動的に [Watershed 統合 (Watershed Integration)] に設定されます。

5. **[送信]** を選択します。

タスクの結果

新しいマッピングでデータをインポートする準備ができました。

エンティティでのレコード識別子の作成

エンティティを正しくマッピングするためのテキストを使用してレコード識別子を作成します。このアクティビティでは、新しいエンティティを作成する必要がないため、ESG プログラムマネージャーの時間を節約できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

エンティティ、エンティティタイプ、測定基準の定義など、システム内の既存データを、Watershed スプレッドシートのデータとマッピングできます。スプレッドシートのデータ形式が異なる場合は、マッピングレコード識別子を作成できます。この手順では、エンティティクラスが [ロケーション] のエンティティを例として使用します。たとえば、Akaska, Japan というタイトルのエンティティが既にシステムにあり、スプレッドシートに Akaska, Minito, JP というエンティティ名が含まれているとします。この場合は、システムで Akaska, Minato, JP を Akaska, Japan にマッピングできるようにする必要があります。このタスクを実行するには、システム内のエンティティを識別するレコード識別子を作成する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > スコーピング > すべてのエンティティ**.
2. レコード識別子を追加するエンティティを検索して開きます。
3. [マッピング] 関連リストを選択します。
4. [新規] を選択します。
5. スプレッドシートからのエンティティにマッピングするテキストをコピーします。
6. [レコード識別子 (**Record identifier**)] フィールドに、前の手順でコピーしたテキストを貼り付けます。
7. [送信] を選択します。

タスクの結果

識別子がエンティティに追加されます。データのインポート中にレコード識別子テキストが検出されると、レコードは正しいエンティティにマッピングされます。

Watershed から ESG Management へのデータのロード

Watershed スプレッドシートからステージングテーブルにデータをロードします。データをロードしてセットアップを完了すると、Watershed Integration for ESG を使い始めることができます。

始める前に

import_admin ロールを sn_grc_metric.admin ロールに追加する必要があります。

必要なロール：sn_esg.program_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > データのロード**.
2. [データのロード] フォームで、[既存のテーブル] を選択します。
3. [インポートセット] フィールドで、[Watershed データ [sn_esg_watershed_data]] を選択します。
4. [ファイルを選択] を選択し、ロードするファイルを選択します。
5. [開く] を選択します。

6. [シート番号] フィールドで、シート番号が適切であることを確認します。
7. [ヘッダー行] フィールドで、ヘッダー行が適切であることを確認します。
8. [送信] を選択します。

タスクの結果

スプレッドシートがステージングテーブルにロードされます。スプレッドシートのすべての列が作成されます。

次のタスク

[インポートセットを表示します。](#)

インポートセットの表示と検証

データが外部ソースから正しくインポートされているかどうかを検証します。この検証により、データのインポート中にエラーが発生したかどうかを特定できます。

始める前に

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

データがスプレッドシートなどの外部ソースから ESG Management アプリケーションにロードされると、各行のステータスを利用できるインポートセットが作成されます。インポート中にエラーが発生した場合、ステータスは [エラー] として更新されます。データがインポートされると、ステータスは [挿入済み] として更新されます。エラーログでエラーの原因を確認することもできます。測定基準データがオーバーライドされると、そのステータスは [無視] に設定されます。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > インポートセット**.
2. 検証するインポートセットを開きます。
3. [インポートセット行] セクションで、各行のステータスを確認します。
エラーを確認するためにデータを再ロードする場合は、データを再度インポートする必要があります。インポートセットの [関連リンク] の下の [再処理] は選択しないでください。
4. エラーログを表示するには、[インポートログ] セクションを選択します。

次のタスク

[変換マップを作成します。](#)

変換マップを作成

ステージングテーブルの列をターゲットテーブルの列に一致させるための変換マップを作成します。この変換は、ソーステーブルのデータを測定基準データに変換する際に役立ちます。

始める前に

インポート前にシステムに手動測定基準の定義が既に存在する場合は、測定基準の定義のタイプを [自動] に、メソッドタイプを [外部ソース] に変更する必要があります。

必要なロール：sn_esg.program_manager

このタスクについて

Watershed データ [sn_esg_watershed_data] などのステージングテーブルから、測定基準データ [sn_grc_metric_data] などのターゲットテーブルにデータをインポートするときに、マップが変換されます。デフォルトでは、Watershed からデータをインポートするときに各テーブルで 3 つの変換マップを使用できます。

手順

1. 移動先 **Environmental, Social, and Governance > Watershed > インポートセット**.
2. 作成したインポートセットを開きます。
3. 関連リンクで、[変換] を選択します。
4. [インポートセットと変換マップを指定] フォームで、必要なマップを [利用可能] 列から [選択したマップ、順番に実行 (**Selected maps run in order**)] 列に移動します。
5. [変換] を選択します。

ESG Managementと Urjanetの統合

Urjanet は、さまざまな公共料金の請求書をソースから直接抽出し、それに依存するビジネスシステムやアプリケーションに配信するクラウドベースのプラットフォームです。ESG プログラムマネージャーまたは測定基準マネージャーは、Urjanet からユーティリティデータを自動的に取得し、さまざまな施設やオフィスの所有者による手動データ入力を回避できます。

公共料金の請求書は、電気、天然ガス、水道、廃棄物などの公共事業から月に一度発行および支払われる詳細な請求書です。Urjanet ESG integrationを使用すると、組織はUrjanetからメトリクスの形式でNow Platformに過去またはリアルタイムのユーティリティデータを取得できます。これらの測定基準は、ESG ワークスペース を使用して追跡でき、目標やターゲットなどの他の ESG コンポーネントに関連付けられているため、組織は持続可能性のために必要な措置を講じることができます。

この統合を使用すると、次のタイプのデータを Urjanet から ESG Management アプリケーションに自動的に取り込むことができます。

- 水と電気の消費量
- 廃棄物の発生量など

Urjanet ESG integrationのワークフローは次のとおりです。

1. エンティティの作成:すべての場所の各ユーティリティデータは、ESG Management アプリケーションでエンティティとして追跡されます。たとえば、アトランタのオフィスでの電力消費量はエンティティと見なされます。したがって、追跡するすべてのユーティリティデータのエンティティを作成する必要があります。既にエンティティを作成している場合は、Urjanet からインポートされたユーティリティデータを、作成されたエンティティにマッピングする必要があります。エンティティフォームのエンティティクラスやエンティティオーナーなどの特定のフィールドは、統合のユーザーが手動で入力する必要があります。
2. メトリクスの定義をアクティブ化する: Urjanet ESG integrationについては、ServiceNow® はデフォルトでいくつかのメトリクスの定義を提供します。メトリクスの収集に必要なものをアクティブ化する必要があります。アクティブなメトリクスの定義のみが考慮され、そのデータがシステムにロードされます。デフォルトのメトリクス定義の単位、頻度、エンタープライズオーナーなどの特定のフィールドは、統合のユーザーが手動で入力する必要があります。デフォルトで提供されるメトリクスの定義を使用したくない場合は、独自のメトリクスの定義を作成できます。
3. メトリクスのデータをインポートする:ユーザーが必要なメトリクス定義をアクティブ化すると、それらのメトリクス定義とそのエンティティのデータがメトリクスおよびメトリクスデータとして ESG Management にインポートされます。

Urjanet ESG integrationのインストール

admin ロールを持っている場合は、Urjanet ESG integration アプリケーション (sn_esg_urjanet) をインストールできます。このアプリケーションは、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします (まだインストールされていない場合)。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「[ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得](#)」を参照してください。
- Urjanet アカウントを作成し、ログイン認証情報を取得してください。

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

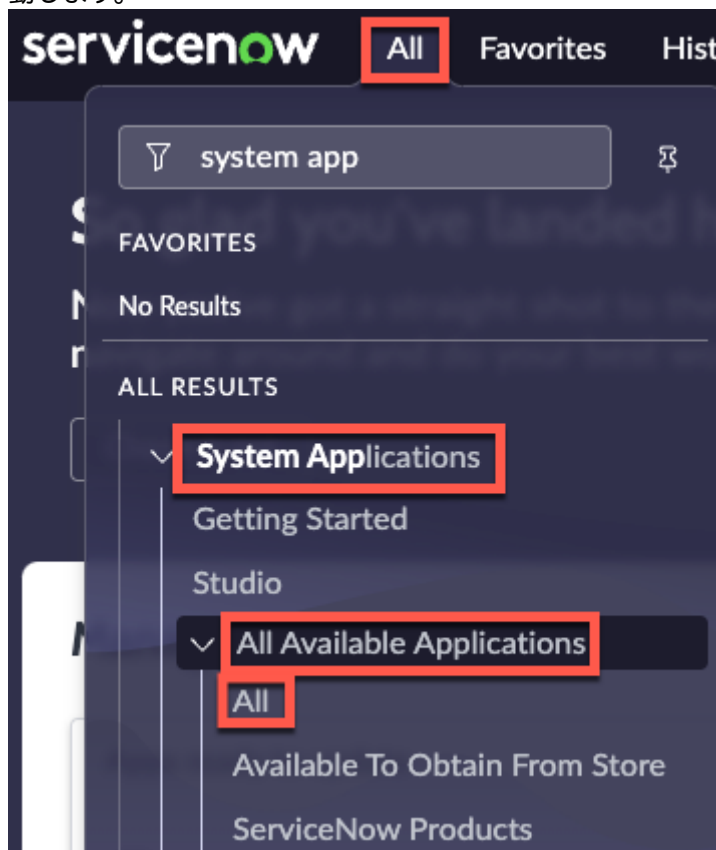
Urjanet ESG integration とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

詳細については、「[ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、Urjanet ESG integration アプリケーション (sn_esg_urjanet) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエントリメントを取得します。

5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。

デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

Urjanet接続の作成

有効な認証情報を使用して Urjanet アカウント接続を作成し、Urjanet と ServiceNow[®] 間の接続を確立します。統合のドメインごとにアクティブにできる接続は 1 つだけです。インポートされたデータは、論理的に定義されたドメインに分離できます。データアクセスはドメイン間で制限されます。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > 接続および資格情報エイリアス**.
2. [**Create New Connection & Credential**] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続名	接続の名前。このフィールドは自動的に [Urjanet 接続] に設定されます。
接続 URL	Urjanet API のベース URL。このフィールドは自動的に https://api.urjanet.com に設定されます。
日付	履歴データをロードする必要がある日付。この日付は過去の日付にする必要があります。 注: 日付は yyyy-mm-dd 形式にする必要があります。

フィールド	説明
認証情報名	認証情報の名前です。このフィールドは自動的に [Urjanet 認証情報] に設定されます。
ユーザー名	Urjanet アカountのユーザー名。
パスワード	Urjanet アカountのパスワード。

4. [作成] を選択します。

のエンティティマッピングの作成 Urjanet

Urjanet ESG integrationは各Urjanetアカウントメーターをエンティティと見なすため、Urjanetのエンティティマッピングを作成します。

始める前に

sn_esg_urjanet プラグインがアクティブ化されていることを確認します。

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

統合を開始する前に、エンティティマッピングがない場合は、Urjanet アカountのメーターデータをエンティティにマッピングできるようにエンティティマッピングを作成できます。Urjanet ESG integrationは、Urjanetアカウントのメーターをエンティティと見なします。この手順はオプションです。

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **Urjanet** > エンティティマッピング。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[エンティティマッピング] フォーム

Field (フィールド)	Description (説明)
レコード識別子	Urjanet 測定 ID。
関連レコード	マッピングするエンティティ。
追加情報	アドミニストレーターが入力する必要がある情報を指定するために使用されるフィールド。エンティティクラスやエンティティオーナーなどの特定のフィールドは、ユーザーが手動で入力する必要があります。
状況	レビューステータス。[追加情報] フィールドに指定された情報に基づいて、アドミニストレーターは必要な情報を入力し、このフィールドのステータスを変更する必要があります。選択肢は以下のとおりです。 ◦ レビュー不要:管理者がエンティティレコードに入力するフィールドがない場合は、このオプションを使用します。 ◦ レビューが必要:アドミニストレーターがエンティティレコードの一部のフィールドに入力

Field (フィールド)	Description (説明)
	する必要がある場合は、このオプションを使用します。 レビュー済み:管理者がエンティティレコードの指定されたフィールドに情報を既に入力している場合は、このオプションを使用します。 このフィールドは自動的に [レビュー不要] に設定されます。情報を入力した後、ステータスを [レビュー済み] に変更する必要があります。

4. [送信] を選択します。

メトリクスの定義マッピングの作成

メトリクスの定義マッピングを作成して、Urjanet からインポートされたデータを正しいメトリクスの定義にマッピングします。

始める前に

必要なロール：sn_esg.metrics_manager

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > メトリクスの定義マッピング**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

[メトリクスの定義マッピング] フォーム

Field (フィールド)	Description (説明)
レコード識別子	データのマッピングに使用されるレコードの名前。たとえば、「電力 - デマンドの使用状況」などです。
関連レコード	レコードがマッピングされるメトリクスの定義。
追加情報	メモやコメント。
状況	レビューステータス。このフィールドは、レビュー対象のエンティティマッピングレコードがいくつかあり、それらのレコードに不足している情報が必要であるという情報を sn_esg.admin に提供するために使用されます。選択肢は以下のとおりです。

Field (フィールド)	Description (説明)
	◦ レビュー不要:管理者がエンティティフォームに入力するフィールドがない場合に、このオプションを使用します。 ◦ レビューが必要:アドミンがレコードの一部のフィールドに入力する必要がある場合は、このオプションを使用します。 ◦ レビュー済み:アドミニストレーターが既にフィールドに情報を提供している場合は、このオプションを使用します。 このフィールドは自動的に [レビュー不要] に設定されます。

4. [送信] を選択します。

Webhook URL を生成

Webhook URL を生成するための Webhook レジストリを定義します。Urjanet は、Urjanetステートメントデータが生成または変更されたときに、Webhook URL を使用してリアルタイムデータを ESG Management アプリケーションに送信します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

このタスクについて

Urjanetのステートメントは、法案を指します。定義された Webhook を使用して、Urjanet で新しいステートメントが生成されるたびに、ESG Management アプリケーションに新しいステートメントの生成が通知され、手動による介入なしにデータが ESG Management アプリケーションにフェッチされます。

手順

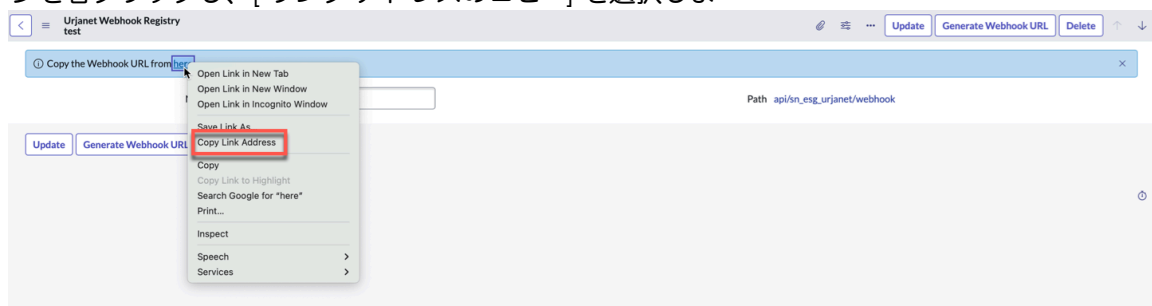
1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > Urjanet > Webhook レジストリ**。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

Urjanet Webhook レジストリフォーム

Field (フィールド)	説明
名前	レジストリの名前。
パス	受信 Urjanet API 呼び出しに使用するスク립ト済み REST API のリソースパス。このフィールドは自動的に api/sn_esg_urjanet/webhook に設定されます。

4. [送信] を選択します。

- 作成したレコードを開き、[**Webhook URL の生成 (Generate Webhook URL)**] を選択します。
- Webhook URL をコピーするには、画面に表示される情報メッセージを右クリックし、[**リンク アドレスのコピー**] を選択しま



す。

次のタスク

Urjanetコンソールで生成された URL を貼り付けて、リアルタイムのUrjanetステートメントデータを取得します。詳細については、システムアドミニストレーターにお問い合わせください。

からのメーター詳細のインポート **Urjanet**

スケジュール済みジョブを使用して、レポート作成の目的で、測定番号、測定 ID などの測定の詳細を Urjanet から ESG Management アプリケーションにインポートします。詳細はエンティティの形式でインポートされます。

始める前に

必要なロール:import_scheduler

手順

- 移動先 **すべて > システムインポートセット > 管理 > スケジュール済みインポート**。
- Urjanet** エンティティのスケジュール設定済みデータインポートレコードを選択して開きます。
- [**今すぐ実行**] をクリックします。
デフォルトでは、データインポートは 90 日ごとに実行されるように設定されていますが、[**実行**] フィールドで頻度を変更できます。スケジュールされたデータインポートの設定の詳細については、「[データインポートのスケジュール](#)」を参照してください。

タスクの結果

エンティティは、次の詳細で作成されます。

- 名前:Urjanetメーターのサイト名とUrjanetメーターのメーター番号。
- 場所:Urjanet メーターのサービス住所。
- 説明:Urjanet メーターのプロバイダー。

履歴 **Urjanet** データのロード

ESG 管理の一部として管理できる新しいメトリクスを作成して、過去の Urjanet 口座ステートメントデータをメトリクスデータとしてロードします。データは、Urjanet 接続の構成時に指定した日から取得されます。

始める前に

必要なロール:import_scheduler

手順

1. 移動先 **すべて > システムインポートセット > 管理 > スケジュール済みインポート**.
2. **[Urjanet Metric Data Scheduled Data Import (Urjanet メトリクスデータのスケジュール設定済みデータインポート)]** レコードを選択して開きます。
3. **[今すぐ実行]** をクリックします。
デフォルトでは、データインポートは 90 日ごとに実行されるように設定されていますが、[予定されているデータインポート] フォームの **[実行]** フィールドで頻度を変更できます。スケジュールされたデータインポートの設定の詳細については、「[データインポートのスケジュール](#)」を参照してください。

タスクの結果

メトリクスは、構成されたエンティティとメトリクスの定義を使用して作成されます。

ESG Managementと Workdayの統合

Workday ESG 統合 プラグインを使用すると、ESG レポートに必要な HR データを Workday から ESG Management アプリケーションにインポートできます。

この統合を使用すると、ESG アドミニストレータは、福利厚生、人口統計、報酬などの幅広いカテゴリから月次および年次の評価指標データをインポートできます。この統合により、データ転送プロセスが安全かつ自動的に行われるため、HR、ESG、および IT チームの時間を節約できます。統合は、組織の要件に応じて構成することもできます。デフォルトでは、非アクティブ ステータスの 150 のメトリクス定義と、それに対応する 15 のレポートがユーザーに提供されます。Workday でレポートを構成するには、Now Support ナレッジベースの記事「[Workday ESG Integration Workday Reports' Configuration \(Workday レポートの構成\) \[KB1220842\]](#)」を参照してください。この記事では、メトリクスの定義と Workday レポート間のマッピングについても説明します。ESG アドミニストレータは、データが必要なメトリクスの定義を有効にする必要があります。得られたデータは、開示レポートに使用されます。

統合を使用して取得できるさまざまなタイプのレポートは次のとおりです。

- **ポイント・イン・タイム:** このタイプのレポートでは、特定の時点までのメトリック・データが取得されます。たとえば、2023 年 1 月 25 日などの特定の日付における組織内の雇用者数のデータを取得することができます。この場合、メトリクスの定義で頻度が **[年次]** に設定されていれば、2022 年 12 月 31 日までのデータをレポートに使用できます。
- **累積:** このタイプのレポートでは、特定の期間のメトリクスデータが取得されます。たとえば、2023 年の特定の四半期の雇用者数のデータを取得する場合があります。

Workday ESG 統合 のワークフロー

Workday から ESG Management にデータをインポートするには、一連のタスクを実行し、システムを適切に構成する必要があります。

統合のワークフローは次のとおりです。

1. ESG アドミニストレータは、Workday ESG 統合 プラグインをインストールし、次の操作を行います。
 - a. Workday アドミニストレータの助けを借りて接続と資格情報を作成します。
 - b. 必要なメトリクスの定義を有効にします。
2. Workday アドミニストレータは、Workday レポートを構成します。
3. アドミニストレータが Webhook 構成をオフボーディングします。
4. ESG アドミニストレータが Webhook レジストリを生成します。

5. システムアドミニストレーターは、必要なスケジュール済みジョブを実行します。
6. レポートの準備ができると、メトリクスの定義とそれに対応するデータがカンマ区切り値 (CSV) ファイルで使えるようになります。

Workday ESG 統合のインストール

admin ロールを持っている場合は、Workday ESG 統合 アプリケーション (sn_esg_workday) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「[ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得](#)」を参照してください。

ServiceNow 統合ハブエンタープライズパックインストーラー (com.glide.hub.integrations.enterprise) プラグインをアクティブ化します。

必要なロール：admin

このタスクについて

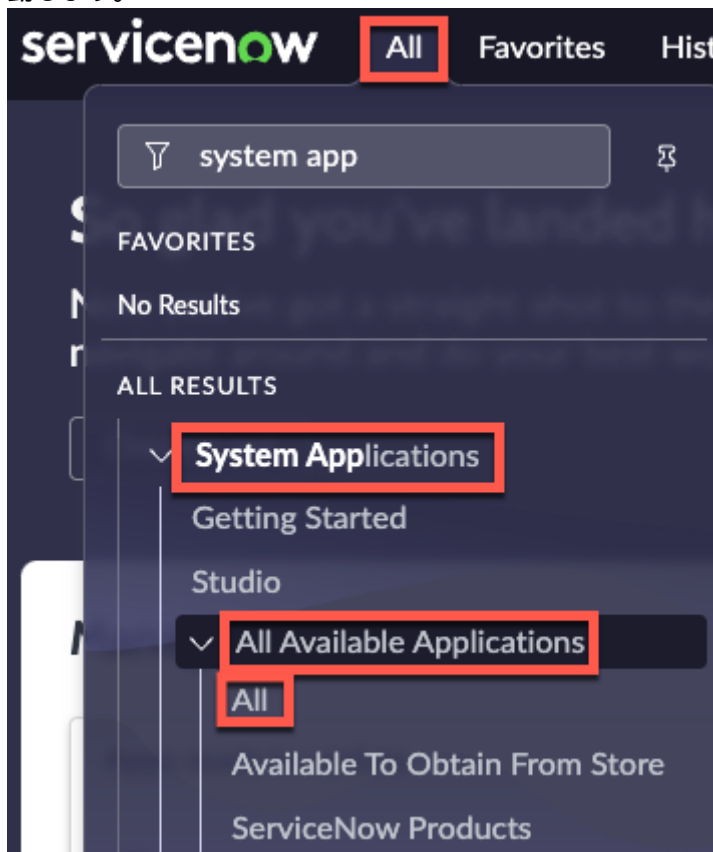
Workday ESG 統合 とともに次のアイテムがインストールされます。

- プラグイン
- ストアアプリケーション
 - 環境、社会、ガバナンス管理
 - GRC：プロファイル 依存 関係
 - GRC：ポリシーとコンプライアンス管理
 - GRC：メトリクス
 - ゴールフレームワーク
- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

詳細については、「[ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、Workday ESG 統合 アプリケーション (sn_esg_workday) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエントリメントを取得します。

5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。

デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

i 重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

Workday接続を作成

新しい接続を確立できるように、Workday ESG 統合 の接続および認証情報レコードを作成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG 管理の Workday 統合 > 接続および資格情報** エイリアス。
2. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、[新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクを選択します。
必須フィールドの情報を取得するには、Workday アドミニストレーターにお問い合わせください。
3. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報	
接続名	OAuth 接続の名前です。
接続 URL	Workday 接続 URL。
SOAP バージョン	で入手可能な Simple Object Access Protocol (SOAP) の最新バージョン Workday
テナント名	Workdayのテナント名。
認証情報	
認証情報名	OAuth 認証情報の名前。
OAuth クライアント ID	Workday で構成された OAuth クライアント ID。
OAuth クライアントシークレット	Workday で構成された OAuth クライアントシークレット。
OAuth リダイレクト URL	OAuth コールバックエンドポイント。このフィールドは自動的に設定されます。
認証 URL	Workday OAuth サーバーの認証コードフローエンドポイント。
トークン URL	Workday OAuth サーバーのトークンエンドポイント。

4. [OAuth トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果

[接続] 関連リストに新しい接続が作成されます。

次のタスク

Workdayレポートを構成します。Now Support ナレッジベースの Now Support ナレッジベース記事の「[Workday ESG Integration Workday Reports' Configuration \(Workday ESG 統合 Workday レポートの構成 \[KB1220842\]\)](#)」の記事を参照してください。

Workdayレポートをアクティブ化する

デフォルトで提供される各メトリクスの定義に対応する Workday レポートを有効にします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG 管理の Workday 統合 > Workday レポート**.
2. アクティブ化するレポートを選択して開きます。
3. [アクティブ] オプションを選択します。
4. [頻度] フィールドで、レポートを実行する頻度を選択します。
5. [更新] を選択します。

Webhook レジストリのユーザー名とパスワードの生成

ServiceNow インスタンスでユーザー名とパスワードを生成して、Webhook 要求を認証し、Workday アプリケーションから必要なメトリクスデータを取得します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 **すべて > 環境、社会、ガバナンス (ESG) > ESG 管理の Workday 統合 > Webhook レジストリ**.
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

Workday Webhook レジストリフォーム

Field (フィールド)	説明
名前	Webhook の一意の名前です。
Workday インスタンス URL	Workday ホスト URL とテナント名。この URL は、Workday アドミニストレーターによって提供されます。
ユーザー名	生成されるユーザー名。このフィールドは、ユーザー名とパスワードを生成すると自動的に設定されます。
パスワード	Workday インスタンスにログインするために生成されるパスワード。このフィールドは、ユーザー名とパスワードを生成すると自動的に設定されます。
ドメイン	レジストリが作成されるドメイン。このフィールドで [グローバル] を選択します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。

5. [ユーザー名とパスワードの生成] を選択します。

ユーザー名とパスワードの値をコピーして記録します。これらの値は、Webhook 要求を認証するために Workday インスタンスで指定する必要があります。

データを追跡するためのメトリクス定義のアクティブ化

データを追跡またはインポートするメトリクスの定義を有効にします。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin、sn_esg.program_manager

このタスクについて

Workday ESG 統合の一部として、デフォルトで 150 の自動メトリクスの定義が提供されます。自分に関連し、追跡したいメトリクスの定義を有効にする必要があります。たとえば、重要なロールの従業員数のメトリクスデータを追跡する場合は、この特定のメトリクスの定義をアクティブ化する必要があります。

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > ESG ワークスペース > リスト > 自動メトリクスの定義**.
2. 右上のフィルターアイコンを選択します。
3. [詳細ビュー] を選択します。
4. 詳細ビューのフィルター条件で、フィルターを追加するには、[**and**] を選択します。
5. ソース が **ESG Workday** である条件を作成します。
6. [更新] を選択します。
7. アクティブ化するメトリクスの定義を選択して開きます。
 - a. [詳細] 関連リストを選択します。
 - b. [説明] フィールドに、メトリクスの定義の簡単な説明を入力します。
 - c. [エンタープライズ所有者] フィールドで、エンタープライズ所有者を選択します。
 - d. [アクティブ] オプションを選択します。
 - e. [保存] を選択します。

タスクの結果

メトリクスの定義がアクティブになり、このメトリクスの定義からデータをインポートできます。

Workdayレポートのエンティティオンボーディングジョブを実行する

指定されたスケジュール済みジョブを実行して、Workday で追加された可能性のある新しいエンティティを取得します。このジョブを実行すると、エンティティマッピングテーブルが確実に更新されます。

始める前に

少なくとも 1 つ **Workday レポート** を有効にする必要があります。

必要なロール: admin

このタスクについて

Workday entity onboarding スケジュール済みジョブを実行すると、ジョブはシステム内で最初にアクティブ化されたレポートを使用して Workday を呼び出し Workday、アクティブ化されたレポート値とともに CSV ファイルのエンティティ ID を送信します。

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [検索] フィールドに「**Workday**」と入力します。
3. フィルタリングされた検索結果から、 *Workday entity onboarding* スケジュール済みジョブを選択して開きます。
4. [今すぐ実行] をクリックします。

Workdayデータインポートジョブの実行

ジョブで指定された頻度に基づいて、アクティブ化されたレポートのデータをプルする、スケジュール設定済みの統合ジョブを実行します。

始める前に

少なくとも 1 つ **Workday レポート** を有効にする必要があります。

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [検索] フィールドに「**Workday**」と入力します。
3. フィルタリングされた検索結果から、 *Workday data import* スケジュール済みジョブを選択して開きます。
4. [今すぐ実行] をクリックします。

Workdayオンデマンドジョブの実行

アドホック Workday オンデマンドデータインポートジョブを使用して、アクティブ化されたすべての Workday レポートのデータをプルします。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ.
2. [検索] フィールドに「**Workday**」と入力します。
3. フィルタリングされた検索結果から、 *Workday on-demand data import* スケジュール済みジョブを選択して開きます。
4. [今すぐ実行] をクリックします。

ESG Management との統合SAP Concur

この Concur の ESG 統合 を使用して、従業員が車、飛行機、電車出張するときの二酸化炭素排出量を計算します。これらの排出量を追跡することで、排出量を管理し、削減するために必要な措置を講じることができます。

出張は多くの組織にとって不可欠な要素です。しかし、そのような旅行はしばしば有害な温室効果ガスの排出につながります。SAP Concur は、支出管理プロセスを自動化する出張および経費管理ソリューションです。また、会計および財務管理ソフトウェアなどの他のエンタープライズシステムと統合して、出張および経費データの完全なビューを提供します。

Concur の ESG 統合を使用すると、従業員の出張が環境に与える影響をよりよく理解し、従業員がビジネス目的で飛行機、電車、または車で移動するときに発生する二酸化炭素排出量を計算できます。この情報は、組織が二酸化炭素排出量を削減し、環境的に持続可能な慣行を促進するための措置を講じるのに役立ちます。この統合を使用すると、スコープ 3 排出量計算のために従業員の出張データをインポートし、手動データ入力を回避できます。

排出量を追跡するために、デフォルトでは、次のメトリクス定義が非アクティブステータスで提供されます。

- 全社員が車で移動した合計距離
- 全社員が電車で移動した合計距離
- 全社員が飛行機で移動した総距離

必要なメトリクスの定義をアクティブ化する必要があります。必要な接続と認証情報を作成し、Webhook レジストリに登録すると、指定されたスケジュール済みジョブが実行され、Concur で旅行が作成または更新されるたびに、データが ESG Management にインポートされます。

Concur の ESG 統合 をインストールする

admin ロールを持っている場合は、Concur の ESG 統合 アプリケーション (sn_esg_concur) をインストールできます。このアプリケーションには、デモデータが含まれています。まだインストールされていない場合は、関連する ServiceNow® Store アプリケーションとプラグインをインストールします。

始める前に

- アプリケーションとその関連するすべての ServiceNow Store アプリケーションに有効な ServiceNow エンタイトルメントがあることを確認してください。詳細については、「[ServiceNow 製品またはアプリケーションのエンタイトルメントの取得](#)」を参照してください。

必要なロール：admin

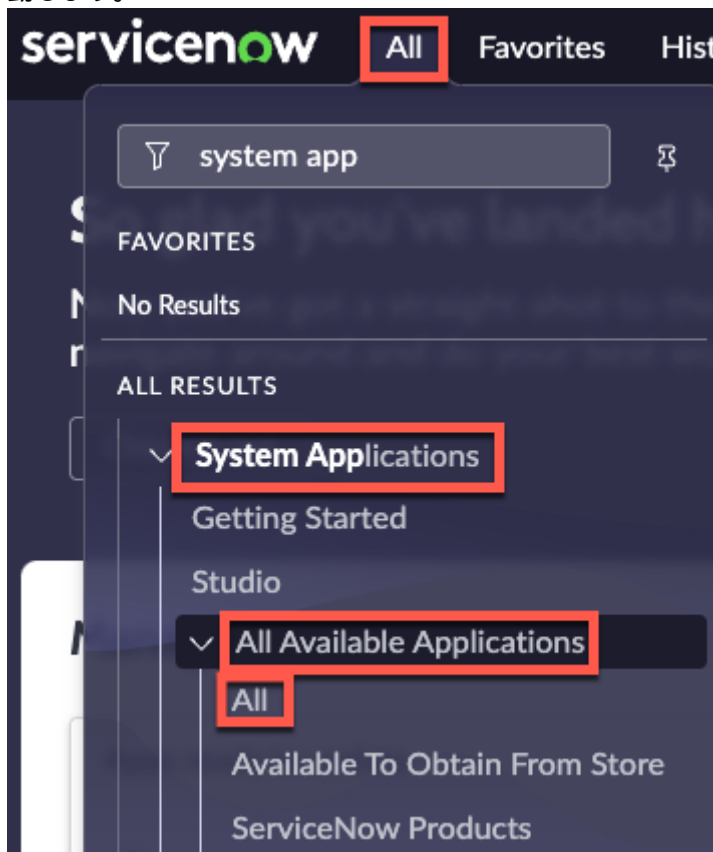
このタスクについて

Concur の ESG 統合 とともに次のアイテムがインストールされます。

- ロール
- スケジュール済みジョブ
- テーブル

手順

1. [すべて] > [システムアプリケーション] > [利用可能なすべてのアプリケーション] > [すべて]に移動します。



2. フィルター基準と検索バーを使用して、Concur の ESG 統合 アプリケーション (sn_esg_concur) を検索します。

名前または ID でアプリケーションを検索できます。アプリケーションが見つからない場合は、ServiceNow Store へのリクエストが必要になることがあります。

[インストール] ボタンの横のリストに、使用可能なバージョンが表示されます。

3. リストからバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

表示されるインストールダイアログボックスには、アプリケーションと併せてインストールされている依存関係が一覧表示されます。

4. プロンプトが表示された場合は、ServiceNow Store へのリンクに従って、依存関係のエントリメントを取得します。

5. オプション: 利用できるデモデータをインストールするには、[デモデータのロード] チェックボックスをオンにします。

デモデータには、一般的なユースケース向けのアプリケーション機能を説明するサンプルレコードが含まれています。開発またはテストインスタンスで初めてアプリケーションをインストールする場合は、デモデータを読み込みます。

i 重要: インストール時にデモデータを読み込んでおかないと、後から読み込むことはできません。

6. [インストール] を選択します。

SAP Concurメトリクス定義の有効化

排出量データを追跡するメトリクスの定義を有効にします。デフォルトでは、飛行機、車、電車で移動する従業員によって生成される排出量を追跡するために、3つのメトリクス定義が提供されます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **ESG** ワークスペース > リスト > 自動メトリクスの定義。
2. 右上のフィルターアイコンを選択します。
3. [詳細ビュー] を選択します。
4. 詳細ビューのフィルター条件で、フィルターを追加するには、[**and**] を選択します。
5. ソース が **ESG SAP Concur** である条件を作成します。
6. [更新] を選択します。
7. アクティブ化するメトリクスの定義を選択して開きます。
 - a. [詳細] 関連リストを選択します。
 - b. [アクティブ] オプションを選択します。
 - c. [保存] を選択します。

SAP concur イベントサブスクリプションサービスの接続を作成

新しい接続を確立できるように、Concur の ESG 統合 の接続および認証情報レコードを作成します。

始める前に

必要なロール:sn_esg.admin

手順

1. 移動先 すべて > **Environmental, Social, and Governance** > **SAP Concur** > 接続および認証情報 エイリアス。
2. [SAP Concur Event Subscription Service] を選択します。
3. [接続および資格情報エイリアス] フォームで、[新しい接続および資格情報の作成] 関連リンクを選択します。
必須フィールドの情報を取得するには、Concur アドミニストレーターにお問い合わせください。
4. フォームのフィールドに入力します。

接続と資格情報フォームを作成

フィールド	説明
接続情報	
名前	OAuth 接続の名前です。
接続 URL	Concur 接続 URL。
バージョン	API のバージョン。このフィールドは自動的に v4 に設定されます。
認証情報	

フィールド	説明
トークン URL	Concur OAuth サーバーのトークンエンドポイント。
クライアント ID	Concur で構成された OAuth クライアント ID。
クライアントシークレット	Concur で構成された OAuth クライアントシークレット。

5. [OAuth トークンを作成して取得] を選択します。

タスクの結果

OAuth トークンが正常に作成されました。

SAP Concur Webhook レジストリを作成する

SAP Concur で出張が作成または変更されるたびに通知されるように、Webhook レジストリを作成します。

始める前に

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 **すべて > Environmental, Social, and Governance > SAP Concur > Webhook** レジストリ。
2. [新規] を選択します。
3. フォームのフィールドに入力します。

SAP Concur Webhook レジストリフォーム

Field (フィールド)	説明
名前	レジストリの名前。たとえば、ESG 統合などです。
パス	このフィールドは自動的に設定されます。
トークン	トークンを選択します。

4. フォームヘッダーを右クリックし、[保存] を選択します。
5. [コールバック URL] を選択します。
6. 生成された URL をコピーします。
7. [送信] を選択します。

Webhook サブスクリプションの作成

Webhook は、2 つのアプリケーション間の通信を簡素化するために使用されます。Webhook を介して Concur に接続するための Webhook サブスクリプションを作成します。

始める前に

必要なロール： sys_admin

手順

1. 移動先 **すべて > プロセスの自動化 > Flow Designer**.
2. [アクション] を選択します。
3. [検索] フィールドを使用して、「Webhook サブスクリプションの作成」を検索します。
4. [Webhook サブスクリプションの作成] を選択します。
5. [Test] をクリックします。
6. [テストアクション] ダイアログボックスで、フィールドに入力します。
 - a. [名前] フィールドにテストの名前を入力します。
名前にスペースや特殊文字が含まれていないことを確認します。
 - b. [エンドポイント] フィールドに、SAP Webhook レジストリを作成したときに生成した URL を貼り付けます。
 - c. [トピック] フィールドで、[Public.concur.travel.itinerary] を選択します。
 - d. [テストを実行] をクリックします。

エンティティオンボーディングジョブを実行する SAP Concur

指定されたスケジュール済みジョブを実行して、Concur で追加された可能性のある新しいエンティティを取得します。このジョブを実行すると、エンティティマッピングテーブルが確実に更新されます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ**.
2. **SAP Concur** エンティティオンボーディングスケジュール済みジョブを検索します。
3. [今すぐ実行] をクリックします。

SAP Concur出張データのインポートスケジュール済みジョブを実行

出張データのインポートスケジュール済みジョブを実行して、Concurから出張データを取得します。出張データは、移動距離、出張の開始日と終了日などの詳細で構成されます。このジョブは自動的に実行されますが、手動で実行することもできます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて > システム定義 > スケジュール済みジョブ**.
2. **SAP Concur** 出張データインポートスケジュール済みジョブを検索します。
3. [今すぐ実行] をクリックします。

データインポート SAP Concur スケジュール済みジョブを実行

データインポートのスケジュール済みジョブは毎月自動的に実行されますが、手動で実行することもできます。このジョブが実行されると、出張終了日に基づいて SAP Concur 出張データステージングテーブルのデータが集計され、それぞれのメトリクス定義のメトリクスデータが作成されます。

始める前に

必要なロール：admin

手順

1. 移動先 **すべて** > システム定義 > スケジュール済みジョブ。
2. **SAP Concur** データインポートスケジュール済みジョブを検索します。
3. [今すぐ実行] をクリックします。

ESG ワークスペース の概要ページ

ESG ワークスペース では、レコードの概要ページに基づいて、さまざまなダッシュボードと関連データを表示できます。表示されるデータは、ユーザーのユーザーロールに基づきます。

ESG ワークスペース の目標の概要

目標とは、ESG イニシアチブに影響を与えるために組織が自ら設定する目的のことです。特定した重要なトピックに向けての進捗状況を追跡する際に役立ちます。

目標を作成すると、目標の概要ページに、目標の関連情報すべての概要が表示されます。目標の目標概要ページを表示するには、次の場所に移動します。 **ESG ワークスペース** > プログラムのセットアップ > 目標。その後、情報を表示する目標を選択して開くことができます。

このページには、次のセクションが表示されます。

- 説明
- 追跡中
- プロジェクトポートフォリオ管理 と統合している場合は、プログラム/プロジェクト。
- Integrated Risk Management と統合している場合は、リスクおよびコンプライアンス体制。
- 目標とターゲット階層

次の画像は、単一の目標の概要ページを示しています。

[目標の概要] ページ

100% Carbon Neutral by 2025

Classification Status Owner State
Environmental Green Karla Ken In Progress

Overview Details Programs/Projects Material Topics (2) Entities (1) Sub-goals (3) Targets (1) Metric Definitions (4) more ▾

Description

100% Carbon Neutral by 2025

Direct view ▾

Tracking

In-scope entities



Goals summary

Total sub-goals

3

Complete On track At risk Off track

0 3 0 0

Targets summary

Total targets

1

Complete On track At risk Off track

0 1 0 0

Open metrics

Total Due in 30 da...

4 0

Overdue

0

Programs/Projects

Programs/Projects	Type	Description	State	Mani
Project: Milestones for net-zero carbon	Project	Milestones for net-zero carbon	Open	Chris
Program: Sustainability program: Ne...	Program	Sustainability program: Net zero acro...	Work in Progress	Ailee
Project: Carbon Neutral Supply Chain	Project	Carbon Neutral Supply Chain	Work in Progress	Chris
Project: Carbon Offset	Project	Carbon Offset	Work in Progress	Paul
Project: Carbon Neutral Facilities	Project	Carbon Neutral Facilities	Work in Progress	Paul

Showing 1-5 of 5

1

5 rows per page

Programs/Projects due in 30, 60, 90 days



No data available

There are no scores available for the indicator or for the selected criteria. Contact your ServiceNow administrator for more information.

Risk and Compliance Posture

Policy compliance



No data available

There are no scores available for the indicator or for the selected criteria. Contact your ServiceNow administrator for more information.

Control compliance



No data available

There are no scores available for the indicator or for the selected criteria. Contact your ServiceNow administrator for more information.

Risk profile



Open control issues

Total Due in 30 days

0 0

Overdue

0

説明

このセクションには、目標の説明が表示されます。たとえば、「2025 年までに 100% のカーボンニュートラルを目指す」。

追跡中

目標を作成するときに、エンティティを目標に関連付けて追跡を有効にすることができます。次のセクションを表示できます。

- スコープ内エンティティ：エンティティを関連付けることで、目標の担当者を識別できます。このセクションには、目標に関連付けられたエンティティの数が表示されます。
- 目標サマリー：目標に関連付けられたサブ目標の合計数を表示します。このセクションには、完了した目標の数、オントラックの目標の数、リスクありの目標の数、およびオフトラックの目標の数も表示されます。

- ターゲットのサマリー：ターゲットの合計数を表示します。このセクションには、完了したターゲットの数、オントラックのターゲットの数、リスクありのターゲットの数、およびオフトラックのターゲットの数も表示されます。
- 測定基準：目標に関連付けられたさまざまな測定基準を表示します。30 日以内に期限が到来する測定基準の数と期限切れの測定基準の数を表示することもできます。

追跡セクションをフィルタリングして、目標のデータのみを表示できます。ロールアップビューを表示して、すべてのサブ目標のデータを表示できます。デフォルトのビューは、ロールアップビューです。

プログラム/プロジェクト

プログラムとプロジェクトのセクションは、プロジェクトポートフォリオ管理 と統合する場合にのみ表示されます。このセクションには、目標に関連付けられたプロジェクトとプログラムが表示されます。これらのプロジェクトとプログラムのマネージャーとステータスを確認できます。

リスクとコンプライアンス体制

リスクとコンプライアンス体制のセクションは、Integrated Risk Management と統合する場合にのみ表示されます。このセクションには、次の情報が表示されます。

- ポリシーコンプライアンス：準拠しているポリシーと準拠していないポリシーのステータス。
- コントロールコンプライアンス：準拠しているコントロールと準拠していないコントロールのステータス。
- リスクプロファイル：リスクアセスメントに基づく目標のリスクステータス。
- 未解決のコントロールの問題：目標に関連する未解決の問題の数。

目標とターゲット階層

コンテキストサイドパネルには、メイン目標、関連するサブ目標、およびそれらのステータスが表示されます。

ESG ワークスペース での開示の概要

ESG ワークスペース 内の開示レコードの [概要] タブは、さまざまなユーザーが開示のステータスとサマリーを表示するために設計されています。

新しい ESG ワークスペース は、日常的なタスクを実行しやすくするために拡張されています。ワークスペースのリストビューには、すべてのモジュールの簡易リストが表示されます。開示にアクセスするには、リストビューで [開示] に移動します。

リストビューで開示をクリックすると、開示の詳細が表示されます。上部のセクションには、開示のタイトル、開示のタイプ、そのステータス、および開示がアサインされている所有者が表示されます。

[開示の概要] タブのセクション

[開示の概要] タブには次のセクションが表示されます。

- ステータス
- 開示サマリー

[開示の概要] タブ

Just 100 disclosure

State: Draft

Disclosures: DISC0010041

Save Move to Work in Progress

Overview Details Approvals Metric Definitions (4) Metrics Related Documents

State: Draft In progress Work in Progress Learning Review Upcoming Completed Upcoming

Disclosure Summary

Period 1

From: 01/01/2020 To: 31/12/2020

Metric	Period 1	Unit
Charitable causes supported	500	#
Corporate grants	308000	\$
Employee donation participation	22	%
Employee donations	308000	\$

Showing 1-4 of 4 rows per page

Compose

Work notes (Private) Comments

Type your Work notes (Private) here

Post Work notes (Private)

Activity

Alfonso Origen

01/12/2020 09:13:41 - First changes

State: Draft

Attachments

No Attachments Available

Browse for a file to add it as an attachment.

Browse

[ステータス (State)] セクションには、開示のステッパーコンポーネントが表示されます。ステッパーコンポーネントには、[ドラフト]、[対応中]、[レビュー]、[完了] などの開示のさまざまなステータスの完了が表示されます。

[開示サマリー] セクションには、開示に記載されている目標が表示されます。各目標レコードには、開示に関連付けられた測定基準、期間、および単位が表示されます。たとえば、特定の組織の開示に記載されている目標が、2025 年までにカーボンフットプリントを削減し、100% のカーボンニュートラルを達成することであるとします。この目標を測定する測定基準は、スコープ 1 の GHG 排出量で定義された基準です。この測定基準を測定する単位は、指定された期間にわたる測定基準単位の二酸化炭素換算トンです。

開示のデータを Excel スプレッドシートにエクスポートする場合は、[開示サマリー] セクションで **[Excel へのエクスポート]** をクリックします。

ESG Management の参照

以降のセクションでは、ESG Management アプリケーションとともにインストールされるロール、テーブル、およびプロパティを示します。

ESG Management とともにインストールされるコンポーネント

ロール、テーブル、プロパティなどのいくつかのタイプのコンポーネントが、ESG Management アプリケーションおよび GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされます。

ロール

次のロールが ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

- 注:** GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるテーブルとロールについては、「[GRC：メトリクス アプリケーションとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

ESG Management とともにインストールされるロール

ロール	説明	特権	次の値を含む
sn_esg.admin	アプリケーション内のすべてのアイテムを管	このロールを持つユーザーは、以下の書き込	sn_esg.program_manager、sn_esg.in

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	次の値を含む
	理し、ESG 統合のセットアップを構成します。	み、読み込み、更新、および削除を実行できます。 • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • 測定基準のデータタスク • 開示 • 各種法令・基準等 • 引用 • ESG Content Accelerator アプリケーションからの引用とメトリクスの定義 • リスクアセスメント要素 • リスクアセスメント方法論の更新と公開 • 排出アクティビティ • 排出アクティビティソース • 排出係数 • 排出係数のロケーション スコープ 3 排出量がインストールされている場合、このロールは次の読み取り、書き込み、更新、および削除を実行できます。 • スコープ 3 排出カテゴリの種類 • モデル別のサプライヤー排出量 • インフレ要因	ESG Risk Management プラグインが有効になっている場合は、sn_risk_advanced.ara_admin ロールと sn_risk.manager ロールがインストールされます。com.snc.multiprovider_documents プラグインが有効になっている場合は、mp_document_user ロールが追加されます。

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	次の値を含む
		これらのユーザーは、 <i>sn_esg_scope3.historical_years_selector</i> システムプロパティを読み取って更新でき、 スコープ3 ダッシュボードにアクセスできます。	
sn_esg.metrics_manager	ESG ワークスペースの測定基準を管理します。	このロールを持つユーザーは、以下を読み込むことができます： • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準データ • メトリクスデータタスク • 各種法令・基準等 • 引用 これらのユーザーは、メトリクスおよびメトリクス定義の読み取り、書き込み、および更新を行うことができます。これらのユーザーは、自分が作成したメトリクスの定義とメトリクスのみを削除できます。	sn_esg.reader、sn_grc_metric.manager
sn_esg.reporting_disclosure_manager	ESG ワークスペースで開示レポートを管理します。	このロールを持つユーザーは、以下を読み込むことができます： • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • メトリクスデータタスク • 各種法令・基準等 • 引用	sn_esg.internal_disclosure_manager、com.snc.multiprovider_documents プラグインが有効になっている場合は、mp_document_user ロールが追加されます。

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	次の値を含む
		• スコープ 3 排出カテゴリの種類 • モデル別のサプライヤー排出量 • インフレ要因 これらのユーザーは、開示の読み取り、書き込み、および更新を実行できます。これらのユーザーは、自分が作成した開示のみを削除できます。	
sn_esg.data_owner	アサインされたメトリクスデータタスクに入力を提供するデータ所有者ロール。	このロールを持つユーザーは、以下を読み込むことができます： • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • メトリクスデータ • 各種法令・基準等 • 引用 これらのユーザーは、測定基準データタスクの読み取りと更新を実行できます。	sn_grc_metric.user、workspace_user ESG Risk Management プラグインが有効になっている場合は、sn_risk_advanced.ara_assessor ロールsn_risk.reader ロールがインストールされます。
sn_esg.program_manager	ESG プログラムの開発、実装、およびレポートの実行と管理をサポートします。	このロールを持つユーザーは、以下の書き込み、読み込み、更新、および削除を実行できます。 • 重要なトピック • 目標 • ターゲット • 測定基準の定義 • 測定基準 • 測定基準データ • メトリクスデータタスク	sn_esg.reader、sn_gf.epmo_strategy ESG Risk Management プラグインが有効になっている場合は、sn_risk.reader sn_risk_advanced.ara_approver、sn_risk.writer ロールがインストールされます。

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	次の値を含む
		• コンテンツアクセラレータ • 排出アクティビティ • 排出アクティビティソース • 排出係数 • 排出係数のロケーション • スコープ 3 排出カテゴリの種類 • モデル別のサプライヤー排出量 • インフレ要因 これらのユーザーは、権限文書、引用、フレームワークステータス、GRI 引用、測定基準定義、SASB 引用、TCFD 引用、UN SDG 引用、スコープ 3 ダッシュボード、インフレ要因を読むことができます。 ESG Content Accelerator、アプリケーションがインストールされている場合、これらのユーザーは排出アクティビティソース、排出アクティビティ、排出係数の場所、排出単位、および開示を読み取ることができます。排出アクティビティの場所を読み取り、更新できます。 また、自分が作成したメトリクスとメトリクスの定義のみを削除することもできます。 システムプロパティスコープ 3 ダッシュボードの履歴年セクター	

ESG Management とともにインストールされるロール (続く)

ロール	説明	特権	次の値を含む
		を読み取って更新できます。	
sn_esg_risk_mgmt.risk_mgmt_scope	ESG Scope メインでリスクアセスメントを管理します。 i 注: このロールは、sn_esg_risk_mgmt がインストールされ、アクティブ化されている場合にのみ使用できます。	このロールを持つユーザーは、次のタスクを実行できます。 - リスクフレームワークの作成 - リスクステートメントを作成します。 - リスクを作成します。 - リスクを生成するリスクスコープを作成 - リスクアセスメントを開始 - リスクアセスメントを承認	sn_risk.manager

テーブル

次のテーブルが ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

ESG とともにインストールされるテーブル

テーブル	説明
重要なトピック [sn_esg_material_topic]	ESG の重要な問題を定義する重要なトピック
単位ファミリー [sn_grc_metric_unit_family]	ユニットの分類とグループ化
単位変換 [sn_grc_metric_unit_conversion]	開始単位と終了単位の単位変換値を設定
排出アクティビティ [sn_esg_emission_activity]	排出アクティビティは、排出につながるアクティビティです。
排出係数 [sn_esg_emission_factor]	排出係数とは、アクティビティデータを温室効果ガス (GHG) 排出量に変換するための係数です。
排出係数のロケーション	ロケーションレベルで排出係数をキャプチャする場合

ESG とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
[sn_esg_emission_factor_location]	
目標へのメトリクス [sn_esg_m2m_metric_goal]	メトリクスと目標の関連性
ターゲットに向けたメトリクス [sn_esg_m2m_metric_target]	メトリクスとターゲットの関連性
目標に向けた重要なトピック [sn_esg_m2m_material_topic_goal]	重要なトピックと目標の間の関連性
開示への目標 [sn_esg_m2m_goal_disclosure]	目標と開示の関連性
信頼できるソースコンテンツの目標 [sn_esg_m2m_goal_citation]	目標と引用の関連性
目標へのエンティティ [sn_esg_m2m_entity_goal]	エンティティと目標の間の関連性
開示のためのメトリクス [sn_esg_m2m_disclosure_metric]	メトリクスと開示の関連性
開示のためのメトリクスの定義 [sn_esg_m2m_disclosure_metric_definition]	メトリクスの定義と開示の関連性
関連 URL [sn_grc_metric_data_task_url]	データタスクの関連ドキュメントおよびリソースをアップロードするために使用されます。
しきい値 [sn_grc_metric_threshold]	測定基準ターゲットの達成された進捗状況を測定するために使用されるしきい値。このテーブルは sn_grc_metric_metric_threshold の親テーブルです。
メトリクスのしきい値 [sn_grc_metric_metric_threshold]	sn_grc_metric_metric_threshold の親テーブル

ESG とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
開示サマリー [sn_esg_disclosure_summary]	開示に関連付けられた関連情報 (信頼できるソースコンテンツ、測定基準、測定基準データなど) を表示する開示サマリーレポート。毎日のスケジュール設定済みジョブによって更新されます。
開示 [sn_esg_disclosure]	会社のE、S、Gデータの開示。
関連ドキュメント [sn_esg_disclosure_url]	開示に関連付けられた関連ドキュメントのURL。
目標アクティビティサマリー [sn_esg_goal_activity_summary]	関連情報を要約形式で表示する目標アクティビティサマリーレポート。スケジュール設定済みジョブによって更新されます。
ゴールサマリー [sn_esg_goal_summary]	関連するサブ目標およびターゲット情報を伴うトップレベルの目標情報
ヒートマップチャートの色 [sn_esg_heatmap_chart_color]	ESG プログラムマネージャーはヒートマップチャートの色を構成可能
ポリシーとコンプライアンス管理 がインストール済みである場合	
目標に向けたコントロール [sn_esg_m2m_control_goal]	目標とコントロールの関連性
目標に向けたコントロール目標 [sn_esg_m2m_control_obj_goal]	コントロール目標と目標の関連性
開示に向けた信頼できるソースコンテンツ [sn_esg_m2m_disclosure_citation]	信頼できるソースコンテンツと開示の関連性
目標に向けたポリシー [sn_esg_m2m_policy_goal]	ポリシーと目標の関連性
信頼できるソースコンテンツのためのベースメトリクスの定義 [sn_esg_m2m_base_metric_definition_citation]	ベースメトリクスの定義と引用の関連性

ESG とともにインストールされるテーブル (続く)

テーブル	説明
ターゲットに向けたベースメトリクスの定義 [sn_esg_m2m_base_metric_definition_target]	ベースメトリクスの定義とターゲットの間の関連性
目標に向けたベースメトリクスの定義 [sn_esg_m2m_base_metric_definition_goal]	ベースメトリクスの定義と目標の関連性
Integrated Risk Management がインストール済みである場合	
ゴールに対するリスク [sn_esg_m2m_risk_goal]	リスクと目標の関連性
ゴールに対するリスクステートメント [sn_esg_m2m_risk_statement_goal]	リスクステートメントと目標の関連性
ポリシーとコンプライアンス管理 がインストール済みである場合	
信頼できるソースコンテンツに対するメトリクス [sn_esg_m2m_metric_citation]	メトリクスと引用の関連性

プロパティ

次のプロパティが ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

ESG とともにインストールされるプロパティ

名前	説明
glide.ui.sn_esg_disclosure_activity.fields	開示アクティビティフォーマッターフィールド。
glide.ui.sn_esg_material_topic_activity.fields	重要なトピックのアクティビティフォーマッターフィールド。
sn_esg.metric_approval	ESG アドミニストレーターが、すべてのメトリクスおよびメトリクス定義に対して、簡単な承認フローまたは高度な承認フローのいずれかを定義できるようにします。 i 注: このプロパティは、sn_grc_appr プラグインがアクティブ化されている場合にのみ使用でき、ESG Management アプリケーションの構成時に設定する必要があります。 選択肢は次のとおりです。 • シンプル:このオプションを選択すると、手動メトリクスの定義フォームとメトリクスの両方で [承認] セクションが有効になります。

ESG とともにインストールされるプロパティ (続く)

名前	説明
	このセクションを使用して、測定基準の定義フォームで承認者を直接指定することができます。 詳細:このオプションを選択すると、手動メトリクスの定義フォームとメトリクスフォームで [承認] セクションが使用できなくなります。代わりに、GRC: Approver Configurator アプリケーションで承認条件、テーブル、および承認者を設定することで、承認を構成できます。このアプリケーションでは、複数レベルの承認を定義することもできます。詳細については、「承認コンフィギュレーターを使用した承認の設定」を参照してください。
sn_esg_scope3.historical_years_selector	スコープ 3 ダッシュボードにデータを表示する履歴年数を設定できます。

スケジュール済みジョブ

次のスケジュール済みジョブは、ESG Management アプリケーションとともにインストールされます。

ESG とともにインストールされるスケジュール済みジョブ

名前	Description (説明)
ESG 目標サマリーの生成	このジョブは毎日午前 12 時に実行されます。このジョブは、既存のすべての目標サマリーをクリアし、「環境、社会、ガバナンス」として分類されたすべてのアクティブな目標の新しい目標サマリーを作成します。
ESG 開示サマリーを生成	このジョブは毎日午前 12 時に 1 回実行されます。このジョブは、既存のサマリーを削除し、目標、引用、メトリクスなどのすべてのタイプの開示の開示サマリーを作成します。
ESG ライセンス数の計算	このジョブは毎日午後 11 時に実行されます。これは、ドメイン領域が ESG であるベースメトリクス定義のアクティブデータに基づいてライセンスを計算します。
ESG 目標アクティビティサマリーの生成	このジョブは 12 時間ごとに定期的に実行されます。このジョブは、既存の目標アクティビティサマリーを削除し、「環境、社会、ガバナンス」に分類されたすべての目標について新しい目標アクティビティサマリーを作成します。

とともにインストールされるロール ゴールフレームワーク

ゴールフレームワーク プラグインを有効にすると、いくつかのロールがインストールされます。

インストールされるロール

ロール	説明	ロールを含む
sn_gf.goal_user_read	目標を表示できます。このロールは、プロジェクトユーザーやデマンドユーザーなどのユーザーに付与できます。	なし
sn_gf.goal_user	目標、サブ目標、および関連するターゲットを作成、表示、編集、および削除できます。 i 注: - 目標やサブ目標は、sn_gf.allow_goal_deletion システムプロパティが [はい] に設定されている場合に、所有者および貢献者のみが削除できます。 - 関連ターゲットは、sn_gf.allow_goal_deletion システムプロパティが [はい] に設定されている場合に、所有者および貢献者のみが削除できます。 - 目標またはターゲットは、目標とターゲットのそれぞれの所有者と貢献者のみが編集できます。	sn_gf.goal_user_read
sn_gf.goal_admin	目標設定を更新できます。	- sn_gf.goal_user_read - sn_gf.goal_user
sn_gf.strategy_planner_read	すべての戦略的計画と戦略値を表示できます。	なし
sn_gf.strategy_planner	戦略的計画と戦略値を作成、表示、編集、および削除できます。 i 注: - 戦略的計画は、戦略的計画の所有者とスポンサーのみが編集できます。 - 戦略値は、戦略計画のスポンサーのみが編集できます。	sn_gf.strategy_planner_read
sn_gf.epmo_strategy_planner	任意の目標を作成、表示、編集、および削除できます。	- sn_gf.goal_user_read - sn_gf.goal_user - sn_gf.goal_admin - sn_gf.strategy_planner

ドメインセパレーションと ESG Management

ESG Management ではドメインセパレーションがサポートされています。ドメインセパレーションでは、データ、プロセス、および管理タスクをドメインと呼ばれる論理的なグループに分けることができます。どのユーザーがデータを表示できるか、データにアクセスできるかなど、このアプリケーションのいくつかの側面を制御できます。

サポートレベル：ベーシック

- アプリケーションサービスプロバイダーのユースケースに合わせてデータが適切なドメインに送られるようにするビジネスロジックが存在します。
- このアプリケーションは、ドメインセパレーションを完全にサポートしています。ドメインセパレーションには、ユーザーインターフェイス、キャッシュキー、レポート、ロールアップ、および集計からのドメインの分離が含まれます。
- インスタンスのオーナーは、複数のテナント間で正常に機能するようにアプリケーションをセットアップする必要があります。

サンプルユースケース：サービスプロバイダーがチャットを使用してテナント顧客のメッセージに回答する場合、お客様がサービスプロバイダーの応答を確認できるようにする必要があります。

サポートレベルの詳細については、「[アプリケーションでのドメインセパレーションのサポート](#)」を参照してください。

ドメインセパレーションの概要

ドメインセパレーションは、次のユーザーに役立ちます：

- ビジネスエンティティ間で絶対的なデータ分離を適用します (データ分離)。
- 各ドメインのビジネスプロセス定義とユーザーインターフェイスをカスタマイズする (委任管理)。
- 単一のインスタンスでグローバルなプロセスとグローバルなレポートを維持する。

これらのユーザーは、ドメインスコープを展開するか折りたたんで、他のドメインからのデータを表示または非表示にすることができます。

- i** 注：ユーザーは、ドメインの可視化によって明示的に付与されたドメインのデータに常にアクセスできます。

ESG Managementにおけるドメインセパレーションの仕組み

ESG Managementはデータの分離をサポートしていますが、ロジックおよびプロセスの分離を完全にはサポートしていません。ESG Management アプリケーション内のタイプのレコードの多くは、ユーザープロセスによって自動的に生成されます。プロジェクトポートフォリオ管理 および GRC：メトリクス との統合により、データを自動的に作成して関連付けることができます。自動および手動で生成されたレコードの場合、レコードのドメインは、レコードの作成または生成を担当するユーザーのドメインと同じです。ユーザーは、適切なドメインレベルでレコードを作成および生成して、それらが適切なユーザーセットに表示されるようにする必要があります。

たとえば、次のようなドメインがあるとします。

- グローバル
 - 最高
- 1. ドメイン A
- 2. ドメイン B

ドメイン A および B のユーザーによる評価が必要な ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットがある場合は、グローバルレベルで ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットを手動で作成する必要があります。ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットがドメイン B で作成されている場合、インデックス作成のためにそれらをドメイン A で使用することができなくなります。

トップおよびドメイン A のユーザーによる評価が必要な ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットが存在する場合は、ドメイン A でリスクまたはコントロールを作成できます。ESG の目標、重要なトピック、およびターゲットがグローバルドメインにない限り、ユーザーは上位ドメインのリスクまたはコントロールを、下位ドメインのユーザーにアサインしないでください。この例では、トップドメインに ESG の目標が存在する場合に、ドメイン A または B のプログラムマネージャーにその目標をアサインしないでください。これらのユーザーはこの目標へのアクセス権を持っていません。

ドメインセパレーションテーブル

ドメインセパレーションテーブルのリストは次のとおりです。

- 開示
- 開示サマリー
- 目標アクティビティサマリー
- ヒートマップチャートの色
- 信頼できるソースコンテンツのための複合測定基準の定義
- 目標に向けた複合測定基準の定義
- ターゲットに向けた複合測定基準の定義
- 目標に向けたコントロール
- 目標に向けたコントロール目標
- 開示に向けた信頼できるソースコンテンツ
- 開示のための測定基準
- 開示のための測定基準の定義
- 目標へのエンティティ
- 信頼できるソースコンテンツの目標
- 開示への目標
- 目標に向けた重要なトピック
- 信頼できるソースコンテンツに対する測定基準
- 信頼できるソースコンテンツのための測定基準の定義
- 目標に向けた測定基準の定義
- ターゲットに向けた測定基準の定義
- 目標への測定基準
- ターゲットに向けた測定基準
- 目標に向けたポリシー
- 目標に対するリスク
- 目標に対するリスクステートメント
- 重要なトピック

これらのテーブルの詳細については、「[ESG Managementとともにインストールされるコンポーネント](#)」を参照してください。

ユースケース

ESG データは他の部門のデータから分離できます。ESG Management アプリケーションを使用している各ビジネスエリアは、他の部門と共有できない分離データを保有できます。したがって、各部門は独自の目標、ターゲット、重要なトピックなどを持つことができます。ESG ドメインからの目標を調べる場合、ユーザーはドメインスコープを展開して ESG ドメインの値を表示するか、ドメインスコープを折りたたんで ESG ドメインに一致する目標のみを表示するかを選択できます。デフォルトでは、ドメインセパレーションは、タスク [task] および構成アイテム [cmdb_ci] テーブルとその拡張に、ドメインフィールドを追加します。sys_domain フィールドをテーブルの辞書定義に追加することで、作成する任意の新しいテーブルにドメインセパレーションを拡張することができます。デフォルトでは、システム専用ドメインは、適切な場合に、プラットフォームとベースラインアプリケーションテーブルを分離します。

i 注: ServiceNow® では、予期しない結果が生じる可能性があるため、辞書エントリ [sys_dictionary] テーブルや辞書エントリ上書き [sys_dictionary_override] テーブルなど、sys_ プリフィックスを持つテーブルなどのプラットフォームテーブルをドメインセパレーションすることはお勧めしません。

このユースケースでは、クライアントスクリプト、ビジネスルール、ワークフロー、プロセスなどをドメインセパレーションできます。ドメインセパレーションでの動作がマルチテナントのサポートを提供している間は、マルチテナントはまだ単一のインスタンス内に含まれています。つまり、一部のグローバルプロパティ、グローバルデータ、およびグローバルプロセスは、すべてのドメインで共有されます。たとえば、ログインページのシステムの [記憶する] オプションはグローバルであり、ドメインごとに指定できません。すべてのシステムのプロパティを完全に分離する必要があり、グローバルレポートまたはグローバルプロセスを必要としない場合、インスタンスの分離が最適なオプションです。

関連情報

[サービスプロバイダーのドメインセパレーション](#)